

# 琵琶湖博物館業績目録

12号

2007年度



LAKE BIWA MUSEUM  
琵琶湖博物館

***Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 12***

*From April 2007 to March 2008*

*Edited by the Lake Biwa Museum (Chief editor: SATOYUCHI, Yasufumi)*

*Published by the Lake Biwa Museum*

*Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan*

*© Lake Biwa Museum, August 2008*

*All rights reserved*

琵琶湖博物館業績目録

第 12 号

2007 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2008 年 8 月



## 目 次

収録内容	3
<b>館長</b>	
川那部 浩哉	KAWANABE, Hiroya .....5
<b>上席総括学芸員</b>	
布谷 知夫	NUNOTANI, Tomoo ..... 8
中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo ..... 15
前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi .....18
<b>環境史研究担当</b>	
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi ..... 23
山川千代美	YAMAKAWA, Chiyomi ..... 27
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori ..... 30
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi ..... 32
宮本 真二	MIYAMOTO, Shinji ..... 36
榊永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro ..... 40
楊 平	YOU, Hei ..... 43
<b>生態系研究担当</b>	
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark J. .... 45
小川 雅広	OGAWA, Masahiro ..... 49
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki ..... 52
亀田佳代子	KAMEDA, Kayoko ..... 55
孝橋 賢一	KOUHASHI, Kenichi ..... 59
臼井 学	USUI, Manabu ..... 61
西村 知記	NISHIMURA, Tomoki..... 63
草加 伸吾	KUSAKA, Shingo ..... 65
楠岡 泰	KUSUOKA, Yasushi ..... 68
中井 克樹	NAKAI, Katsuki ..... 72
牧野 厚史	MAKINO, Atsushi ..... 77
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki ..... 80
大塚 泰介	OTSUKA, Taisuke ..... 83
スミス, ロビン J.	SMITH, Robin James ..... 87
<b>博物館学研究担当</b>	
用田 政晴	YODA, Masaharu ..... 90
秋山 廣光	AKIYAMA, Hiromitsu ..... 93
松田 征也	MATSUDA, Masanari ..... 94
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro ..... 99
戸田 孝	TODA, Takashi ..... 103
芦谷美奈子	ASHIYA, Minako..... 106

中藤 容子	NAKATO, Yoko	108
老 文子	OI, Fumiko	111
中村 公一	NAKAMURA, Koichi	114
中野 正俊	NAKANO, Masatoshi	119
<b>嘱託職員等</b>		
太田 佳恵	OOTA, Yoshie	124
中園 健治	NAKAZONO, Kenji	126
<b>特別研究員</b>		
青木 伸子	AOKI, Nobuko	127
上中 央子	UENAKA, Hisako	128
北村 美香	KITAMURA, Mika	129
中井 大介	NAKAI, Daisuke	131
中尾 博行	NAKAO, Hiroyuki	133
野嶋 宏二	NOJIMA, Koji	136
水野 敏明	MIZUNO, Toshiaki	137
総合研究・共同研究による印刷物		140
2007 年度の研究活動をふりかえって		141

## 収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および嘱託員、特別研究員等の2007年4月から2008年3月までの内容が収録されています。
2. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

## 一年間の研究

### 印刷物

- 【学術論文】
- 【専門分野の著作】
- 【一般向けの著作】
- 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

### 研究活動に関する業績

- 【学会・研究会での発表】
- 【インターネットページでの公表】
- 【研究プロジェクト等への参加】
- 【学会等の役職・運営、論文の査読など】
- 【大学の講義・実習、学生の指導など】
- 【受賞など】

### 博物館事業に関する業績

- 【交流・サービス事業】
  - 琵琶湖博物館の主催行事
  - 他の博物館・機関等主催行事
  - 視察対応
  - メディアへの協力
- 【情報整備活動】
  - 琵琶湖博物館の活動
  - 他博物館・機関の活動
- 【資料整備活動】
  - 琵琶湖博物館の活動
  - 他博物館・機関の活動

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

他博物館・機関の活動

【企画調整活動】

【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

【海外渡航】

【館外の活動】

## 印刷物

## 【一般向けの著作】

- 川那部浩哉・黒川昭良・森田真潮（2007）湖と人と琵琶湖博物館の10年-「地域に根ざし、目指すは国際的成果：多色のままで見せる」。1, 毎日新聞：2007年4月4日。
- 川那部浩哉・滝口亜希（2007）和服を着たエコロジー 1-12. 産経新聞（夕刊）：2007年4月16日, 17日, 18日, 19日, 20日, 21日, 23日, 24日, 25日, 26日, 27日, 28日。
- 川那部浩哉・前畑政善 監修（2007）川にすんでいる魚の大図鑑！. 朝日小学生新聞：2007年4月22日。
- 川那部浩哉（2007）生物多様性の世界 人と自然の共生を目指して. 聖教新聞：2007年5月15日。
- 川那部浩哉（2007）あいさつ. 『昆虫記』刊行100年記念日仏共同企画 ファーブルにまなぶ, 八尋克郎・榎永一宏編, 日仏共同企画「ファーブルにまなぶ」展実行委員会：4-5。
- 川那部浩哉（2007）はじめに. 第15回企画展示 琵琶湖のコイ・フナ物語 -東アジアの中の湖と人-展示解説書. 中島経夫・里口保文 編, 琵琶湖博物館：4-5。
- 川那部浩哉（2007）生態学の「大きな」話. 農山漁村文化協会, 東京：222p。
- 川那部浩哉 編（2007）対談琵琶湖博物館を語る1996-2006. サンライズ出版, 彦根：374p。
- 川那部浩哉（2007）ファーブル『昆虫記』に学び、それを発展させた100年. 科学, 77, 岩波書店, 東京：767。
- 川那部浩哉（2007）「大人はすっこんでいる」やりかたがフォーラムの魅力. 子どもと川とまちのフォーラムかわら版2, 子どもと川とまちのフォーラム, 京都：2。
- 秋篠宮文仁・草津市立笠縫東小学校5年生・伯母Q五郎-伯母川研究こどもエコクラブ-・川那部浩哉・松田征也（2007）生き物とかかわる「おもしろさ」。うみんど, 44, 琵琶湖博物館：4-5。
- 川那部浩哉（2007）応用生態工学発足のころ. 応用生態工学雑誌, 10, 応用生態工学会：9-13。
- 川那部浩哉（2008）総括. 川の全国シンポ報告書, 「川を流域住民（あなた）が取りもどすための全国シンポジウム」実行委員会, 徳島：99-102。
- 川那部浩哉（2008）琵琶湖ポピュラーサイエンスシリーズ 鯰<ナマズ>イメージとその素顔. 前畑政善・宮本真二 編, 八坂書房, 東京：260p。
- 川那部浩哉 監修（2008）はじめに. 琵琶湖ポピュラーサイエンスシリーズ 鯰<ナマズ>イメージとその素顔, 前畑政善・宮本真二 編, 八坂書房, 東京：7-8。
- 川那部浩哉（2008）2007年読書アンケート. みすず, 557, みすず書房：13。
- 深泥池七人会編集部会（川那部浩哉ほか 編）（2008）深泥池の自然と暮らし-生態系管理を目指して-. サンライズ出版, 彦根：247p。
- 川那部浩哉（2008）自然遺産であり文化遺産であること. 深泥池の自然と暮らし-生態系管理を目指して-, 深泥池七人会編集部会 編, サンライズ出版, 彦根：7-11。
- 水野敏明・北村美香・本田幸子・右川洋一・川那部浩哉（2008）博物館での「しごと」・「あそび」琵琶湖博物館は「ずるい」？. うみんど, 46, 琵琶湖博物館：4-5。

## 博物館事業に関する業績

## 【交流・サービス事業】

### **琵琶湖博物館の主催行事**

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，9件。

2007年7月28日，東アジアにおける生き物と人-これからの関係を探る-，企画展示関連シンポジウム，琵琶湖博物館，挨拶。

2007年7月29日，東アジアにおける生き物と人-これからの関係を探る-ワークショップ・交流会，企画展示関連シンポジウム，参加。

2007年10月13日，山・川・海をつなぐ水といのちの物語，第7回いのちの科学フォーラム市民公開講座，琵琶湖博物館，挨拶，(財団法人体質研究会共同)。

2007年10月14日，山・川・海をつなぐ水といのちの物語，第7回いのちの科学フォーラム市民公開講座，琵琶湖博物館，パネルディスカッション・司会，(財団法人体質研究会共同)。

### **他の博物館・機関等主催行事**

2007年5月9日，琵琶湖にみる生物界・生態との共生について，全国公平委員会連合会近畿支部，全国公平委員会連合会特別研究会，琵琶湖ホテル(滋賀県大津市)，講演。

2007年5月19日，琵琶湖の環境と自然を語る，八幡市生涯学習センター，八幡市生涯学習開講式，八幡市生涯学習センター(京都府八幡市)，講演。

2007年6月2日，川にみる自然，国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所，河川レンジャー講座，ラポール枚方(大阪府枚方市)，講演。

2007年6月9日，これからの人間の生き方を考える-琵琶湖の「環境問題」を材料として-，亀岡市・財団法人生涯学習かめおか財団，第50回コレージュ・ド・カメオカ，ガレリアかめおか(京都府亀岡市)，講演。

2007年8月12日，総括，「川を流域住民(あなた)がとりもどすための全国シンポジウム」実行委員会，川の全国シンポ，徳島大学蔵本キャンパス(徳島市)，総括。

2007年9月29日，人と自然の新しい関わりを求めて-琵琶湖博物館と地域社会-，長野大学，長野大学環境ツーリズム学部開設記念シンポジウム，万平ホテル(長野県北佐久郡)，基調講演。

2007年10月25日，持続可能社会の実現に向けた生物多様性保全について考える，地球環境関西フォーラム水環境部会，長浜バイオ大学(滋賀県長浜市)，パネルディスカッション(コーディネーター，パネラー)。

2008年1月26日，琵琶湖の魚類に今何が起きているか？，京都一中・洛北高校同窓会，ホテル日航プリンセス京都(京都市)，講演。

2008年2月8日，自然と共生するまちづくり-生物多様性の視点と日常-，第3回上下水道事業セミナー，名古屋市上下水道局，名古屋市上下水道局船附研修会館(愛知県名古屋市)，講演。

2008年2月10日，生物多様性と「里うみ(海・湖)」，さとうみシンポジウム，NPO法人黒潮実感センター，高知県立牧野植物園牧野富太郎記念館(高知市)，基調講演。

2008年2月10日，真の豊かさとは？-古くて新しい理念としての里海を考える-，さとうみシンポジウム，NPO法人黒潮実感センター，高知県立牧野植物園牧野富太郎記念館(高知市)，パネルディスカッション。

### **【展示活動】**

#### **琵琶湖博物館での活動**

モーニングレクチャー，講義，3回。

## **館内の人事・館外活動等に関すること**

### **【海外渡航】**

2007年10月16日～10月22日，フランス，フランス国立自然史博物館ビュッフオン記念国際シンポジウム出席，

博物館における生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及に関する国際打ち合わせ。

2007年11月4日～11月8日，中国，ユーラシア自然史博物館国際会議出席，博物館における生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及に関する国際打ち合わせ。

2007年12月3日～12月6日，台湾，中央研究院水域生態研究会出席，博物館における生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及に関する国際打ち合わせ。

### 【館外の活動】

日本魚類学会，評議員。

生き物文化誌学会，評議員。

International Journal of Ecology and Environmental Biology，編集委員。

Environmental Biology of Fishes，編集委員。

科学技術振興機構理解増進部会，委員。

河川環境管理財団，評議員。

京都市青少年科学センター，学術顧問。

京都市文化財保護審議会，委員。

京都府文化財保護審議会，委員。

国際生物学賞委員会，委員。

国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所，琵琶湖とその周辺の河川環境に関する専門家会議，アドバイザー。

滋賀県琵琶湖総合保全学術委員会，委員長。

島根大学汽水域研究センター研究推進協議会，委員。

島根大学汽水域研究センター研究推進協議会，重点研究プロジェクト外部評価委員会，委員。

生態学琵琶湖賞運営委員会，委員。

生物多様性科学国際共同計画（DIVERSITAS）科学委員会，顧問。

世界自然保護基金ジャパン（WWFJ），常任理事。

地球環境関西フォーラム100人委員会，委員。

地球環境関西フォーラム100人委員会，企画委員会，委員。

地球環境関西フォーラム100人委員会，水環境とくらしの部会，部会長。

地球環境大賞顕彰制度委員会，委員。

東京工業大学特定領域研究評価委員会，委員。

日本学術振興会21世紀COEプログラム委員会，同総合審査評価部会，革新的領域評価部会，各委員。

日本学術振興会21世紀COEプログラム委員会，学際複合新領域評価部会，部会長。

日本自然保護協会，評議員。

日本自然保護助成基金，理事。

日本水フォーラム運営委員会，委員。

Hydrobiologia，編集顧問。

Brasilian Journal of Biology，編集顧問。

野生生物保全論研究会，理事。

山階鳥類研究所将来構想委員会，特別委員。

山階鳥類研究所将来構想委員会，特定奨励費外部評価委員会，委員長。

博物館学の研究分野については、ここ数年、博物館での学習活動とその関連で展示の意味についての関心を持つようになっている。特に外部の博物館研究会での議論を行う中で、展示の中にメッセージは必要なのか、また未だ学問的に結論が出ていないような問題、あるいは現存の資料では結論が出せないような課題について、一緒に考えるような展示のあり方というのは、博物館学的にはどう考えるのか、という問題設定に対して、幾つかのアプローチがあると考えるにいたった。

この議論を深めるために、アメリカ・アレナス氏が日本に来た機会に、琵琶湖博物館に来館していただき、セミナーと共に、アメリカ氏が考案して美術館で行われている対話型観賞法を琵琶湖博物館の展示を使ってワークショップとして実施する場を設定し、外部の研究者とともに参加した。対話型観賞法と名づけられた「展示を見るための手法」は、展示の作り方、メッセージの設定の仕方の一つの立場を明確に持ったものである。したがって展示の持つ意味は、その展示設置者の意図によって、まったく異なる事になりそうである。このような議論を進めて、博物館で行う学習活動と展示活動とのそれぞれの意味や相互の関連と依存度などの整理を進めた。

年度の後半には、博物館で行われる学習活動の中で最も特徴的な活動と考えられている博物館ボランティアについての研究会を計画し、実施した。ボランティアについては博物館で行われる学習活動の一つの方法と考えられるが、その立場についてはいまだに議論が決着をつけられていない。理論的にもそうであるが、博物館現場での現状自体が大きく混乱していると思われる。そしてこの問題での曖昧さは、博物館の利用者の博物館との関わり方や、博物館という場の性格にも関わって、大切であると考えた。そこでまず博物館ボランティアについて、現在どのような議論がされており、何が問題であるのか、今後どうすれば良いのかという、どちらかという現場で起こっている現状を整理して、議論をする場を設定した。このような内容についての考えを整理して発表し、全体の議論の中で、その検証をしようとするものであった。全国からこの問題の経験者、担当者、研究者に集まってもらって、課題整理と方向性の模索を行ったところ、これまで何が議論をされてきたのか、理論的にはどういう状態が求められるのか、という点については、ほぼ結論が出されたように思われる。この議論については来年度の次の課題として設定したい。

博物館事業では企画展示「フェアブルにまなぶ」についての準備を行った。もともと2年近い準備期間の後、今年度の夏から北海道大学総合博物館、国立科学博物館、北九州いのちのたび博物館の展示が順に行われ、年度が代わると琵琶湖博物館での展示となるが、これまでの3館での展示に対する評価を受けて、琵琶湖博物館ではかなり追加と修正を加えた展示とする計画を作り、その準備に入っている。また展示事業については今年度の全国海づくり大会関連展示「注文の多い湖魚の料理店」の担当者となり、浜大津会場での展示会の実施と共に、海づくり大会後に琵琶湖博物館でのギャラリー展示として、展示会を実施した。

その他に事業としては、琵琶湖博物館広報経営戦略会議の代表者として、中長期計画の効果的な実現に向けての計画と実施について、また一方の専門である植物の分野の事業として、交流行事や植物収蔵庫の維持に関する仕事などを行った。また従来と同様に、外部からの依頼事項や、委員会委員の就任による仕事などはかなりの量となっており、仕事の中でのある比率を占めるようになっている。

## 印刷物

### 【学術論文】

金山喜昭・布谷知夫・北村美香（2007）博物館と市民のキャリア形成「ボランティア」から「はしかけ」へ。キャリアデザイン学会誌, 3, キャリアデザイン学会：163-170.

布谷知夫 (2007) 行政 (地方自治体) による運営館. *新しい博物館学*, 芙蓉書房出版: 196-198.

### 【専門分野の著作】

布谷知夫 (2007) 博物館が提供する学習活動. 博物館が提供する学びの体系化と社会的役割の解明, *2006-2007年度科学研究費補助金 (基盤研究C) 研究成果報告書*: 1-11.

布谷知夫 (2007) 地域社会と琵琶湖博物館. *IVICT 情報*, 79, 東北経済活性化センター: 19-21.

布谷知夫 (2007) 環境保護 (問題) に関する展示. *東京大学海洋研究所共同利用シンポジウム「環境問題と水族館 その現状、課題、そして将来展望」要旨集*, 東京大学海洋生物研究所: 15.

### 【一般向けの著作】

布谷知夫 (2007) フェアブルと日本のアマチュア研究者. 八尋克郎・榊永一宏 編, 『*昆虫記*』刊行100年記念日仏共同企画 フェアブルに学ぶ, 日仏合同企画フェアブルにまなぶ展実行委員会: 111-113.

布谷知夫 (2007) 湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「博物館を利用する人」. 4, *毎日新聞*: 2007年4月24日.

布谷知夫 (2007) どこでも博物館・目の前の植物から学ぶ. *うみんど*, 45, 琵琶湖博物館: 7.

布谷知夫 (2007) サクラはどう見分けるか. *大阪自然観察指導員連絡会会誌*, 78, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会: 2-4.

布谷知夫 (2007) なぜ富江家だったのか 10周年を迎えた琵琶湖博物館, *びわ湖*, 滋賀県建築士協会: 2-5.

布谷知夫 (2007) 植物小ばなし. *大阪自然観察指導員連絡会会誌*, 79, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会: 2-4.

布谷知夫 (2007) 琵琶湖のヨシとアシはこう見分ける. *湖*, 167, 滋賀銀行: 15.

布谷知夫 (2007) 「フェアブルに学ぶ」展のみどころ. *自然保護*, 499, 日本自然保護協会: 32.

堀田桃子・荒井文子・布谷知夫・八尋克郎 編 (2007) 「フェアブルからまなぶ」プチガイド. 日仏共同企画フェアブルからまなぶ展実行委員会: 20p.

布谷知夫 (2007) 湖と人-琵琶湖博物館の10年-「里山のジオラマ展示」. 27, *毎日新聞*: 2007年11月6日.

布谷知夫 (2007) 自然観察のテーマ78「自然観察の目的」. *大阪自然観察指導員連絡会会誌*, 80, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会: 2-4.

布谷知夫 (2008) 琵琶湖の自然と水辺の暮らし、身近な水辺を見つめなおせば. *小原流挿花*, 6 (679), 小原流: 22-23.

布谷知夫 (2008) 地域自然の個性を見て分かる形にする (特集・地域自然の個性をビジュアル化する). *自然保護*, 501, 日本自然保護協会: 4-5.

布谷知夫 (2008) フェアブルから何をまなぶのか. *うみんど*, 46, 琵琶湖博物館: 2-3.

布谷知夫 (2008). 自然観察のテーマ79「ブルーギルとはどんな魚」. *大阪自然観察指導員連絡会会誌*, 81, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会: 2-4.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

布谷知夫 (2007年6月3日) 広報はなぜ必要か. 全日本博物館学会研究大会, 全日本博物館学会, お茶の水大学 (東京都), [口頭発表].

布谷知夫 (2007年5月22日) 展示を作る考え方と、それを見る人. 関西博物館学研究会, 長岡京記念文化会館 (京都府長岡京市), [口頭発表].

布谷知夫 (2007年6月22日~24日) 自然の観察. 自然観察指導員講習会淡路島, 淡路造園景觀大学校, [口頭発表].

布谷知夫 (2007年7月5日) アメリア・アレナス・セミナー「展示を楽しむということ」. 第47回琵琶湖博物館特別研究セミナー, 琵琶湖博物館, [コーディネーター].

布谷知夫 (2007年9月29日) 下之郷遺跡木材遺物による古環境復元. セルロース研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

表].

布谷知夫 (2007 年 10 月 19 日～21 日) 自然の観察. 自然観察指導員講習会三重, 日本自然保護協会, 熊野古道センター (三重県尾鷲市), [口頭発表].

布谷知夫 (2007 年 12 月 2 日) 博物館施設等にとっての利用者. 全国昆虫施設連絡協議会研究集会, 伊丹市昆虫館 (兵庫県伊丹市), [口頭発表].

布谷知夫 (2007 年 12 月 6 日) 環境保護 (問題) に関する展示. 東京大学海洋研究所共同利用シンポジウム「環境問題と水族館 その現状、課題、そして将来展望」, 東京大学海洋研究所 (東京都), [口頭発表].

布谷知夫 (2008 年 1 月 19 日) タンポポ調査の意義について. タンポポ調査 2010 研究会, 大阪市生涯学習センター, [口頭発表].

布谷知夫 (2008 年 1 月 26 日) 自然観察の中で外来生物とどう付き合うか. 外来生物学習会, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会・大阪自然環境保全協会, 大阪府環境農林水産総合研究所環境情報プラザ, [口頭発表].

布谷知夫 (2008 年 3 月 9 日) 博物館におけるボランティアの位置. 第 49 回琵琶湖博物館特別研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

布谷知夫 (2008 年 3 月 9 日) 博物館にボランティアはなぜ必要なのか. 第 49 回琵琶湖博物館特別研究セミナー, 琵琶湖博物館, [コーディネーター].

布谷知夫 (2008 年 3 月 30 日) 環境問題と古環境まで. 学術フロンティア事業「環境変遷史と人類活動」, 研究セミナー「環境変遷と人類活動の展示」, 明治大学博物館学教室, [コメンテーター].

#### 【研究プロジェクト等への参加】

国立歴史民俗博物館共同研究「展示室におけるコミュニケーションデザイン研究会」(研究代表者: 佐藤優香), 共同研究者 (2006 年度～2009 年度).

国立民族学博物館プロジェクト研究「博物館のネットワーク研究会」(研究代表者: 川口幸也), 共同研究者 (2005 年度～2008 年度).

文部科学省科学研究費「半栽培 (半自然) と社会的仕組みについての環境社会学的研究」(研究代表者: 宮内泰介), 分担者 (2005 年度～2007 年度).

文部科学省科学研究費「中近世建築遺構の放射性炭素を用いた年代測定」(研究代表者: 中尾七重), 分担者 (2006 年度～2008 年度).

文部科学省科学研究費「博物館におけるボランティアの“協同モデル”再構築に向けた実証的研究」(代表者: 青木伸子), 分担者 (2007 年度～2008 年度).

#### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

全日本博物館学会, 博物館学雑誌, 論文査読, 1 件.

関西自然保護機構, 関西自然保護機構会誌, 論文査読, 1 件.

#### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2007 年 11 月 5 日, 立命館大学経営経済学部, 琵琶湖の魅力と保全の課題-琵琶湖博物館への招待-「立命館大学近江草津論」.

2008 年 1 月 12 日, 滋賀県立大学, 滋賀県立大学集中講座「博物館学各論 A」.

2007 年 4 月 1 日～2008 年 3 月 31 日, 学生指導 (京都橘大学大学院文化政策学科), 博物館におけるマーケティング.

2007 年 12 月 1 日～12 月 25 日, 学生指導 (千葉大学), 古琵琶湖層から出土した木材化石の同定.

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

### **琵琶湖博物館の主催行事**

はしかけ植物観察会，3件。

2007年4月14日，草花しおり，わくわく探検隊，琵琶湖博物館，講師。

2007年7月22日，自由研究講座，植物の部，琵琶湖博物館，講師。

2007年8月4日，博物館実習，博物館の評価，琵琶湖博物館，講師。

2007年8月6日，博物館実習，標本の作製から保管まで，琵琶湖博物館，講師。

2008年8月7日，博物館班，自然調査ゼミナール，滋賀県中学校理科教育研究会，琵琶湖博物館，講師。

2008年10月22日，タネの分散について，朝日小学校サテライト博物館事業，朝日小学校・滋賀県伊香郡，講師。

2007年11月24日，秋の里山の観察会，比良山・滋賀県大津市，講師。

### **他の博物館・機関等主催行事**

2007年4月21日，琵琶湖の環境問題から見える日，本の抱える環境問題と私たちにできること，政府関係法人労働組合連合会地方連絡会議，環境問題セミナー，琵琶湖博物館，講師。

2007年5月20日，琵琶湖の環境をめぐって，精華大学博物館見学実習，精華大学，琵琶湖博物館，講師。

2007年6月9日，琵琶湖博物館の概要，立命館守山中学校1年生，琵琶湖博物館，講師。

2007年6月14日，琵琶湖の環境をめぐって，建部公民館高齢者学級「学びの集い」，建部公民館，講師。

2007年6月19日，学芸員は何をしているのか，大阪成蹊大学博物館学，白眉打つ間ホール，講師。

2007年7月7日，自然観察と自然保護，インストラクター養成講座，大阪自然環境保全協会，堺市光明池会館・光明池公園，講師，2件。

2007年7月18日，琵琶湖のヨシの話，シニア自然大学みどり組夏の合宿研修会，琵琶湖博物館，講師。

2007年7月23日，博物館の作られ方，石部高校琵琶湖探求2007年度，琵琶湖博物館，講師。

2007年7月26日，琵琶湖博物館の概要，神戸市シルバーカレッジ，琵琶湖博物館，講師。

2007年7月30日，琵琶湖博物館の概要，中国湖南省中学校修学旅行訪日団，琵琶湖博物館，講師。

2007年7月31日，琵琶湖博物館と参加型環境調査，広島大学総合科学研究科地域研究実習，講師。

2007年8月1日，自然調査ゼミナール打ち合わせ会，琵琶湖博物館。

2007年8月7日，博物館の展示の考え方，自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師。

2007年8月5日，琵琶湖博物館の概要，文化・歴史ウオーク，琵琶湖博物館，講師。

2007年8月19日，飛ぶ種作り，かしわざきキッズミュージアム準備会，琵琶湖博物館，講師。

2007年8月30日，琵琶湖博物館の概要，京都学院大学バイオ環境学部，琵琶湖博物館，講師。

2007年9月8日，琵琶湖博物館の設置準備から開館まで，天竜川漁業協働組合琵琶湖博物館視察団，琵琶湖博物館，講師。

2007年9月19日，琵琶湖博物館の成り立ちとコンセプト，関西大学博物館学実習，琵琶湖博物館，講師。

2007年9月21日，琵琶湖博物館の概要，桃山学院大学，琵琶湖博物館，講師。

2007年9月30日，琵琶湖博物館はどのように作られたのか，京都女子大学学芸員講座現場見学実習，琵琶湖博物館，講師。

2007年10月4日，博物館の利用の仕方，摂津第二中学校，琵琶湖博物館，講師。

2007年10月13日，琵琶湖の環境教育，聖泉大学，琵琶湖博物館，講師。

2007年11月17日，愛知川の樹木調べ，本庄川遊びの会子ども会，彦根市本庄公民館周辺，講師。

2007年11月22日，琵琶湖博物館と環境をめぐって，滋賀県退職教職員会研修会，琵琶湖博物館，講師。

2007年12月15日，琵琶湖博物館のなりたちと概要，立命館大学経済学部1回生研修，琵琶湖博物館，講師。

2008年1月26日，外来生物勉強会「自然観察の中で外来生物と同向き合うか」，NACS-J自然観察指導員連絡会・大阪自然環境保全協会，大阪府環境情報プラザ，(コーディネーター)。

2008年1月27日，自然観察と自然保護，島本みどりと水を守る会，琵琶湖博物館，講師。

2008年2月5日，琵琶湖博物館の概要，京都市伏見区個人タクシー協会研修会，琵琶湖博物館，講師。

- 2008年2月11日, 博物館が準備する学習活動, ミュージアムティーチャー・ワークショップ, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年2月16日, 植物について, 立命館守山中学校ミュージアム・スクール「琵琶湖学習」, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年2月17日, 地域博物館の活動について, JICA 中東地域博物館コース, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2008年2月23日, くるくるタネとばし, アートはみんなのもの, 滋賀県文化振興事業団, 滋賀県立文化産業交流会館. 講師.
- 2008年3月22日, 琵琶湖の環境の現状と課題, 東大阪市社会福祉協議会ボランティア研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

### **視察対応**

- 2007年4月24日, 韓国自然環境研修院.
- 2007年5月13日, 自由民主党中川幹事長.
- 2007年5月13日, 埼玉県本庄市議会議員団.
- 2007年5月15日, 日本水フォーラム.
- 2007年5月24日, 市民ネットワーク千葉.
- 2007年5月27日, 韓国生命の森国民運動 (NPO).
- 2007年5月30日, 鳥取県立博物館.
- 2007年5月31日, 東京都港区資料館.
- 2007年6月2日, 吹田市公民館館長会議.
- 2007年6月9日, 大阪市学校歯科医師会.
- 2007年6月17日, 中国山東省博物館.
- 2007年6月20日, 三重県生活部文化振興局.
- 2007年7月26日, 三重県知事.
- 2007年8月10日, 京エコロジーセンター.
- 2007年8月25日, 三重県議会.
- 2007年8月29日, 名古屋市総務局企画部企画課.
- 2007年9月9日, VJC 台湾教育関係者招聘旅行団.
- 2007年9月24日, JICA (ベトナム環境保全庁オフィサー).
- 2007年9月26日, 三重県自民党県会議員団.
- 2007年11月14日, 沖縄県平和祈念資料館.
- 2007年11月20日, 伊香郡社会教育委員研修.
- 2007年11月30日, 中国北京教育関係者研修会 (びわこビジターズビューロー).
- 2008年2月26日, 石川県自然史資料館.

### **メディアへの協力**

- 2007年4月3日, プロの目で楽しむミュージアム 特集・いつでも、何度でも、本日、ミュージアム日和, 大人組 KANSAI 6月号, インタビュー.
- 2007年4月4日, セイヨウカラシナについて, 長浜ミーナ, インタビュー.
- 2007年4月18日, 琵琶湖のヨシとアシはどうちがう, 季刊「湖」, インタビュー.
- 2007年4月24日, ハマゴウについて, 京都新聞, インタビュー.
- 2007年5月15日, コンニャクの花, 読売新聞, インタビュー.
- 2007年6月30日, 赤野井湾のハス, 京都新聞, インタビュー.
- 2007年7月4日, オモダカについて, 読売新聞, インタビュー.
- 2007年7月29日, 琵琶湖博物館の概要, 韓国 KBS テレビ, インタビュー.

2007年11月20日, ヨシの刈り取りについて, 共同通信, インタビュー.  
2007年12月11日, 注文の多い湖魚の料理店, 読売新聞県民情報, インタビュー.  
2007年12月12日, 注文の多い料理店, 読売新聞, インタビュー.  
2007年12月19日, 注文の多い湖魚の料理店・ネズミ展示, ケーブルテレビ, インタビュー.  
2007年12月24日, 注文の多い湖魚の料理店, 中日新聞, インタビュー.  
2008年1月4日, 注文の多い湖魚の料理店, 朝日小学生新聞, インタビュー.  
2008年1月17日, 注文の多い湖魚の料理店, 産経新聞, インタビュー.  
2008年1月22日, 注文の多い湖魚の料理店, 京都新聞, インタビュー.  
2008年3月14日, 必佐小学校の橋本植物標本について, 京都新聞, インタビュー.  
2008年3月14日, 必佐小学校の橋本植物標本について, 読売新聞, インタビュー.  
2008年3月18日, 必佐小学校の橋本植物標本について, NHK 天津放送局, インタビュー.  
2008年3月19日, 「ファーブルにまなぶ」展, FM 滋賀「しがプラスワン」, 原稿提出.  
2008年3月27日, 滋賀県の外来植物, 滋賀民報, インタビュー.

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

植物標本整理室, 副担当者.

#### 他博物館・機関の活動

必佐小学校, 必佐小学校所蔵橋本忠太郎標本の内容確認.

### 【情報整備事業】

#### 琵琶湖博物館の活動

学校による琵琶湖博物館利用案内映像製作, 利用案内, 諸注意, 琵琶湖情報を含む学校向けDVDの作製.

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 3回.

展示交流員と話そう, 内容指導, 4件.

2007年4月24日~5月6日, 集う・使う・創る 新空間展示「動植物とのつきあい方の新しいルール」, 分担担当者.

2007年11月20~21日, 全国豊かな海づくり大会関連事業「注文の多い湖魚の料理店」大津会場, 主担当者.

2007年12月11日~2008年2月17日, ギャラリー展示「注文の多い湖魚の料理店」, 主担当者.

日仏共同企画ファーブル昆虫記100年記念「ファーブルからまなぶ」, 企画運営委員会, 副委員長.

第16回企画展示「ファーブルからまなぶ」, 琵琶湖博物館展示担当.

2008年2月6日, 展示交流員への学習会「インタープリターと展示交流」, 琵琶湖博物館.

2008年3月8日~3月16日, はしかけ発表会展示(植物観察の会), 担当者.

### 【企画調整活動】

新任者研修, 博物館の概要と事業内容, 2007年4月10日, 琵琶湖博物館.

新任者研修, C展示室の考え方, 2007年4月17日, 琵琶湖博物館.

新任者研修, 空から見た琵琶湖, 生き物調査, 暮らしと結びついた自然, 2007年4月17日, 琵琶湖博物館.

新任者研修, 水草の世界, 2007年4月18日, 琵琶湖博物館.

JICA博物館学集中コース, 「カントリーレポート」進行役, 2007年4月18日, 琵琶湖博物館.

JICA博物館学集中コース, 琵琶湖博物館の紹介, 2007年5月8日, 琵琶湖博物館.

JICA 博物館学集中コース, 博物館評価, 2007年5月9日, 琵琶湖博物館.  
JICA 博物館学集中コース, 博物館の交流活動, 2007年5月12日, 琵琶湖博物館.  
JICA 博物館学集中コース, 地域博物館の運営, 2007年5月13日, 琵琶湖博物館.  
JICA 博物館学集中コースの意味 (公開フォーラム世界の博物館 2007・総括), 2007年5月19日, 国立民族学博物館.  
JICA 個別研修, 地域博物館, 2007年6月28日, 琵琶湖博物館.  
JICA 博物館学集中コース, 閉講式閉会挨拶, 2007年7月12日, 国立民族学博物館.  
JICA 博物館学集中コース, 閉講式祝辞, 2007年7月13日, JICA 大阪センター.  
新任学芸員研修, 琵琶湖博物館の理念と運営, 2007年9月11日, 琵琶湖博物館.  
行幸啓, 琵琶湖博物館の説明, 2007年11月11日, 琵琶湖博物館.  
学校への訪問説明, 京都府内小中学校, 5件.

#### 【研究部関連事業】

研究代表者会議, 委員, 2007年4月1日～2008年3月31日.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館内の人事】

2007年4月1日～2008年3月31日, 琵琶湖博物館広報経営戦略会議, 主担当者.  
2007年4月1日～2008年3月31日, JICA 博物館集中コース運営委員会, 委員.

#### 【館外の人事】

2007年4月1日～2008年3月31日, 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館, 共同研究員.  
2007年4月1日～2008年3月31日, 人間文化研究機構国立民族学博物館, 共同研究員.  
2007年4月1日～2008年3月31日, 国立民族学博物館展示評価委員会, 委員.  
2007年4月1日～2008年3月31日, 琵琶湖湖北地域ヨシ群落自然再生事業協議会, 委員.  
2007年4月1日～2008年3月31日, 天然記念物と泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会, 委員・会長代理.  
2007年8月1日～12月31日, 滋賀県戦争祈念館あり方検討委員会, 委員.  
2007年4月1日～2008年3月31日, 下之郷遺跡保存整備委員会整備部会, 委員.  
2007年4月1日～2008年3月31日, 野洲川歴史公園田園空間博物館運営委員会, 委員.  
2007年4月1日～2008年3月31日, 日本博物館協会庶務幹事委員会, E-mail 委員.  
2007年4月1日～2008年3月31日, 滋賀県棚田等保全検討委員会, 委員.  
2008年1月8日～2008年2月29日, 文部科学省学芸員養成カリキュラムに係る調査研究委員会, 委員.  
2007年4月1日～2008年3月31日, 日本自然保護協会自然観察指導員講習会講師団, 講師.  
2007年4月1日～2008年3月31日, 関西自然保護機構理事会, 理事.  
2007年4月1日～2008年3月31日, 滋賀県生き物総合調査委員会, 会長.  
2007年4月1日～2008年3月31日, タカラホールディング助成評価委員会, 委員.  
2007年4月1日～2008年3月31日, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会, 世話役.

コイ科魚類の咽頭歯の研究を通じて、湖と人間のかかわりがどのように築かれてきたかを考えている。

2007年度は、2006年度に終了した総合研究「東アジアの中の琵琶湖-コイ科魚類の展開を軸にした環境史に関する研究」の研究成果に基づく企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話-東アジアの中の湖と人-」を実施した。

また、2006年度から始まった総合地球環境学研究所：プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」(代表者：内山純蔵)の琵琶湖ワーキンググループ、中国ワーキンググループで主に新石器化の景観形成史について研究を進めている。さらに、文科省科研費「河姆渡文化研究の再構築-余姚田螺山遺跡の学際的総合調査-」(代表者：中村慎一)に加わり田螺山遺跡のコイ科魚類咽頭歯遺体の分析を行っている。その研究成果は、2008年度にはまとめを行い、2つの国際学会で発表する予定である。

咽頭歯研究のまとめとして、咽頭歯モノグラフ“Comparative studies on the pharyngeal teeth of cyprinids and their allies”の執筆に取りかかった。2009年度をめどに出版をする計画をたてている。

## 印刷物

### 【学術論文】

水野敏明・中尾博行・琵琶湖博物館うおの会・中島経夫(2007)琵琶湖流域におけるブルーギル(*Lepomis macrochirus*)の生息リスク評価. *保全生態学研究*, 12: 1-9.

### 【専門分野の著作】

中島経夫・中島美智代・内山純蔵・瀬口真二(2008)動物遺存体の調査. *一般国道8号米原バイパス建設に伴う発掘調査報告書2 入江内湖遺跡II*, 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会, 大津: 148-162.

### 【一般向けの著作】

中島経夫(2007)湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「コイ科魚類と人間の関係は」. 16, *毎日新聞*: 2007年7月31日.

中島経夫(2007)魚・貝の化石. 琵琶湖ハンドブック編集委員会 編, *琵琶湖ハンドブック*, 滋賀県: 31-35.

企画展示実行委員 編(2007)第15回企画展示 *琵琶湖のコイ・フナのお話-東アジアの中の湖と人-*展示解説書. 琵琶湖博物館, 草津市: 67p.

中島経夫(2007)琵琶湖のコイ・フナのお話-東アジアの中の湖と人-. *うみんど*, 43, 琵琶湖博物館, 草津市: 1-4.

中島経夫(2008)長い年月をかけて築いた人間と魚の関係をみつめて. *滋賀の保険医*, 272: 2-3.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

中島経夫(2007年9月15日)琵琶湖博物館の研究プロジェクト「東アジアの中の琵琶湖-コイ科魚類の展開を軸とした環境史に関する研究-」の成果を踏まえて、新たな展開を. NEOMAP 琵琶湖ワーキング会議, 総合地球環境学研究所 NEOMAP, 総合地球環境学研究所(京都市), [口頭発表].

中島経夫(2007年9月28日)NEOMAP 琵琶湖ワーキング. NEOMAP 全体会議, 総合地球環境学研究所(京都市), [口

頭発表].

中島経夫 (2007年11月23日) 弥生時代からあったゆりかご水田. 魚のゆりかご水田シンポジウム, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

中島経夫 (2007年12月21日) 人は琵琶湖をどのようにながめてきたのか-咽頭歯研究から景観へ. NEOMAP 研究会, 総合地球環境学研究所 NEOMAP, 総合地球環境学研究所 (京都市), [口頭発表].

中島経夫 (2008年1月18日) 咽頭歯からわかること. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

中島経夫 (2008年1月19日) 人は琵琶湖をどのようにながめてきたのか. NEOMAP 琵琶湖ワーキング会議. 総合地球環境学研究所 NEOMAP, 総合地球環境学研究所 (京都市), [口頭発表].

中島経夫 (2008年2月16日) フナのいる風景-琵琶湖と田螺山-. NEOMAP 中国ワーキング会議, 総合地球環境学研究所 NEOMAP, 総合地球環境学研究所 (京都市), [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究『魚が確認できない』データに基づく魚類が脅威にさらされている地域の特定と要因の解明 (研究代表者: 水野敏明), 共同研究者 (2007年度).

琵琶湖博物館専門研究「コイ科魚類咽頭歯の研究」, (2007年度).

国立歴史民俗博物館総合研究「日本歴史における水田環境の存在意義に関する総合的研究」(研究代表者: 安室 知), 共同研究者 (2007年度).

総合地球環境学研究所研究プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化: 文化的景観の形成史」(研究代表者: 内山純蔵), コアメンバー (2007年度).

文部科学省科学研究費補助金(基盤研究A) 海外「河姆渡文化研究の再構築-余姚田螺山遺跡の学際的総合調査-」(研究代表者: 中村慎一), 研究協力者 (2007年度).

(財)世界自然保護基金ジャパン「琵琶湖流域の魚類情報のGIS化」(研究代表者: 中島経夫), 研究代表者 (2007年度).

社団法人近畿建設協会「琵琶湖魚類調査研究」研究代表者, (2007年度).

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2007年12月10・17日・2008年1月7・21・28日, 滋賀県立大学大学院学生, 生物多様性論.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 12件.

2007年7月8日・11月17日・2008年3月9日, はしかけ登録講座, 3件.

2007年7月28日, 生き物と人のこれからの関係を探るために, 企画展示関連シンポジウム, 琵琶湖博物館, パネリスト.

2008年2月23日, 魚をかいした湖と人間のかかわりの歴史, 淡水魚類学専門講座, 多賀町立博物館多賀の自然と文化の館・多賀町, 講演, (多賀町立博物館共同).

#### 他の博物館・機関等主催行事

2007年11月25日, コイ科魚類からみた東アジアの湖と人, 自然史学会連合会, 自然史学会連合会講演会「いきものひとみずの自然史」, 琵琶湖博物館, 講演.

2007年12月8日, がんばっている在来種, 守山市金森自治会, 「21世紀の川づくりを考える」町民講座, 金森自治

会館（滋賀県守山市），講演.

2008年1月26日，琵琶湖博物館のはしかけ制度について，三重県立博物館，博物館サポーター研修会，三重県立総合文化センター（三重県津市），講演.

2008年2月1日，考古遺跡にのこる魚の利用の変化から見える人と琵琶湖のかかわりの歴史からこれからのを考える，水のめぐみ館アクア琵琶，アクア琵琶第1回琵琶湖講座，水のめぐみ館アクア琵琶（滋賀県大津市），講演.

#### 【情報整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館うおの会ウェブサイトの更新，管理.

##### 他博物館・機関の活動

琵琶湖お魚ネットワークウェブサイトの更新，管理.

#### 【資料整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館魚類標本の登録（登録件数：1,489点），管理（48,644点）.

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回.

2007年7月14日～11月25日，第15回企画展示「琵琶湖のコイ・フナ物語-東アジアの中の琵琶湖-」の実施，  
主担当.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【海外渡航】

2007年4月10日～18日，中華人民共和国湖南省长沙市および岳阳市，企画展展示資料の収集および中国の淡水漁撈の調査.

2007年9月2日～8日，中華人民共和国浙江省余姚市および宁波市，田螺山遺跡の咽頭歯遺体の調査.

2007年10月31日～11月5日，中華人民共和国浙江省余姚市および宁波市，田螺山遺跡の咽頭歯遺体の調査.

研究関連では、これまでに自分自身および共同研究者等が琵琶湖の湖岸、内湖、および水田地帯で魚類調査してきた内容について論文化すべく執筆活動を進め、現在、館外共同研究者と4編の論文を訂正・加筆中である。水田の総合研究では、本研究を本格的な総合研究へと格上げすべく、館内外のメンバー間で議論を行い、新年度総合研究「琵琶湖に隣接した水田地帯の特性の解明-ニゴロブナを媒体として-」を立ち上げ、特にフナ類やカメ類等の遡上する水路の環境について連続したデータを得ることができた。現在、論文化の作業を進めている。なお、これらの成果については、関西の魚類研究者の集まりである魚類自然史研究会、日本生態学会、淡水魚保全にかかわるシンポジウム・研究会等にて発表するなど、広く一般に公表した。併せて、当館主催事業である指導者向けの講座「淡水魚類学専門講座」やさまざまな団体への講演会等を通じて、水辺環境の現在の由々しき実態と外来種（魚類）の生態系へ及ぼす影響等の解説にもつとめた。なお、これらの研究、およびこれまでの調査研究を背景として、県内小学校の環境に対する取り組み、滋賀県や国（国土交通省・環境省・農林水産省など）の生き物、水田、琵琶湖にかかわる各種事業に対してアドバイス等を行った。

事業関連では、「フィールドレポーター制度」担当となり、フィールドレポーター制度の円滑な運営に資するとともに、「ミノムシの分布調査」（2006年度）、「ボタンウキクサ分布調査」（2007年度）の調査結果をマスコミリリースするなど、フィールドレポーター参加者のモチベーションアップを図り、また新規参加者を募るよう積極的に活動した。また、「新たな交流の方向性」のまとめ担当として、当館の中長期計画である「地域だれでも・どこでも博物館」を実現するための既存交流事業を展開するための方策を取りまとめた。

## 印刷物

### 【専門分野の著述】

- 前畑政善（2007）希少淡水魚保存の取り組み. 西 源二郎・猿渡敏郎 編, 水族館の仕事, 東海大学出版会:170-184.  
 前畑政善（2007）ナマズの繁殖作戦は田んぼ利用にあり. 自然の見方が変わる本（再録版）,（財）日本自然保護協会 編 : 96-99.  
 金尾滋史・前畑政善（2007）魚類にとっての海洋・西浜地区の景観および人間との関わり. マキノ町海洋・西浜地区文化的景観総合調査報告書, 高島市教育委員会, 高島市 : 27-44.

### 【一般向けの著述】

- 前畑政善（2007）「安心」まで売るのはよけいなお世話!. *LOUPE*, 8 (52), NPO 法人シニア自然大学広報月刊誌, 大阪市 : 1.  
 前畑政善（2007）「安心」まで売って欲しくない!. *フィールドレポーター掲示板*, 3 (48), 琵琶湖博物館 : 1.  
 前畑政善（2007）湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「田んぼとさかな 問われる自然との付き合い」. 6, *毎日新聞* : 2007年5月15日.  
 前畑政善（2007）魚と水生動物たち「ビワコオオナマズ」, *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞 : 2007年9月5日.  
 前畑政善・松田征也（2007）湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「希少淡水魚の保護増殖センター」. 31, *毎日新聞* : 2007年12月4日.  
 前畑政善（2007）魚と水生動物たち「魚と人はどうちがう」. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞 : 2008年1月3日.  
 前畑政善（2007）魚と水生動物たち「スッポン」. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞 : 2008年1月23日.  
 前畑政善（2007）魚と水生動物たち「シロイシガメ」. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞 : 2008年1月3日.

- 前畑政善 (2008) ヒトは魚のなれのはて！. フィールドレポーター掲示板, 1 (49), 琵琶湖博物館: 1.
- 前畑政善・小早川みどり (2008) ナマズ類の研究史. 琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ鯰くナマズ>-イメージとその素顔- (再録版), 川那部浩哉 監修 前畑政善・宮本真二 編, 八坂書房, 東京: 107-120.
- 前畑政善 (2008) ナマズ類の繁殖生態と水辺移行帯. 琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ鯰くナマズ>-イメージとその素顔- (再録・改変版), 川那部浩哉 監修 前畑政善・宮本真二 編, 八坂書房, 東京: 183-216.
- 川那部浩哉 監修 前畑政善・宮本真二 編 (2008) 琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ鯰くナマズ>-そのイメージと素顔-, 八坂書房, 東京: 260p.
- 前畑政善・宮本真二 (2008) あとがき. 琵琶湖博物館ポピュラーサイエンスシリーズ鯰くナマズ>-イメージとその素顔-, 川那部浩哉 監修 前畑政善・宮本真二 編, 八坂書房, 東京: 254-257.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 前畑政善 (2007年7月25日) 琵琶湖の在来魚の現状と課題講演5題に対するコメント. 研究会「琵琶湖の在来魚保全の現状と課題」, 滋賀県環境科学研究センター, コラボ滋賀 (大津市), [口頭発表].
- 前畑政善 (2007年8月17日) 琵琶湖産ナマズの産卵生態-まとめ-. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 鈴木規慈・原田泰志・前畑政善 (2007年10月20日) ため池におけるカワバタモロコの産卵期と産卵場所について. 第45回魚類自然史研究会, 龍谷大学 (大津市), [口頭発表].
- 大塚泰介・前畑政善・金尾滋史・鈴木規慈・沢田裕一 (2007年10月20日) 水田におけるニゴロブナ仔稚魚の成長パターン. 第45回魚類自然史研究会, 龍谷大学 (大津市), [口頭発表].
- 水野敏明・前畑政善・小川雅弘・船尾俊範 (2007年10月20日) 琵琶湖のニゴロブナが遡上する水路の選択要因. 第45回魚類自然史研究会, 龍谷大学 (大津市), [口頭発表].
- 小川雅弘・前畑政善・水野敏明・金尾滋史 (2007年10月21日) 琵琶湖南部の農業水路で採捕されたカメ類 (予報). 第45回魚類自然史研究会, 龍谷大学 (大津市), [口頭発表].
- 金尾滋史・澤田裕一・前畑政善 (2008年2月9日) 水田利用魚類にとっての都市化の影響. 第3回淡水魚保全シンポジウム, 東京海洋大学 (東京都港区), [ポスター発表].
- 水野敏明・前畑政善・小川雅弘・船尾俊範 (2008年3月15日) 琵琶湖のニゴロブナの農業水路への遡上要因の検討. 第55回日本生態学会大会, 福岡国際会議場 (福岡市), [口頭発表].
- 金尾滋史・前畑政善・沢田裕一 (2008年3月14-17日) 琵琶湖周辺に生息する魚類にとっての水田地帯の重要性. 第55回日本生態学会大会, 福岡国際会議場 (福岡市), [ポスター発表].
- 鈴木規慈・原田泰志・前畑政善 (2008年3月14-17日) ため池におけるカワバタモロコの繁殖スケジュール. 第55回日本生態学会大会, 福岡国際会議場 (福岡市), [ポスター発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「水田利用魚類の生態」, (2007年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明-ニゴロブナを媒体として-」 (研究代表者: 前畑政善), 研究代表者 (2007-2011年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- (社) 日本魚類学会, 日本魚類学会自然保護委員会, 委員. 2001年6月-.

## 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2007年4月1日～2008年3月31日、金尾滋史（滋賀県立大学大学院博士過程）、学位論文指導。

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，12件。

フィールドレポーター制度，担当。

2007年8月2日，ザリガニの飼い方，生き物飼い方講座，湖北町立朝日小学校，講師。

2007年8月3日，ザリガニの飼い方，生き物飼い方講座，琵琶湖博物館，講師。

2007年8月20日，水族展示ガイドツアー，夏休み特別イベント，琵琶湖博物館，講師。

2007年9月2日，チッチゼミ観察会，フィールドレポーター，野洲市三上山，世話人。

2008年1月19日，虫のうんこ染体験教室，フィールドレポーター，琵琶湖博物館，世話人，（伊丹昆虫館共同）。

#### 他の博物館・機関等主催行事

2007年6月6日，琵琶湖の生き立ちと水生生物の変化・現状，岐阜県大垣商工会議所，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2007年6月23日，水田の生き物の暮らしと調査方法-魚類を中心に-，立命館大学附属守山中学校，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2007年6月30日，琵琶湖の魚から環境を考える，立命館大学研修会，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2007年7月7日，なまずに関する話，琵琶湖一周スポレク健康ウォーキング（第2回琵琶湖レクチャー），第21回全国スポーツ・レクレーション祭滋賀県実行委員会，琵琶湖博物館うみっこ広場（草津市），講師。

2007年7月30・31・8月1日，淡水魚入門講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，シニア自然大学，NPO法人シニア自然大学，大阪NPOプラザ（大阪市），講師，3件。

2007年8月6・7・9日，淡水魚入門講座野外実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，シニア自然大学，NPO法人シニア自然大学，大戸川（大津市），講師，3件。

2007年8月22日，琵琶湖の環境と魚，学校教育環境教育担当者連絡協議会，滋賀県教育委員会学校教育課，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2007年9月1日，琵琶湖の魚と環境-魚の現状から環境を考える-，京都造形芸術大学スクーリング授業，京都造形芸術大学，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2007年9月15日，長浜新川をステージとした生涯学習のまちづくり事業&秋の新川わくわく自然観察会，六荘まちづくり推進委員会・六荘地区社会福祉協議会，六荘公民館（六角館）と近傍の新川周辺（長浜市），講師。

2007年9月26日，琵琶湖の環境と魚-魚から環境を考える，京都大学国際交流センター，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2007年11月2日，琵琶湖の魚の現状から環境を考える，大津市中央ロータリークラブ定例会，大津プリンスホテル（大津市），講師。

2007年11月3日，琵琶湖の魚と環境，大阪府教職員互助会，琵琶湖博物館（草津市），講師。

2007年11月17日，琵琶湖の魚と田んぼ，つがやま市民教養文化講座，（財）守山野洲市民交流プラザ Riseville 都賀山（滋賀県守山市），講師。

2007年11月18日，琵琶湖の魚から環境をみる，財団法人青樹会，青樹会研修会，近江八幡勤労者総合福祉センター（近江八幡市），講師。

2007年12月8日，琵琶湖の魚から環境を考える，第39回食とみどり、水を守る全国集会「フィールドワーク 琵琶湖」

琵琶湖の環境学習」, 第 39 回食とみどり、水を守る全国集会実行委員会・第 39 回食とみどり、水を守る全国集会近畿実行委員会, 水生植物公園みずの森 (草津市), 講師.

2008 年 3 月 29 日, 琵琶湖博物館における利用者主体事業-フィールドレポーター制度とはしかけ制度の紹介-, はまなこ環境ネットワーク会議, 浜松まちづくりセンター (浜松市), 講師.

### **視察対応**

2007 年 4 月 26 日, 琵琶湖博物館の概要説明, 守山市中野自治会サロン「コスモス」, 琵琶湖博物館.

2007 年 6 月 3 日, 琵琶湖博物館の概要説明・館内案内, 日本学術会議第 5 部会, 琵琶湖博物館.

2007 年 6 月 19 日, 水族展示「水辺の生き物」案内, 丹陽郡庁公務員 (韓国), 琵琶湖博物館.

2007 年 11 月 25 日, 常設展示の解説, 伊丹市昆虫館友の会研修会, 琵琶湖博物館.

2007 年 6 月 19 日, 水族展示「水辺の生き物」案内, 日本学術会議第 18 期会員および夫人による滋賀県訪問団, 琵琶湖博物館.

2008 年 2 月 7 日, 琵琶湖博物館の交流活動について説明, 静岡県自然保護室 富士山浜名湖スタッフ, 琵琶湖博物館.

2008 年 2 月 15 日, 琵琶湖博物館の事業・運営等の概要説明, 東京ガス (株) 環境エネルギー館, 琵琶湖博物館.

2008 年 2 月 7 日, 琵琶湖博物館の利用者主体事業の説明, 静岡県自然保護室 富士山浜名湖スタッフ (今中園実氏), 琵琶湖博物館.

### **メディアへ協力**

2007 年 4 月 7 日, ナマズの繁殖生態について, 朝日新聞, インタビュー, (2007 年 4 月 3 日取材).

2007 年 5 月 18 日, 琵琶湖産ナマズ類 3 種の繁殖生態について, 中日新聞, インタビュー, (2007 年 4 月 12 日取材).

2007 年 8 月 5 日, 琵琶湖固有種のレッドリスト掲載種について, HNK 大津, インタビュー, (2007 年 8 月 3 日取材).

2007 年 8 月 23 日, 琵琶湖固有種ニゴロブナの絶滅危惧Ⅱ類への選定について, 朝日新聞, インタビュー, (2007 年 8 月 3 日取材).

2008 年 1 月 24 日, フィールドレポーターアンケート調査「ミノムシの分布調査結果」について, 中日新聞, インタビューおよび関連写真送付, (2008 年 1 月 23 日取材).

2008 年 1 月 24 日, フィールドレポーターアンケート調査「ミノムシの分布調査結果」について, 産経新聞, インタビューおよび関連写真送付, (2008 年 1 月 23 日取材).

2008 年 1 月 24 日, フィールドレポーターアンケート調査「ミノムシの分布調査結果」について, 京都新聞, インタビューおよび関連写真送付, (2008 年 1 月 23 日取材).

2008 年 2 月 2 日, フィールドレポーターアンケート調査「ミノムシの分布調査結果」について, 朝日新聞 (大津支局), インタビューおよび関連写真送付, (2008 年 2 月 1 日取材).

### **【資料整備活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

水族飼育委託業務の管理.

ミシシippiaカミミガメ, 幼体 3 頭収集.

### **【展示活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

モーニングレクチャー, 講義, 3 回.

2007 年 6 月 8-9 日, 第 15 回企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話-東アジアの中の湖と人-」の関連イベント「フナ汁」づくり, 協力.

## 他博物館・機関の活動

農業技術振興センター，2007年8月3日，ふれあい農業デーにおいて「田んぼでニゴロブナが育つとなにがおこるか？」をポスター展示協力，（大塚泰介共同）。

## 【企画調整活動】

学校への訪問説明，京都府内小中学校，6件。

新任職員研修，水族の展示の意図-琵琶湖の環境と魚、水環境に関する課題，2007年4月18日，琵琶湖博物館。

行幸啓，琵琶湖博物館の説明補助，2007年11月11日，琵琶湖博物館。

## 【研究部関連事業】

研究代表者会議，委員，2007年4月1日～2008年3月31日。

# 館内の人事・館外活動等に関すること

## 【館内の人事】

2007年4月1日～2008年3月31日，琵琶湖博物館広報交流サービス事業「新たな交流のあり方検討委員会」，担当  
当者。

## 【館外の活動】

2003年11月ー，大津市立逢坂小学校，逢坂小学校エコスクール委員会，委員。

2006年7月ー，草津市立笠縫東小学校，笠縫東小学校エコスクール支援委員会，委員。

2002年9月ー，滋賀県農政水産部農村振興課，みずすまし構想推進委員会，生態系保全専門部会員。

2000年5月ー，滋賀県琵琶湖環境部，自然環境保全課滋賀県生きもの総合調査委員会，委員（魚貝類部会長）。

2002年7月ー，田んぼ水辺研究会，会長。

2003年5月ー，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，移入種問題検討委員会，委員（水生生態系部会部会長）。

2006年6月ー，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課，指定野生動物種および指定外来種に関する選定小委員会委員。

2007年6月ー，滋賀県農政水産部農村振興課，農村まるごと保全推進委員会，委員。

2007年8ー9月，滋賀県農政水産部農村振興課，「魚のゆりかご水田米」のロゴマーク選考委員会，委員。

2007年8月ー2009年8月，琵琶湖総合保全学術委員会，委員。

2008年2月ー，特定非営利活動（NPO）法人 旅するおさかなサポーター，顧問。

2008年2月ー，魚のゆりかご水田ネットワーク委員。

2004年10月ー，淡水魚保全研究会，常任理事。

2003年5月ー，（社）日本動物園水族館協会，種保存委員会（技術部会 人工繁殖技術検討委員会），委員。

2007年7月ー，農村整備センター，水口頭首工（野洲川）改良工事にともなう稀少種・ハリヨの保全に関するアドバイザー。

2007年8月ー2009年8月，琵琶湖総合保全学術委員会委員，滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖再生課。

2003年8月ー，国土交通省近畿地方整備局・大戸川ダム工事事務所，環境アドバイザー。

2004年4月ー，国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所，丹生ダム環境保全対策懇談会，委員。

2004年4月ー，国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所，琵琶湖および周辺河川環境に関する専門家グループ制度，委員。

2004年7月ー，環境省自然環境局，希少野生動植物種保存推進委員。

2007年6月ー，環境省自然環境局，絶滅のおそれのある動植物種の生息域外保全計画動物分科会，検討員。

2004年8月ー，環境省自然環境局，絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会，検討員（淡水魚類作業部会）。

本年度も昨年同様、研究部長および環境史研究担当のグループリーダーとしての活動を中心に行った。研究事業では6本の学術論文と1本の専門分野の著作を報告することができた。また、年度後半には北海道忠類産のナウマンゾウの再検討を行ったことに関連して、新聞でも取り上げられるような研究を公表することができた。

その他、韓国で行われた国際足跡シンポジウム（International Symposium on the Conservation and Application of Hominid Footprints）に地域の足跡研究者と出席し発表を行った。この活動は琵琶湖博物館の目標とする地域支援の一環として捉えることができる。

科研費などの外部資金による研究は、昨年度で一旦終了し、本年度は不採択であったが、総合地球環境学研究所のプロジェクトに引き続き参加することで、外部の研究者と共同で研究を進め、研究の推進と研究能力の向上を心がけている。来年度は再度外部資金に採択されるよう努力したい。

交流事業では、引き続きはしかけ活動「ほねほねくらぶ」の担当を行っている。この活動を活かして、昨年度につづき本年度もお正月展示を行った。また、展示事業では、企画展示の一部の製作や企画展関連シンポジウムの準備に多くの時間を費やした。

## 印刷物

### 【学術論文】

- Shoshani, J., Ferretti, M. P., Lister, A. M., Agenbroad, L. D., Saegusa, H., Mol, D. and Takahashi, K. (2007) Relationships within the Elephantinae using hyoid characters. *Quaternary International*, 169-170, Elsevier : 174-185.
- Takahashi, K., Wei, G., Uno, H., Yoneda, M., Jin, C., Sun, C., Zhang, S. and Zhong, B. (2007) AMS 14C chronology of the world's southernmost woolly mammoth (*Mammuthus primigenius* Blum.) . *Quaternary Science Reviews*, Elsevier, 26 : 954-957.
- 高橋啓一 (2007) 日本列島の鮮新-更新世における陸上哺乳動物相の形成過程. *旧石器研究*, 3, 日本旧石器学会 : 5-14.
- 安井謙介・高橋啓一・野嶋宏二・中嶋雅子 (2007) 中部更新統浜松累層産ナウマンゾウ化石について. *化石研究会会誌*, 化石研究会, 40 : 63-79.
- 高橋啓一・張 鈞翔 (2007) ナウマンゾウ臼歯の咬耗状態を意識した形態解析. *亀井節夫先生傘寿記念論文集*, 亀井節夫先生傘寿記念論文集刊行会 : 51-57.
- 岡村喜明・高橋啓一 (2007) 現生足跡調査から見た国内新生代足跡化石にゾウ類, シカ類が多産する要因について. *亀井節夫先生傘寿記念論文集*, 亀井節夫先生傘寿記念論文集刊行会 : 127-134.

### 【専門分野の著作】

- 岡村喜明・高橋啓一 (2007) 第IV章 足跡化石. *大垣市上石津町足跡化石調査報告書*, 大垣市教育委員会 : 33-50.

### 【一般向けの著作】

- 高橋啓一 (2007) 哺乳類・爬虫類の化石. *琵琶湖ハンドブック*, 滋賀県 : 36-37.
- 高橋啓一 (2008) 湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「語り尽くせぬ素晴らしさ」. 43, *毎日新聞* : 2007年3月25日.

## 研究活動に関する業績

- 高橋啓一（2007年4月20日）台湾新化丘陵の古生物学的・地質学的研究をはじめるとにあたって、琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[口頭発表].
- 高橋啓一・田中里志・北川博道・入江美沙・張 鈞翔（2007年6月3日）台湾の古脊椎動物研究状況と台南県南部の古生物・地質調査について，化石研究会第25回総会・学術大会，埼玉県立自然の博物館（埼玉県秩父市），[口頭発表].
- 高橋啓一（2007年7月28日）企画展示関連シンポジウム「東アジアにおける生き物と人-これからの関係を探る-」第1部「生き物と人のこれからの関係を探るために」パネル討論，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），[司会].
- 高橋啓一・サハリン沿海州班（2007年12月1日）北海道，忠類ナウマンゾウ産出地点における地質調査，地球研列島プロジェクト全体集会，コープイン京都（京都府京都市），[ポスター発表].
- Okamura, Y. and Takahashi, K.（2007年12月7日）Current conservation and applications of fossil footprints in Japan. International Symposium on the Conservation and Application of Hominid Footprints , Poonglim Resort, (Jeju Island, Korea), [口頭発表].
- 高橋啓一・北川博道・添田雄二（2008年2月2日）忠類産ナウマンゾウの再検討，日本古生物学会第157回例会，日本古生物学会，栃木県立博物館（栃木県宇都宮市），[口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館共同研究「日本列島の旧石器時代における環境変動と人間活動の関係性解明のための研究」（研究代表者：高橋啓一），研究代表者（2007～2010年度）.
- 琵琶湖博物館共同研究『琵琶湖の過去5万年間の自然環境史解析』研究のための事前準備（研究代表者：井内美郎），共同研究者（2007年度）.
- 琵琶湖博物館専門研究「奥山コレクションの整理と古生物学的意義付け」，（2007年度）.
- 総合地球環境学研究所プロジェクト「日本列島における人間-自然相互関係の歴史的・文化的検討」（研究代表者：湯本貴和），プロジェクトメンバー（2006～2010年度）.
- 国際第四紀学連合 INQUA 小委員会「東アジアにおける酸素同位体ステージ3の環境変動と考古学」準備委員会（代表：小野 昭），委員（2007年度）.

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本第四紀学会，評議員，2007年8月～2009年8月.
- 日本第四紀学会，博物館連絡委員，2007年8月～2009年8月.
- 化石研究会，事務局長，2003年6月～.

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2007年9月23～25日，島根大学総合理工学部，「博物館学Ⅱ」集中講義.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

- フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，12件.
- はしかけ運営，ほねほねくらぶ，担当.

2007年7月22日、夏休み自由研究講座、琵琶湖博物館、運営。  
2007年8月2日、琵琶湖博物館の設置理念と概要、博物館実習、講義。  
2007年10月21日、化石の観察会、観察会、多賀町、案内。

#### **他の博物館・機関等主催行事**

2007年7月5日、琵琶湖環境部新任職員研修、琵琶湖博物館、講師。  
2007年7月23日、石部高校、琵琶湖博物館、講師。  
2007年7月24日、膳所高校理科、琵琶湖博物館、講師。  
2007年8月22日、環境教育担当者連絡会議、琵琶湖博物館、講師。  
2007年9月8日、理科総合B、膳所高校、琵琶湖博物館、講師。  
2007年11月25日、平成19年度自然史学会連合講演会、琵琶湖博物館、企画・運営。  
2008年1月12日、立命館守山中学校「わくわく探検隊」、琵琶湖博物館、講師。

#### **視察対応**

2007年7月4日、琵琶湖博物館の説明・展示案内、韓国亀尾市長一行。  
2007年7月31日、琵琶湖博物館の説明・展示案内、中国貴州省環境教育担当者。  
2007年8月8日、琵琶湖博物館の説明、北方領土返還要求運動滋賀県民会議北方青少年少女派遣事業。  
2007年9月11日、琵琶湖博物館の説明・展示案内、韓国慶南大学校博物館。

#### **メディアへの協力**

2007年7月24日、讀賣新聞しが県民情報、ミエゾウは琵琶湖のほとりにすんでいた？、インタビュー（2007年6月18日取材）。  
2008年1月10日、十勝毎日新聞、忠類で70年発掘ナウマンゾウ象骨格、インタビュー（2008年1月9日取材）。  
2008年1月11日、北海道新聞、ナウマン象化石にマンモスの歯、インタビュー、（2008年1月10日取材）。  
2008年1月31日、讀賣新聞、ナウマンゾウにマンモスの歯混じる、インタビュー、（2008年1月30日取材）。  
2008年1月31日、中日新聞、69年発見のナウマンゾウ実は50歳超だった、インタビュー、（2008年1月30日取材）。  
2008年1月31日、毎日新聞、北海道で発掘のナウマン象の化石の一部マンモスの臼歯と判明、インタビュー、（2008年1月30日取材）。  
2008年2月5日、北海道新聞、忠類のナウマン象年齢は50歳程度、インタビュー、（2008年2月2日取材）。  
2008年3月19日、北海道新聞、忠類マンモス化石年代は約4万年前、インタビュー、（2008年3月18日取材）。

#### **【情報整備活動】**

##### **琵琶湖博物館の活動**

哺乳類標本データベース公開、担当。

#### **【資料整備活動】**

##### **琵琶湖博物館の活動**

岩石鉱物資料、受入。  
化石資料、受入。  
脊椎動物資料、受入。

#### **【展示活動】**

##### **琵琶湖博物館の活動**

モーニングレクチャー，講義，3回。

2007年3月20日～5月6日，ギャラリー展示「続 鉱物・化石展」，展示補助。

2007年7月14日～11月25日，第15回企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話—東アジアの中の湖と人—」，展示担当。

2007年12月18日～2008年2月3日，お正月開館トピック展示「ネズミ」，展示制作。

#### 【企画調整活動】

新任研修，博物館について・A展示室紹介，2007年4月10日・12日。

JICA博物館学集中コース，琵琶湖博物館の研究事業について，2007年5月13日。

学校への説明訪問，京都府内小中学校，6件。

行幸啓，2007年11月11日。

#### 【研究部関連事業】

研究計画の策定と調整・研究予算の編成と執行管理，環境史研究担当の研究推進，2007年度。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館内の人事】

2004年～2007年度，図書選定委員。

#### 【海外渡航】

2007年12月6日～12月9日，韓国済州島，International Symposium on the Conservation and Application of Hominid Footprints での発表。

2007年1月17日～1月21日，サハリン教育大学歴史学部・サハリン州立博物館，総合地球環境学研究所のプロジェクト研究に関わるサハリン産脊椎動物化石調査。（\*）

2007年3月26日～3月30日，台湾台南県菜寮地区，科学研究費申請のための台湾産脊椎動物化石産地の予備調査。（\*）

（\*）前年度書き漏れたもの

#### 【館外の活動】

2006年～2007年，亀井節夫先生傘寿記念論文集刊行会，世話人。

2007年～2010年，The Vth International Conference on Mammoths, Scientific Committee.

2004年4月～，滋賀県生きもの総合調査調整会議幹事会，委員。

2004年4月～，滋賀県科学技術政策推進会議，幹事。

2005年4月～，滋賀県環境部研究推進ミーティング，委員。

研究テーマは、「新生代の大型植物化石の研究」とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による古植生の復元、古植物相の変遷、古環境などを明らかにすることを目的としている。

今年度は、特に「鮮新—更新統の化石林に基づく古植生復元」を課題として、愛知川化石林の古植生・古環境復元の再検討を行った。また、共同研究「古琵琶湖出現期の古環境解析」および「日本列島の旧石器時代における環境活動と人間活動の関係性解明のための研究」に繋がる研究活動も行った。これらの主な研究内容と結果は、下記のとおりである。

#### 1. 後期鮮新世愛知川化石林の古環境復元の再検討

第三紀植物群の構成要素である落葉針葉樹のメタセコイア *Metasequoia* とスイショウ *Glyptostrobus* からなる化石林の復元を再検討した。愛知川化石林は1993年に研究報告がまとめられており、メタセコイアやスイショウなどスギ科を中心とした落葉針葉樹とハンノキやトネリコ属など落葉広葉樹が随伴する湿地林だったと考えられている。今回、1993年の研究に用いた樹幹・樹根化石の木材プレパラート標本と、化石林包含層産の定量的な大型植物化石を用いて、古植生の復元を行った。その結果、樹幹・樹根化石の木材組織の再同定により、これまでスギ科と鑑定されていたもののうち、放射細胞間の隙間の有無、放射柔細胞の高さの相違によって、メタセコイアとスイショウに識別できることができた。またバラ科とされていたもので、今回ナナカマド属に再同定することができた。このことから、メタセコイアとスイショウの時空間分布が再現でき、主にスイショウとハンノキからなる湿地林とメタセコイアとトネリコ属、ナナカマド属からなる湿地林が存在したことが明らかになった。また、メタセコイアは樹幹幹径が100cm以上の大型の樹幹・樹根化石からなり、有機質に富むシルト層に分布していたことから、メタセコイアの方がスイショウよりも古土壌が発達するような環境下で生育していたと考えられた。現在ではそれぞれ中国西南部と中国南部・ベトナムに分離して分布しているメタセコイアとスイショウであるが、日本の後期鮮新世後半では両者とも湿地林を構成する主要な構成種であり、当時からメタセコイアとスイショウの生育環境は異なっていたと推定された。

#### 2. 古琵琶湖層群上野層から産出した木材化石

上野地域の古琵琶湖層群から産出する大型植物化石の組成から、古琵琶湖が最初に形成された時期の古植生・古環境を明らかにすることを目的とした。今年度は、特に層相および火山灰層序が確立され、古地磁気の再検討が本共同研究で行われている服部川河床に分布している古琵琶湖層群の上野層、伊賀層から産出した大型植物化石群を明らかにした。今回、原地性の高い木材化石群からの初めての見解を加えることができた。服部川河床の古琵琶湖層群から産出した木材化石は総数143点で、14の分類群が識別できた。これらの木材化石群は、主にメタセコイア属、スギ属を含む針葉樹スギ科と落葉広葉樹ヤナギ属、ハンノキ属、モクレン属からなる。スギ科メタセコイア属や落葉広葉樹ハンノキ属、ヤナギ属などは湖沼や湿地性植物であり、大山田湖の水辺に生育していたと考えられる。泥層が主体の上野層よりも砂泥互層からなる伊賀層の方が木材化石の供給範囲が広いと考えられ、伊賀層の木材化石群集の方が後背地の植生を反映していると考えられる。伊賀層でのみ確認されたマツ科モミ属、ケヤキ属、ムクノキ属、トネリコ属は、堆積場（湖沼）の周辺や後背地に生育していたと思われる。また、伊賀層の木材化石産出層準I-11とI-12の間の泥層で、ヒシの果実化石の密集とハス科の地下茎化石が確認でき、上野層に比べて砂層が卓越してくる伊賀層でも一部止水域が存在したと考えられる。これまでの研究では、木材を除く大型植物化石群集は、主にスギ科のメタセコイアやスイショウ、落葉広葉樹のフウ属、コナラ亜属などが多産しているが、木材化石で多産した落葉広葉樹のハンノキ属やヤナギ属は顕著ではない。また、常緑広葉樹のクスノキ属やアカガシ亜属の化石が服部川I・II火山灰層の層準から産出しているが、今回木材化石群集では確認できなかった。これらの植物は、堆積場である湖沼や湿地の周辺地域に分布していたと推測される。

## 印刷物

### 【学術論文】

山川千代美 (2008) 古琵琶湖層群産化石林に基づく後期更新世の古植生の時空間分布. 千葉大学大学院理学部自然科学研究科, 学位論文: 74p.

### 【一般向けの著作】

山川千代美 (2007) 湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「化石林が語る太古の湿地林」. 23, *毎日新聞*: 2007年10月2日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

南澤 修・松本みどり・百原 新・山川千代美・植村和彦 (2007年11月17・18日) 古琵琶湖層群に含まれる2つの植物化石群の組成とそこから復元される古環境. 第22回日本植生史学会, 日本植生史学会, 大阪市立自然史博物館 (大阪市), [口頭発表].

矢部 淳・山川千代美 (2007年11月17・18日) 古琵琶湖層群の植物遺体を用いた「植生史研究」体験実習の試み. 第22回日本植生史学会, 日本植生史学会, 大阪市立自然史博物館 (大阪市), [ポスター発表].

山川千代美 (2008年2月15日) 化石林に基づく古環境復元-後期鮮新世のスイショウ属とメタセコイア属の時空間分布-. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖出現期の古環境解析」(研究代表者: 里口保文), 研究副代表 (2005-2006年度).

琵琶湖博物館共同研究「日本列島の旧石器時代における環境変動と人間活動解明のための研究」(研究代表者: 高橋啓一), 共同研究者 (2007-2010年度).

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2007年4月-2008年3月, 千葉大学大学院理学部生命・地球科学専攻, 「古琵琶湖層群に含まれる4つの植物化石群の組成と古植生復元」.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 10件.

2007年7月22日, 夏休み相談室, 琵琶湖博物館, 実習補助, (北田 稔氏共同).

2007年8月6日, 資料活用・IPMくん蒸, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講義.

2007年10月21日, 化石の観察会, 観察会, 滋賀県多賀町, 担当, (阿部氏共同).

2008年2月24日, 地学研究発表会, 研究交流, 滋賀大学大津サテライトプラザ, 運営・司会, (中野聡志氏共同).

2008年3月8日・22日, 体験学習, 葉っぱの化石を観察してみよう, 琵琶湖博物館, 実習協力, 2件, (はしかけびわたん共同).

### **他の博物館・機関等主催行事**

2007年8月22日、植物化石からみた環境変化、滋賀県教育委員会、平成19年度環境教育研究協議会、琵琶湖博物館、講師。

2007年10月20日、化石からみる古琵琶湖の環境、立命館守山高等学校、体験学習、琵琶湖博物館、講師。

2007年11月17日、琵琶湖のおいたち、NPO法人自然と緑、第13期自然大学琵琶湖実習、琵琶湖博物館、講師。

2008年2月16日、琵琶湖学習、立命館守山中学校、ミュージアムスクール、琵琶湖博物館、講師。

### **【資料整備活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

くん蒸、担当、5件。

図書資料整備、担当。

IPM 関連整備、担当。

植物化石標本整備、同定。

地学標本特別観覧、受入担当、2件。

#### **他博物館・機関の活動**

益富地学標本館・京都市青少年科学センター、山城丘陵の大阪層群産大型植物化石、植物化石標本同定。

### **【展示活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

2007年3月20日～5月6日、ギャラリー展示鉱物化石展「続・湖国の大地に夢を掘る」、副担当。

2007年5月、常設展示・顕微鏡設置、担当。

2007年9月2日・10月28日、企画展示関連イベント・人形劇、担当、2件。

2007年10月7日・21日、企画展示関連イベント・紙芝居、担当、2件。

展示交流員と話そう、内容指導。

### **【企画調整活動】**

新任者研修、展示解説、2007年4月12日、琵琶湖博物館。

学校への訪問説明、京都府内小中学校、3件。

行幸啓、2007年11月11日。

### **【研究部関連事業】**

琵琶湖博物館企画展示関連シンポジウム、受付・マイク係、2007年7月28日、琵琶湖博物館。

自然史学会連合会シンポジウム、講師接待、2007年10月25日、琵琶湖博物館。

今年度は、総合研究「東アジアの中の琵琶湖：コイ科魚類の展開を軸にしたその環境史に関する研究」（研究代表者：中島経夫）の成果である企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話-東アジアの中の湖と人-」および関連シンポジウム「東アジアにおける生き物と人-これからの関係を探る-」の準備および実施に全力を傾注した。

研究では、科学研究費補助金基盤研究(C)「日本中世における内水面の環境史的研究」（研究代表者：橋本道範）、琵琶湖博物館申請専門研究「日本中世における内水面の環境史的研究-その環境と生業-」（研究代表者：橋本道範）、科学研究費補助金基盤研究(B)「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」（研究代表者：水野章二）に関しては、環境史研究の研究史整理を行い、その成果の一部を報告した。また、備前国豊原庄（現岡山県瀬戸内市周辺）の環境復元研究に必要な近世の「邑久郡図」のトレース図を作成し、中世の地域社会を考察するのに不可欠な史料である餘慶寺所蔵「涅槃図裏書」の復元作業を行っている。

次に、総合地球環境学研究所の研究プロジェクト4-4「東アジア内海の新石器化と現代化-景観の形成史-」（研究代表者：内山純蔵）に関しては、有明海の中世における干拓に関する研究史整理を行い、また、殺生禁断が行われた‘寺辺’という不可視的景観の復元がGISを使ってできるかどうかについて検討を行っている。

その他事業関係の業務については下記を参照されたい。

## 印刷物

### 【一般向けの著作】

橋本道範（2007）魚と人との奇妙な関係のはじまり-琵琶湖の殺生禁断-. うみんど, 44, 琵琶湖博物館：6.

橋本道範（2008）湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「古文書が語る歴史の断片」. 34, 毎日新聞：2008年1月8日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

橋本道範（2008年1月13日）日本列島内海の中世を基点とする景観の質的变化について-有明海の「現代化」論に向けて. 総合地球環境学研究所研究プロジェクト4-4「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」北部九州ワーキンググループ会議, 総合地球環境学研究所研究プロジェクト4-4「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」, 天理参考館（奈良県天理市）, [口頭発表].

橋本道範（2008年3月15日）環境史の可能性について-佐野報告に対するコメント-. 大阪歴史科学協議会3月例会, 大阪歴史学協議会, 大淀コミュニティセンター（大阪府大阪市）, [口頭発表].

橋本道範（2008年3月21日）Prohibition of hunting and fishing around temples: Reorganization of an invisible landscape. NEOMAP 2007年度第二回全体会議, 総合地球環境学研究所4-4プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」, 総合地球環境学研究所（京都府京都市）, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

総合地球環境学研究所4-4プロジェクト「東アジア内海の新石器化と現代化：景観の形成史」（研究代表者：内山純蔵）, メンバー（2005年度～2011年度）.

科学研究費補助金基盤研究(B)「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」（研究代表者：水野章二）, 共同研究者（2006年度～2009年度）.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### メディアへの協力

2007年12月5日、ラジオ大阪、むさし・ふみ子の朝はミラクル「日経ビジネスサポートトピックス」コーナー、出演。

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

歴史資料修理保存処理委託，準備・指導，30点。

歴史資料撮影委託，準備・指導，16点（20カット）。

館蔵資料東寺文書（滋賀県所有本）県指定のための調査、準備，176点。

館蔵資料の貸出，2件。

歴史資料写真の貸出，3件。

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回。

2007年7月14日～11月25日，第15回企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話 第三幕コイ・フナ、銭になる」，準備、製作、史料借用・陳列、運営等。

2007年度，展示交流担当，主担当。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館外の活動】

2004年11月～，邑久町史編集委員会，中世史部会，専門委員。

主として、古琵琶湖層群とその同時代の地層（鮮新-更新統）にある火山灰層をもとに、広範囲の詳細な地層層序をあみ、時空間的な地層形成環境の変化や、日本の鮮新-更新世の爆発的火山噴火活動史を明らかにすることを目的としている。

2007年度の前半は、共著論文、主著論文2件の作成と、3件の学会発表準備などの活動、つまり前半の研究活動は、公表する事に力を注いだ。共著論文と主著論文1件は出版され、主著論文1件については、受理後印刷中である。学会発表については、3件とも異なった内容で行った。1件目は、古琵琶湖層群と同時期の地層を対象とした研究について、今後どのような研究が必要になるかのシンポジウムを企画し、その趣旨説明を行った。趣旨説明は、これまでの鮮新-更新統の研究の概要を述べた上で、今後どのような研究が必要であるのかの展望を述べた。2件目は、これから行おうとしている共同研究の内容であり、現在の琵琶湖がどのように形成されたのかについて、これまでの研究を再検討した結果を発表した。3件目は、火山灰の広域対比について発表を行った。

また、琵琶湖における地球科学的な研究成果の情報発信として、琵琶湖の高島沖で掘削されたボーリングコア中にある火山灰の電子図鑑を、福島大学の長橋良隆准教授と共同で作成し、公開した。これについては、予想外の反響がメディアからあり、新聞社やテレビでも紹介いただいた。このような、これまで琵琶湖で行われている研究成果については、周辺研究者の協力を得ながら、今後も続けていきたいと考えている。

さらに、前年度の終わりから今年度初めにかけて、地域の化石や鉱物愛好家と共同で行うギャラリー展示として、鉱物・化石展「続・湖国の大地に夢を掘る」を開催した。これは地域の方々が化石や岩石・鉱物を対象として、収集したり、研究したりしてきたものを、それぞれの方が自分の思いで展示をするという企画の2回目であり、前回よりも展示への参加者が大幅に増え、故人の展示も行うなど、前回よりもさらに充実した内容となった。これは、この企画に力を注いだ実行委員会の方々の思い・努力によるところが大きい。なお、この展示では、展示に参加された方々による展示室内での説明や交流といった企画なども行われた。

年度後半には、今年度で終了する共同研究のまとめを行い、論文の執筆中である。また、外部の研究プロジェクトの調査に参加するなど、新たな研究を模索している。

これまでの研究成果やこれから行おうとする研究、研究を元にした交流活動をはじめとする博物館活動の発信を、琵琶湖博物館インターネットページの個人管理ページで行っている。また、このページをみて直接地学の質問をしてくる利用者に対して回答をしたり、地域の情報を寄せてもらうなど、同時に交流も行っている。また、滋賀県に關係する地学関係者による情報交換や交流、研究の活発化などを目的として、琵琶湖博物館地学関係学芸職員と共に事務局をもち、研究会を開いている。この研究会の活動については、前述の個人管理ページにおいて研究会のページを作成して紹介している。

## 印刷物

### 【学術論文】

Nagahashi, Y. and Satoguchi, Y. (2007) Stratigraphy of the Pliocene to Lower Pleistocene marine formations in Japan on the basis of tephra beds correlation. *The Quaternary Research (Daiyonki-Kenkyu)*, 46 : 205-213.

里口保文・服部 昇 (2008) 中部更新統古琵琶湖層群上部と上総層群上部の火山灰層の対比. *第四紀研究*, 47:15-27.

### 【専門分野の著作】

里口保文（2007）書評：大阪市立自然史博物館叢書①「大和川の自然」．日本地質学会 *News*, 10 : 35-36.

### 【一般向けの著作】

里口保文（2007）生い立ち．琵琶湖ハンドブック編集委員会 編，*琵琶湖ハンドブック*，滋賀県琵琶湖環境部，滋賀県：20-21.

里口保文（2007）琵琶湖は今も動いているか．琵琶湖ハンドブック編集委員会 編，*琵琶湖ハンドブック*，滋賀県琵琶湖環境部，滋賀県：22.

里口保文（2007）湖と人と—琵琶湖博物館の10年—「琵琶湖底の火山灰」．28，*毎日新聞*：2007年11月13日．

企画展示実行委員 編・著（2007）第15回企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話—東アジアの中の湖と人—」，琵琶湖博物館：66p.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

里口保文（2007年6月15日）火山灰層対比からみた津房川層の年代．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

里口保文（2007年8月17日）趣旨説明—鮮新—更新統の層序の確立と今後の研究に向けて—．地学団体研究会第61会総会，地学団体研究会，大阪市立大学（大阪市），[口頭発表].

里口保文（2007年8月31日）火山灰層序からみた琵琶湖形成についての考察．日本第四紀学会2007年大会，日本第四紀学会，神戸大学（神戸市），[ポスター発表].

平中宏典・長橋良隆・里口保文・吉川周作・井内美郎・柳沢幸夫・黒川勝己・公文富士夫（2007）日本テフラデータベース（J-Tephra）の構築．日本第四紀学会，神戸大学（神戸市），[口頭発表].

里口保文・柴 正博・川端清司（2007年9月9日）シンポジウム6 地質学の社会教育・普及へ研究者に求められるもの．日本地質学会第114年学術大会，日本地質学会，北海道大学（札幌市），[シンポジウム企画・座長].

里口保文（2007年9月10日）広域層序対比．日本地質学会第114年学術大会，日本地質学会，北海道大学（札幌市），[座長].

里口保文（2007年9月10日）東海層群の禰宜上火山灰層と0m-SK110テフラ層の対比．日本地質学会第114年学術大会，日本地質学会，北海道大学（札幌市），[口頭発表].

芦田貴史・岩本直哉・井上卓彦・塩屋藤彦・里口保文・井内美郎（2007年9月11日）琵琶湖湖底堆積構造からみた湖水水面変動と環境変動．日本地質学会第114年学術大会，日本地質学会，北海道大学（札幌市），[ポスター発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖出現期の古環境解析」（研究代表者：里口保文），研究代表者（2005年度～2007年度）.

琵琶湖博物館共同研究「『琵琶湖の過去5万年間の自然環境史解析』研究のための事前準備」（研究代表者：井内美郎），共同研究者（2007年度）.

### 【学会等の役職・運営，論文の査読など】

日本地質学会，代議員（全国区），2007年5月～2009年5月．

日本地質学会，生涯教育委員会委員，2007年度．

日本地質学会，地質学雑誌，査読，2件．

日本第四紀学会，テフラ・火山研究委員会委員，2007 年度.

日本第四紀学会，第四紀研究編集委員，2007 年 9 月～2009 年 8 月.

日本堆積学会，事務局員，2008 年 1 月～2009 年 12 月.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，10 件.

2007 年 7 月 24 日，地層の見方講座-みなくち子どもの森を例にして-，指導者向け観察会，みなくち子どもの森・甲賀市，担当，(みなくち子どもの森自然館・小西省吾氏と共同開催).

2007 年 10 月 21 日，化石の観察会，観察会，多賀町，運営補助，(高橋・山川担当).

#### 他の博物館・機関等主催行事

2007 年 7 月 23 日，琵琶湖のおいたち，石部高校，琵琶湖探求 2007 (夏季集中講義)，琵琶湖博物館，講師.

2007 年 8 月 23 日，古琵琶湖層の地層と火山灰観察，滋賀県教育委員会および理数大好き実行委員会，平成 19 年度理数大好き研修会，琵琶湖博物館，講師.

2007 年 8 月 25 日，夏の思い出づくり化石のレプリカをつくろう！，JAF 滋賀支部，自然体験イベント，琵琶湖博物館，講師.

2008 年 1 月 27 日，大山田と琵琶湖の関係，大山田むらびとづくり推進会議，第 7 期「むらびと塾」，琵琶湖博物館，講師.

2008 年 2 月 2 日，立命館守山中学校，ミュージアム・スクール「琵琶湖学習」，琵琶湖博物館，講師.

#### メディアへの協力

2007 年 4 月 6 日，KBS 京都ラジオ，知っとこ滋賀，ギャラリー展示「鉱物・化石展『続・湖国の大地に夢を掘る』」紹介，(2007 年 4 月 6 日生放送).

2007 年 4 月 25 日，BBC 琵琶湖放送，「びびっとモーニング」ゴールデンウィークお出かけ情報，ギャラリー展示「鉱物・化石展『続・湖国の大地に夢を掘る』」紹介，(2007 年 4 月 18 日取材).

2007 年 7 月 23 日，NHK 大津，ニュース「明日の催し紹介」，地層の見方講座の概要説明，(2007 年 7 月 18 日取材).

2007 年 9 月 14 日，中日新聞，湖底火山 HP で公開，電子図鑑「琵琶湖地域の火山灰」の紹介，(2007 年 9 月 13 日取材).

2007 年 9 月 15 日，京都新聞，火山灰調査電子図鑑に，電子図鑑「琵琶湖地域の火山灰」の紹介，(2007 年 9 月 13 日取材).

2007 年 9 月 22 日，朝日新聞，湖底で探る噴火の歴史，電子図鑑「琵琶湖地域の火山灰」の紹介と滋賀県に火山灰が降灰した歴史，(2007 年 9 月 14 日取材).

2007 年 10 月 9 日，NHK 大津放送局，「おうみ発 610」びわ湖クローズアップ，電子図鑑「琵琶湖地域の火山灰」と火山灰の紹介，(2007 年 10 月 9 日生放送).

2008 年 2 月 22 日，朝日放送，「ムーブ！」ムーブ！の疑問，淀川の源って？，(2008 年 2 月 21 日取材).

### 【情報整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

電子図鑑「琵琶湖地域の火山灰」，75 件の火山灰について編集および全体ページの作成.

琵琶湖博物館個人管理ページ (里口)，管理・運営，更新多数.

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回。

2007年10月7日，A展示室「最近寄贈された標本」展示の更新，展示更新担当。

##### 他博物館・機関の活動

(独)日本万国博覧会記念機構自然観察学習館，2007年4月，アズキ火山灰層露頭の紹介展示協力。

#### 【企画調整活動】

博物館実習，全体調整，2007年度，琵琶湖博物館。

出版物管理，全体調整，2007年度，琵琶湖博物館。

研究部連絡調整，連絡調整，2007年度，琵琶湖博物館。

新任職員研修，全体調整，2007年度，琵琶湖博物館。

業績目録，編集，2007年度，琵琶湖博物館。

学校への訪問説明，京都府内小中学校，3件。

行幸啓，2007年11月11日。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館外の活動】

2007年度，大津市科学館，協議会，委員。

2007年度，愛媛大学沿岸環境科学研究センター，客員研究員。

2007年度，東近江市史調査執筆委員，委員。

花粉化石群集の組成変化や、遺跡を対象とした環境考古学的手法をもちいて最終氷期以降の自然環境の変遷と人間活動との関係性を検討している。近年は、近江はもとより南部アフリカやアジア各国を対象に、フィールド科学の立場から「人為的環境の成立過程」の復原を行っている。

まず、琵琶湖博物館総合研究「東アジア」の成果では、前畑政善・宮本真二 編 川那部浩哉 監修 「鯰（ナマズ）イメージとその素顔」の編集と、その中で宮本真二（2008）縄文時代以降のナマズの分布変化を所収した。専門研究では、近江盆地や山城盆地において継続してきた先史時代以降の地形環境変遷の知見との比較研究のため、臨海平野の濃尾平野に位置する遺跡において現地調査を行い、その結果については、宮本真二・上中央子（2008）「庄内川低地、平手町遺跡における地形環境の変遷と遺跡立地」平手町遺跡第4次調査報告書でその成果の一部を公表した。

この研究テーマでは、科研費・若手研究B「自然環境の変遷と人間活動の対応関係の解明」（研究代表者：宮本真二）と連動して行い、インド北東部やバングラデシュで現地調査を行い、その成果については、宮本真二・安藤和雄：「アッサム・ヒマラヤにおける土地開発過程-インド、アルナチャール・プラデーシュ州の事例-」歴史地理学会第50回大会、宮本真二・安藤和雄：「バングラデシュ中央部、ジャムナ川中流域平野に分布する屋敷地の形成過程」人文地理学会大会で学会発表を行った。さらに、上記研究の成果の一部を、宮本真二「ヒマラヤ地域、高所山岳地域の自然災害問題」ヒマラヤ学誌、9で公表した。

その他に、外部研究プロジェクトでは、科研費・基盤研究A「南部アフリカにおける「自然環境-人間活動」の歴史の変遷と現問題の解明」で、ナミビア共和国で継続調査を実施し、宮本真二「ナミブ砂漠、クイセブ川中流域に分布する河成堆積物の評価」日本アフリカ学会第44回学術大会でその一部を公表した。また、科研費・基盤研究A「ブラマプトラ川流域地域における農業生態系と開発-持続的発展の可能性-」、総合地球環境学研究所プロジェクト研究「人間の生老病死と高所環境-3大「高地文明」における医学生理・生態・文化適応-」、滋賀大学環境総合研究センタープロジェクト研究「水辺エコトーンにおける伝統的生業活動とコモنزの変容に関する学際的研究」、科研費・基盤研究B「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合研究」、総合地球環境学研究所プロジェクト研究「東アジア内海の新石器と現代化：景観形成史」に研究分担者や研究協力者として参加し、上記研究テーマを推進し、新たなテーマ・調査地の開拓を行っている。

これらの研究は環境史研究領域を対象とするものであるが、環境考古学さらには環境史といった研究領域群は、既存学問分野においては境界領域に位置している。したがって、自然科学的方法論を手段としつつ、人文・社会科学の諸分野との共同研究から、「人と自然との関係性の歴史的検討」という主題に関して、世界各地の地域研究を通じて模索してゆきたい。

## 印刷物

### 【学術論文】

宮本真二（2008）ヒマラヤ地域、高所山岳地域の自然災害問題. *ヒマラヤ学誌*, 9, ヒマラヤ研究会, 京都 : 39-53.

### 【専門分野の著作】

Miyamoto, S. (2008) Chronology and Sedimentary Environment of the Fluvial Sediments along the Kuiseb River in Namib Desert, Namibia. In Mizuno, K., ed., *Existing permit to conduct research, Ministry of Environment and Tourism of Namibia Ministry of Environment and Tourism of Namibia* : 23-29.

Miyamoto, S. (2008) Vegetational Changes since the Last Glacial from the Pollen Influx in Hokuriku District, Central Japan. *Geographical review of Japan English Edition*, 80 (5) : 330-331.

宮本真二・上中央子 (2008) 庄内川低地、平手町遺跡における地形環境の変遷と遺跡立地. *平手町遺跡第4次調査報告書*, 名古屋市教育委員会, 名古屋 : 34-46.

#### 【一般向けの著作】

宮本真二 (2008) 縄文時代以降のナマズの分布変化. 前畑政善・宮本真二 編・川那部浩哉 監修, *鯰 (ナマズ) イメージとその素顔*, 八坂書房, 東京 : 34-46.

前畑政善・宮本真二 編・川那部浩哉 監修 (2008) *鯰 (ナマズ) イメージとその素顔*. 八坂書房, 東京 : 260p.

宮本真二 (2007) 湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「自然と人間の『関係性』の糸口」. 20, *毎日新聞* : 2007年8月28日.

## 研究活動に関する業績

#### 【学会・研究会での発表】

宮本真二 (2007年5月10日) ナミブ砂漠、クイセブ川中流域に分布する河成堆積物の評価. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

宮本真二 (2007年5月11日) アッサム・ヒマラヤにおける土地開発過程-インド、アルナチャール・プラデーシュ州の事例-. 第12回環境史研究会, 環境史研究会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

宮本真二・安藤和雄 (2007年5月17日) アッサム・ヒマラヤにおける土地開発過程-インド、アルナチャール・プラデーシュ州の事例-. 歴史地理学会第50回大会, 歴史地理学会, 國學院大學 (東京都), [口頭発表].

宮本真二 (2007年5月24日) ナミブ砂漠、クイセブ川中流域に分布する河成堆積物の評価. 日本アフリカ学会第44回学術大会, 日本アフリカ学会, 長崎市ブリックホール (長崎県長崎市), [口頭発表].

宮本真二・安藤和雄 (2007年6月29日) ヒマラヤにおける土地開発過程研究の展望. ブラマプトラ科学研究会, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科, 京都大学東南アジア研究所 (京都府京都市), [口頭発表].

宮本真二 (2007年11月19日) バングラデシュ中央部、ジャムナ川中流域平野に分布する屋敷地の形成過程. 2007年度人文地理学会大会, 人文地理学会, 関西学院大学 (兵庫県西宮市), [口頭発表].

宮本真二 (2007年12月3日) ヒマラヤ地域、高所の環境問題. ブラマプトラ科学研究会, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科, 京都大学東南アジア研究所 (京都府京都市), [口頭発表].

宮本真二・安藤和雄 (2008年1月24日) ヒマラヤ山脈における土地開発過程. 京都大学生存圏研究所研究集会, 京都大学生存圏研究所研究集会「自然地理条件と持続可能な開発-ブラマプトラ流域を対象として-」, 京都大学生存圏研究所 (京都府宇治市), [口頭発表].

#### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「野洲川流域平野における遺跡立地の環境考古学的研究」, (2007年度).

文部科学省科学研究費・若手研究 B「自然環境の変遷と人間活動の対応関係の解明」(研究代表者:宮本真二), 研究代表者 (2005-2007年度).

文部科学省科学研究費・基盤研究 A「南部アフリカにおける「自然環境-人間活動」の歴史の変遷と現問題の解明」(研究代表者:水野一晴), 研究分担者 (2005-2009年度).

文部科学省科学研究費・基盤研究 B「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合研究」(研究代表者:水野章二), 研究分担者 (2006-2009年度).

滋賀大学環境総合研究センタープロジェクト研究「水辺エコトーンにおける伝統的生業活動とコモンスの変容に関する学際的研究」(研究代表者:佐野静代), 研究分担者 (2005-2007年度).

文部科学省科学研究費・基盤研究A「ブラマブトラ川流域地域における農業生態系と開発-持続的発展の可能性-」(研究代表者:安藤和補),研究協力者(2005-2009年度).

総合地球環境学研究所プロジェクト研究「人間の生老病死と高所環境-3大「高地文明」における医学生理・生態・文化適応-」(研究代表者:奥宮清人),研究メンバー(2006-2011年度).

総合地球環境学研究所プロジェクト研究「東アジア内海の新石器と現代化:景観形成史」(研究代表者:内山純蔵),研究メンバー(2006-2011年度).

#### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

環境史研究会,企画・運営,2003年-.

人文地理学会,地理学文献目録編集員・雑誌担当委員,2006年7月-.

日本地理学会,地理学評論,査読,1件.

人文地理学会,歴史地理部会世話人,2007年11月-.

#### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2007年12月8・9・10日,滋賀県立大学集中講義,自然地理学.

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー,琵琶湖博物館,12件.

2007年6月2日,活断層っていったい何?,観察会,琵琶湖博物館,高島市,企画・運営.

##### 視察対応

2008年1月19日,博物館と研究活動の紹介,立命館大学地理学教室・韓国文化財研究所,琵琶湖博物館.

#### 【情報整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

電子情報発信の全体計画に関すること,主任.

電子媒体による広報活動に関すること,副主任.

質問・回答データベースシステムの開発に関すること,主任.

電子情報発信の基盤整備に関すること,主任.

琵琶湖博物館個人ページ(宮本),新規開設、更新.

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー,講義,3回.

第15回企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話-東アジアの中の湖と人-」,副担当.

#### 【企画調整活動】

年報に関すること,主任.

外国語版博物館刊行物に関すること,副主任.

学校への訪問説明,京都府内小中学校,2件.

**【研究部関連事業】**

研究助成に関わること，主任.  
電子顕微鏡の維持管理，主任.

**館内の人事・館外活動等に関すること**

**【館内の人事】**

2007 年度，うみんど，編集委員.

**【海外渡航】**

2008 年 4 月 1 日～4 月 10 日，大韓民国，研究打合せ・現地調査・資料収集.

2008 年 7 月 15 日～7 月 29 日，インド共和国，現地調査・資料収集.

2008 年 8 月 3 日～8 月 30 日，ナミビア共和国・タイ王国，現地調査・資料収集.

2008 年 2 月 16 日～3 月 11 日，インド共和国・バングラデシュ人民共和国，現地調査・資料収集.

**【館外の活動】**

2001 年 1 月～，高月町町誌史編纂委員会，編纂委員.

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化したのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、東アジアの中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

本年度の学術論文の発表は英文・共著で 6 本行った。論文タイトルは『The *Hercostomus ulrich* group from Palaeartic China (Diptera: Dolichopodidae)』、『New data on *Asyndetus* (Diptera: Dolichopodidae) from China, with description of a new species』、『Notes on *Nepalomyia* (Diptera: Dolichopodidae) from Taiwan』、『Two new species of *Diostracus* from China (Diptera: Dolichopodidae)』、『Two new *Plagiozopelma* species with a key to Chinese species (Diptera: Dolichopodidae)』、『New species of *Diostracus* from Yunnan, China (Diptera: Dolichopodidae)』であった。これらは中国や台湾における調査で得た標本に基づき、おもに新種記載を行ったものである。

文部科学省の科学研究費補助金 (科研費) の研究「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」において研究代表者として、2007 年 8 月 4 日から 8 月 11 日の間イギリスで、2007 年 12 月 2 日から 12 月 17 日の間ニュージーランドで調査を行った。これらの地域に固有な種 (未記載を含む) を多数採集できた。この他、日本各地で多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製や DNA の解析を行っている。

## 印刷物

### 【学術論文】

- Zhang, L., Yang, D. and Masunaga, K. (2007) The *Hercostomus ulrich* group Palaeartic China (Diptera: Dolichopodidae). *Entomological Fennica*, 18:32-35.
- Wang, M., Yang, D. and Masunaga, K. (2007) New data on *Asyndetus* (Diptera: Dolichopodidae) from China, with description of a new species. *Entomological News*, 118 (2) : 149-153.
- Wang, M., Yang, D. and Masunaga, K. (2007) Notes on *Nepalomyia* (Diptera: Dolichopodidae) from Taiwan. *Transactions of the American Entomological Society*, 133 (1+2) : 123-127.
- Zhu, Y., Yang, D. and Masunaga, K. (2007) Two new species of *Diostracus* from China (Diptera: Dolichopodidae). *Transactions of the American Entomological Society*, 133 (1+2) : 133-142.
- Zhu, Y., Masunaga, K. and Yang, D. (2007) Two new *Plagiozopelma* species with a key to Chinese species (Diptera: Dolichopodidae). *Transactions of the American Entomological Society*, 133 (1) : 161-166.
- Zhu, Y., Masunaga, K. and Yang, D. (2007) New species of *Diostracus* from Yunnan, China (Diptera: Dolichopodidae). *Aquatic Insects*, 29 (3) : 219-224.

### 【一般向けの著作】

- 榎永一宏 (2007) キンバエの観察. 八尋克郎・榎永一宏 編, 『昆虫記』刊行 100 年記念日仏共同企画「ファーブルにまなぶ」展示解説書, 日仏共同企画「ファーブルにまなぶ」展実行委員会 : 61.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

柗永一宏（2007年10月19日）ニュージーランドにおける双翅目アシナガバエ科 *Abetitia* 属の分類学的研究. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

文部科学省科学研究費補助金（若手研究B）「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」（研究代表者：柗永一宏），研究代表者（2006～2008年度）.

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」（研究代表者：マーク・ジョセフ・グライガー），副代表者（2006～2010年度）.

琵琶湖博物館共同研究「北半球の多様な水辺に生息する双翅目昆虫の進化的研究」（研究代表者：柗永一宏），研究代表者（2007～2011年度）.

琵琶湖博物館専門研究「水生双翅目昆虫アシナガバエ属 *Dolichopus* の分類学的研究」,（2007年度）.

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

第67回日本昆虫学会大会実行委員会, 委員, 2007年度.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 12件.

2007年7月21日, 里山の昆虫, 里山体験, 野洲市大篠原, 講師, (西村知記共同).

2007年7月22日, 自由研究講座, 夏休み相談室, 琵琶湖博物館, 講師, (八尋克郎共同).

2007年8月3日, 水生昆虫の飼育方法, 生き物飼いか講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2008年3月30日, 川虫探検, 観察会, 藤ノ木川・大津市, 講師.

#### 他の博物館・機関等主催行事

2007年5月26日, 千丈川を歩いて発見, 水生昆虫観察会, ホタルの学校, 千丈川 (滋賀県大津市), 講師.

2007年6月23日, さがしてみよう! わにのむしのたち, 水生昆虫観察会, 志賀町子ども週末活動支援ネットワークルン, 大津市, 講師.

2007年6月28日, 千丈川のいきものしらべ, 水生昆虫観察会, 大津市立南郷小学校, 千丈川 (滋賀県大津市), 講師.

2007年10月21日, 自然観察シリーズ第2弾川探検, 水生昆虫探検観察, コーブ滋賀, 大津市, 講師.

2008年1月26日, 博物館の裏側, 大津市立真野北公民館, まのきたっこわくわく, 琵琶湖博物館 (草津市), 講師.

2008年3月2日, 水生昆虫同定研修会, おおつ環境フォーラム, 水生昆虫同定研修会, 大津市, 講師.

### 【情報整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース構築, 5,000件.

#### 【資料整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

日本、アメリカ、イギリス、ニュージーランド産の昆虫の収集・整理（液浸，乾燥とも），4件。

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回。

2007年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」ライトトラップの展示更新と維持管理。

2007年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」顕微鏡で虫を観る展示更新と維持管理。

2007年度，研究最前線更新。

#### 【企画調整活動】

学校への訪問説明，京都府内小中学校，3件。

新任職員研修，C展示室 川の生き物の概要，2007年4月17日。

JICA 博物館学集中コース，琵琶湖博物館の展示交流員とは，2007年5月10日。

ショップ会議，レストラン・ショップとの連携，10件。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【海外渡航】

2007年7月4日～7月19日，アメリカ，琵琶湖博物館共同研究「北半球の多様な水辺に生息する双翅目昆虫の進化的研究」の調査。

2007年8月4日～8月11日，イギリス，科学研究費補助金の「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」の調査。

2007年12月2日～12月17日，ニュージーランド，科学研究費補助金の「海洋性双翅目昆虫の起源と進化」の調査。

#### 【館外の活動】

2007年4月～2008年3月，滋賀県生きもの総合調査昆虫類部会，専門委員。

自然と人、社会との関係がどうあるべきかという問題において、現場の人々の間でも盛んに議論され重要視されつつある。本年度は昨年度に引き続き、自然の利用と管理という側面から集水域を主なフィールドと設定し、自然保全のありかたについて調査を行う。

専門研究のテーマである「集水域における自然利用と生活とのかかわりに関する環境社会学的研究」では、中国太湖湖岸の集落における水利用との比較を念頭において、琵琶湖の集水域農村における自然利用と管理のあり方を考察することを目的とした。それと関連して昨年度に補足調査を行った。それは、中国雲南省麗江地域における水利用について、その仕組みを伝統的生活様式や集落の規範に分析視点をおくことにより、自然保全の解析を進めた。

また、琵琶湖の集水域は、伝統的には水が共同で利用し維持管理してきたとされている。しかしながら、「用水」をめぐる自然資源の利用様式の変容に伴い、地元の人々にとって水や自然の管理が維持出来なくなった実態に陥った現状にある。その事例分析として、琵琶湖の集水域の集落における、「ため池」、「沢」の利用を取り上げ、調査を進めた上で研究のとりまとめを行っていききたい。そして、2008年度は、補足調査に加え、研究調査の結果をまとめ、社会学学会での発表をも進めて行きたいと考えている。

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

楊 平 (2008) 博士論文「中国・太湖湖岸環境の利用と保全に関する環境社会学的研究」：138p.

### 【一般向けの著作】

楊 平 (2007) 中国・太湖の家船生活と水辺環境. うみんど, 46, 琵琶湖博物館：6.

楊 平 (2008) 湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「環境の変化が水利用に影響」. 41, 毎日新聞：2008年3月11日.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 6件.

2008年1月19日, フィールドレポーター「虫のうんこ染め体験教室」, 琵琶湖博物館, 副担当, (フィールドレポーター, 伊丹市昆虫館共同).

#### 他の博物館・機関等主催行事

2008年2月2日, 立命館守山中学校ミュージアム・スクール「琵琶湖学習」, 案内.

#### 視察対応

2007年12月19日, 水環境保全対策, 昆明水環境改善研修団, 琵琶湖博物館.

2008年1月16日, 水資源の保護, 中国視察研修団, 琵琶湖博物館.

2008年2月26日，湖沼の環境管理，中国無錫視察研修団，琵琶湖博物館。

**【企画調整の活動】**

学校への訪問説明，京都府内の小中学校，3件。

In 2007 I was again leader and chief administrator of the Lake Biwa Museum's comprehensive research project on biological exploration and systematics of the aquatic biota of Lake Biwa and surrounding waters. I participated in some of the project's surveys, but mostly managed visits by many Japanese and foreign colleagues, sent material to some of them for study, and attempted to recruit new project members for 2008. My name was attached to two of the project's new parasitological manuscripts, to which I made minor contributions.

Several multi-authored papers in which I had a major or minor role were published during the course of the year: 1) a report on the Acanthocephala parasitizing Lake Biwa area fishes; 2) an evaluation of certain parasites as potential markers for stocked "ayu" of Lake Biwa origin; 3) a checklist of parasites of "ayu", 4) a largely SEM-based description of a new genus of monstrilloid copepods from marine plankton in the Ryukyus; and 5) an SEM-based description of a new species of Facetotecta ("cypris") from an Indonesian bay.

In the course of accessioning and curating the crustacean collections, progress was made on a review of old and new clam shrimp distribution records in Japan. Records from Tohoku of one species, *Caenestheriella gifuensis*, were included in a separate multi-author manuscript.

2007年度の主な研究活動は、琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」の研究代表者であった。その総合研究のための調査に参加したが、事務担当者として国内外の共同研究者の招聘手続きと滞在の管理、彼らあての標本発送、2008年度の新しい共同研究者の募集などが主な作業であった。

主著者もしくは共著者として、いくつかの共著論文を出版した。それぞれの内容は、1) 琵琶湖およびその周辺にすむ魚類に寄生する鉤頭虫、2) 漂流された琵琶湖産アユの識別に使用する琵琶湖固有寄生虫、3) アユの寄生虫の目録、4) 琉球列島のプランクトンから採集されたモンストリラ目カイアシ類の新属の走査電子顕微鏡による記載、5) インドネシアの湾から採集されたγ幼生（甲殻類）の新種の走査電子顕微鏡による記載。

甲殻類標本の受け入れや登録などをしながら、日本のカイエビ類の、古い文献や最近収集された標本に基づく、分布記録に関する論文をまとめている。東北産カイエビ (*Caenestheriella gifuensis*) の数カ所の新記録を共著論文として投稿した。

## 印刷物

### 【学術論文】

- Amin, O. M., Nagasawa, K. and Grygier, M. J. (2007) Host and seasonal distribution of fish acanthocephalans from the Lake Biwa Basin. Japan. *Comparative Parasitology*, 74 (2) : 244-253.
- Kolbasov, G. A., Grygier, M. J., Ivanenko, V. N. and Vagelli, A. A. (2007) A new species of the γ-larva genus *Hansenocaris* Itô, 1985 (Crustacea: Thecostraca: Facetotecta) from Indonesia, with a review of γ-cyprids and a key to all their described species, *The Raffles Bulletin of Zoology*, 55 (2) : 343-353.
- Nagasawa, K., Umino, T. and Grygier, M. J. (2007) Parasites may be useful biological tags for identifying ayu (*Plecoglossus altivelis*) (Salmoniformes: Plecoglossidae) of Lake Biwa origin stocked into rivers. *Aquaculture Science*, 55 (3) : 477-481.

- Nagasawa, K., Umino, T. and Grygier, M. J. (2008) A checklist of the parasites of ayu (*Plecoglossus altivelis altivelis*) (Salmoniformes: Plecoglossidae) in Japan (1912–2007). *Journal of the Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University*, 46 : 59–89.
- Grygier, M. J. and Ohtsuka, S. (2008) A new genus of monstilloid copepods (Crustacea) with anteriorly pointing ovigerous spines and related adaptations for subthoracic brooding. *Zoological Journal of the Linnean Society*. 152 : 459–506.

#### 【専門分野の著作】

- International Commission on Zoological Nomenclature (2008) OPINION 2191 (Case 3332) *Cercophonius brachycentrus bivittatus* Thorell, 1877 (currently *Orobothriurus bivittatus*; Arachnida, Scorpiones) : proposed replacement of the holotype by the designation of a neotype not accepted. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 65 (1) : 69–70 [特にグライガー委員の意見、p. 70].
- International Commission on Zoological Nomenclature (2008) OPINION 2194 (Case 3356) *Schizechinus* Pomel, 1869 (Echinodermata, Echinoidea) : usage not conserved and designation of *Psammechinus serresii* Desor, 1856 as the type species not accepted. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 65 (1) : 75–76 [特にグライガー委員の意見、p. 76].

#### 【一般向けの著作】

- マーク・ジョセフ・グライガー (2008) 湖と人-琵琶湖博物館の10年-「海外研究者と共同研究」.38, *毎日新聞* : 2008年2月19日.
- 楠岡 泰・マーク・ジョセフ・グライガー (2007) はしかけによる「田んぼの生きもの調査」マニュアル. 琵琶湖博物館, 草津 : 4p.

## 研究活動に関する業績

#### 【学会・研究会での発表など】

- Grygier, M. J. (2007年5月16日) What comes after cypris y? and other conundrums in the ontogeny of Facetotecta, crustaceans with no known adults, 動物学セミナー, スミソニアン研究所国立自然史博物館 ((米国) ワシントン), [口頭発表].
- Grygier, M. J. (with Y. Yusa and S. Yamato, and with J. T. Høeg) (2007年8月17日) Stage-2 nauplius larvae of the symbiotic stalked barnacles *Koleolepas* and *Heteralepas*, and similar nauplii of unknown identity from Okinawan plankton. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

#### 【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」(研究代表者：マーク J グライガー), 研究代表者 (2006–2010年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明-ニゴロブナを媒体として-」(研究代表者：前畑政善), 研究協力者 (2006–2011年度).
- 琵琶湖博物館専門研究「鰓脚類と顎脚類(甲殻類)の分類学や固体発生学に関する研究」, (2005年度).

#### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- The Crustacean Society, *Journal of Crustacean Biology*, Associate Editor, 査読, 7件.
- 動物命名法国際審議会, *Bulletin of Zoological Nomenclature*, Associate Editor (2007年5月12日), 査読,

5 件.

Systematic Parasitology, Associate Editor (2008 年 1 月 7 日ー), 査読, 2 件.

日本動物分類学会, Species Diversity, Editorial Consultant.

日本ベントス学会, Japanese Journal of Benthology (日本ベントス学会誌), 編集委員 (English editor).

日本付着生物学会, Sessile Organisms, 編集委員 (English editor).

Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, Zoosystematica Rossica, International Advisory Board.

日本動物学会, Zoological Science, 査読, 1 件.

Marine Biological Association of the United Kingdom, Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom, 査読, 1 件.

American Microscopical Society and Division of Invertebrate Zoology, Society for Integrative and Comparative Biology, Invertebrate Biology, 査読, 1 件.

Australian Museum, Records of the Australian Museum, 査読, 1 件.

Zootaxa, 査読, 1 件.

Hydrobiologia, 査読, 1 件.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス活動】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 12 件.

はしかけ運営, 田んぼの生き物調査グループ, 副担当.

#### 視察対応

2007 年 4 月 28 日, 京都大学大学院工学研究科教務課の留学生.

2007 年 7 月 25 日, ミシガン州友好親善使節団.

2007 年 9 月 24 日, (ロシア) Far Eastern National University, Museum of Archaeology and Ethnography 館長の一行.

2007 年 10 月 10 日, JICA 集団研修「建設事業における環境保全対策」コース.

#### メディアへの協力

2007 Winter 号, (財) 滋賀県国祭協会, LAKE No. 70, 今、この人へ INTERVIEW マーク・ジョセフ・グライガーさん, インタビュー, (2007 年 10 月 24 日取材).

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

標本受入, 無脊椎動物 (昆虫、貝類を除く) 23 件 (317 点).

仮データ入力・ラベル付け, 甲殻類 846 点、環形動物 (ヒル類、ミミズ類) 68 点、その他の無脊椎動物 29 点.

研究依頼期間延伸, 北九州市立自然史・歴史博物館, エビノコバン 3 点.

研究依頼期間延伸, 高知大学海洋生物教育研究センター, カイアシ類 16 点.

研究依頼, 高知大学海洋生物教育研究センター, カイアシ類 5 点.

研究依頼, 長野県, 島津 武博士, 二生吸虫類 132 点.

研究依頼, 長野県, 島津 武博士, 二生吸虫類 5 点.

研究依頼, 広島大学大学院教育学研究科, ヨコエビ類 4 点.

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回.

常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」，パネル更新，1件.

常設展示C展示室「いきものコレクション」，「寄生虫ーその驚くべき生活ーThe amazing lives of aquatic parasites」，  
展示更新.

昆虫記刊行100年記念日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」，図録の英語翻訳.

第15回企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話ー東アジアの中の湖と人ー」，「展示解説書」の英語翻訳.

滋賀県立琵琶湖博物館総合案内，第五版，英語監修・校正.

### 【企画調整活動】

2007年11月12日～14日，第11回滋賀県人会世界大会～ふる里大会～，広報用のポスター編集・制作.

学校への訪問説明，京都府内小中学校，2件.

行幸啓，2007年11月11日.

### 【研究部関連事業】

Finding Gastrotricha in Lake Biwa ワークショップ，Schmidt-Rhaesa, A., 運営・司会，2007年10月10日，琵琶湖博物館.

第48回琵琶湖博物館特別研究セミナー，Schmidt-Rhaesa, A., The lifecycle of horsehairworms (Nematomorpha), 運営・司会，2007年10月10日，琵琶湖博物館.

第7回いのちの科学フォーラム市民公開講座「山・川・海をつなぐ水といのちの物語」，タイムキーパー・会場マイク係，2007年10月13日，琵琶湖博物館.

## 館内人事、館外活動等に関すること

### 【館外の活動】

動物命名法国際審議会，委員.

2007年5月11日～12日，(米国)ワシントン，動物命名法国際審議会，総会出席.

(米国)スミソニアン研究所国立自然史博物館，協力研究員.

(米国)ロサンゼルス郡立自然史博物館資料・研究部(無脊椎動物学研究科)，協力研究員.

～2007年10月31日，生態学琵琶湖賞，選者委員会，委員.

本年度の専門研究は、今年度から実施されている農林水産省の施策の「農地・水・環境保全向上対策」について取組地域の事例をテーマに調査を進めた。「農地・水・環境保全向上対策」は、滋賀県では「世代をつなぐ農村まると保全向上対策」と呼んでいる。この制度は、農村地域の農地・水・環境の良好な保全と質的向上を図る地域の共同活動の取り組みに対し財政支援を行うというものであり、①共同活動への支援と②営農活動への支援の2つのメニューがある。今までの農業農村整備事業では、生産性・効率性を求め、行政が事業主体として実施してきたケースが多いが、この制度は、住民が主体となって農村地域の維持保全や先進的な営農の実施・管理を行い、その活動に対して行政が支援するという点が異なる。県内の取組状況は、約840集落、面積にすると農振農用地の約2/3に相当する約32,500haで実施されている。農村地域の保全管理活動に必要な組織形成のためには、地域の持っている特質やそこに存在する資源を発見しどのように活用していくか自らが検討することが必要であり、そこに至るプロセスも重要である。

総合研究では、「湖に隣接する水田地帯の特性の解明-ニゴロブナを媒体として-」について共同研究者として加わった。具体的には、農業排水路において5月上旬から7月末（一部は6月末まで）にかけて、遡上魚類の捕獲調査、水路の物理・化学的調査を実施した。調査結果から、ニゴロブナの遡上要因や遡上する水路の選択性等に検証を加え、第45回魚類自然史研究会や第55回日本生態学会で発表した（共同研究者が発表）。また、捕獲調査では魚類以外に淡水ヌマガメ類がまとまって採集された。これらのカメ類についての概略を、第45回魚類自然史研究会で発表した。今後は、魚類の遡上の可能性や在来種の淡水ヌマガメ類の生息空間の確保といった点を視野に入れ、農村地域の生物多様性保全について農業施設の構造面からアプローチしていきたいと考えている。

また、農政水産部農村振興課と両主催で、「田んぼに生き物と人とのにぎわいを取り戻そう！」というテーマで、今後のゆりかご水田の持つ可能性について考える「魚のゆりかご水田」シンポジウムを開催した。

## 印刷物

### 【一般向けの著作】

- 小川雅広・西村知記・南堀貞雄・宮本真二・芳賀裕樹・大塚泰介 編 (2007) うみんど. (43), 琵琶湖博物館: 8p.  
 小川雅広・西村知記・南堀貞雄・宮本真二・芳賀裕樹・大塚泰介 編 (2007) うみんど. (44), 琵琶湖博物館: 8p.  
 小川雅広・西村知記・南堀貞雄・宮本真二・芳賀裕樹・大塚泰介 編 (2007) うみんど. (45), 琵琶湖博物館: 8p.  
 小川雅広・西村知記・南堀貞雄・宮本真二・芳賀裕樹・大塚泰介 編 (2007) うみんど. (46), 琵琶湖博物館: 8p.  
 小川雅広・西村知記 編 (2007) うみっこ. (22), 琵琶湖博物館: 4p.  
 小川雅広・西村知記 編 (2007) うみっこ. (23), 琵琶湖博物館: 4p.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 小川雅広 (2007年10月19日) 「農地・水・環境保全向上対策」の事例検討. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].  
 水野敏明・前畑政善・小川雅広・舟尾俊範 (2007年10月20日) 琵琶湖のニゴロブナが遡上する水路の選択要因. 第45回魚類自然史研究会, 龍谷大学, [口頭発表].

小川雅広・前畑政善・水野敏明・金尾滋史（2007年10月21日）琵琶湖南部の農業排水路で採捕されたカメ類(予報). 第45回魚類自然史研究会, 龍谷大学, [口頭発表].

水野敏明・前畑政善・小川雅広・舟尾俊範（2008年3月15日）琵琶湖におけるニゴロブナの農業水路への遡上要因の検討. 第55回日本生態学会, 福岡国際会議場, [口頭発表].

#### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究『農地・水・環境保全向上対策』の事例検討, (2007年度).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明-ニゴロブナを媒体として-」(研究代表者: 前畑政善), 共同研究者 (2007年度).

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 11件.

2007年4月21日・7月21日・10月20日・2008年1月19日, 里山体験教室, 副担当, 4件.

##### 他の博物館・機関等主催行事

2007年5月27日, 観察学習会, 五条ふるさと環境を守る会, 草津市, 講師.

2007年6月16日, 魚類の調査観察会, 長沢環境保全の会, 米原市, 講師.

2008年3月1日, 生き物観察会, 湖南地域みずすまし推進協議会, 草津市, 講師.

##### 視察対応

2007年4月25日, 展示案内, モロッコ国テンシフト流域管理公社.

2007年7月19日, 講師・展示案内, 近畿ブロック農業士地域研究会.

2007年11月29日, 講師・展示案内, 日光川西悪水土地改良区.

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 3回.

展示交流員と話そう, 内容指導.

#### 【企画調整の活動】

学校への訪問説明, 京都府内小中学校, 4件.

#### 【研究部関連事業】

「魚のゆりかご水田」シンポジウム, 主担当 (農政水産部農村振興課と両主催), 2007年11月23日, 琵琶湖博物館.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館内の人事】

2007 年度，琵琶湖博物館広報誌「うみんど」，企画・編集主担当.

2007 年度，琵琶湖博物館広報誌「うみっこ」，企画・編集主担当.

2007 年度，滋賀県農政水産部耕地課企画調整担当，主幹を兼務.

2007年度の研究活動としては、2006年度より開始された琵琶湖博物館共同研究「河川残留型を含むビワマス地域個体群存在の可能性」、および専門研究「琵琶湖内に生息するビワマスの生態研究手法の検討」の二本立てで行った。

共同研究では、審査会で指摘された湖内産マス類のサンプル数を増やすとともに、琵琶湖流入河川に生息するアマゴを、7河川8カ所でサンプリングを行った。これらのサンプルについては、mtDNAによる分析を終了した。その結果、8カ所のうち3カ所のアマゴからビワマス型のハプロタイプが検出され、ビワマスにおける河川型の存在する可能性が高く推察された。ただ、これらのアマゴや湖内産マス類における遺伝的状況を詳細に知るため、AFLP法による分析を行う予定で進めていたが、実験自体は終了することができたが、解析に時間がかかってしまい、状況を解明するところまでは進めることができていない。本共同研究は、2008年度が3年目で最終年度となることから、早々に解析を進めていく必要があることを痛感している。

専門研究では、ここ数年で確立されてきたレイトローリングによるビワマス釣りによって、リアルタイムで状態よくビワマスを捕獲することができるようになったことから、この手法を使って湖内におけるビワマスの生態を解明する方策の検討を行った。その結果、これまでの調査や漁師の話から、小糸網で漁獲されるビワマスの大部分は成熟が始まっているのに対し、釣りで捕獲されるビワマスの多くは未成熟の個体であることがわかった。ビワマスは湖内で2-5年間過ごすことが知られていることから、小糸網と釣りによる漁獲魚の状況が異なることは、成熟状況によって湖内でのビワマスの生態が変わってくる可能性を示唆しているのではないかと考えられる。これをもとに、2008年度は小糸網と釣りで漁獲されるビワマスの違いについて、詳細を明らかにしてゆくところから進めたいと考えている。

共同研究の結果については、2007年度日本魚類学会年会において報告した。

## 印刷物

### 【学術論文】

- 桑原雅之・井口恵一朗 (2007) ビワマスにおける早期遡上群の存在. *魚類学雑誌*, 1 (54), 日本魚類学会 : 15-20.
- Kikko, T., Kuwahara, M., Iguchi, K., Kurumi, S., Yamamoto, S., Kai, Y. and Nakayama, K. (2008) Mitochondrial DNA Population Structure of the White-Spotted Charr (*Salvelinus leucomaenis*) in the Lake Biwa Water System. *ZOOLOGICAL SCIENCE*, 25, 日本動物学会 : 146-153.

### 【一般向けの著作】

- 桑原雅之 (2007) 湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「ビワマスの産卵と保護」. 21, *毎日新聞* : 2007年9月4日.
- 桑原雅之 (2007) 魚と水生動物たち「アマゴ・ヤマメ (サケ科)」. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞 : 2007年10月17日.
- 桑原雅之 (2007) 魚と水生動物たち「ニジマス (サケ科)」. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞 : 2007年10月24日.
- 桑原雅之 (2007) 魚と水生動物たち「イワナ (サケ科)」. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞 : 2007年10月31日.
- 桑原雅之 (2007) 魚と水生動物たち「アメノウオ (ビワマス) (サケ科)」. *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞 : 2007年11月7日.
- 桑原雅之 (2007) 魚と水生動物たち「ハリヨ (トゲウオ科)」, *あいあいAI 滋賀*, 朝日新聞 : 2007年11月14日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

桑原雅之・井口恵一郎・亀甲武志・来見誠二（2007年4月20日）琵琶湖内で漁獲されるビワマスとサツキマスにおける遺伝子浸透の現状. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

桑原雅之・井口恵一郎・高橋 洋・亀甲武志・来見誠二（2007年10月6日）琵琶湖内で漁獲されるサツキマスの由来とビワマスとの交雑の状況. 2007年度日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 北海道大学学術交流会館（北海道札幌市）, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖内に生息するビワマスの生態研究手法の検討」, (2007年度).

琵琶湖博物館共同研究「河川残留型を含むビワマス地域個体群存在の可能性」(研究代表者: 桑原雅之), 研究代表者 (2007年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査: 分類学, 形態と分子に基づく系統学」(研究代表者: マーク・ジョセフ・グライガー), 研究協力者 (2007年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

(社) 日本動物園水族館協会設備会議, 幹事, 2006年5月～2008年9月.

日本魚類学会, 魚類学雑誌, 査読, 1件.

日本魚類学会, Ichthyological Research, 査読, 1件.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 11件.

2007年7月29日, 漁船に乗ってビワマス漁を見てみよう, 見学会, 湖北町尾上, 副担当 (協力: 朝日漁協, 共同: 孝橋賢一).

2007年8月3日, 常設展示室の概要と戦略, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年8月7日, 魚の体の仕組みを調べよう, 第31回自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年9月23日, アユの産卵用人工河川をみてみませんか, 見学会, 滋賀県高島市, 副担当, (協力: (財) 滋賀県水産振興協会・水産課, 共同: 孝橋賢一).

2007年10月28日, ビワマスの採卵現場を見学してみませんか, 観察会, 滋賀県高島市, 主担当, (協力: 百瀬漁協, 滋賀県漁連高島事業場, 共同: 孝橋賢一).

2008年2月16日, 滋賀県にすむサケの仲間たち, 指導者のための淡水魚類学講座, 多賀町立博物館多賀の自然と文化の館・滋賀県犬上郡, 講師.

#### 他の博物館・機関等主催行事

2007年8月21日, 子ども淡水魚教室, 伊川を愛する会, 琵琶湖博物館, 講師.

#### 視察対応

2007年6月2・3日, 資料の収集と管理, 西海パールシーセンター, 琵琶湖博物館.

### メディアへの協力

2007年11月19日，毎日放送，VOICE，出演，（2007年10月16日取材）。

2007年12月12日，サンケイスポーツ，幻の魚ビワマス，同行取材，（2007年12月1日取材）。

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

水族資料収集，主担当。

水族資料維持管理，副担当。

#### 他博物館・機関の活動

滋賀県立図書館，展示用魚類の貸出，担当，6件。

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回。

2007年7月3日，外来生物水槽展示更新，計画設計製作主担当。

2007年9月8日，タンガニーカ湖水槽展示魚種変更，魚種選定主担当。

水族展示維持管理，主担当。

### 【企画調整活動】

新任職員研修，展示概要，講師，2007年4月11日。

新人水族研修，水族を支える設備とスタッフ，講師，2007年4月18日。

学校への訪問説明，京都府内小中学校，6件。

2007年度は、事業部資料活用担当のグループリーダーとなったことから、事業部の業務の把握と整理、課題への対応に重点を置いて業務を行った。研究面においては、これまでの研究成果のとりまとめと論文化が当初の予定より遅れているが、一方で、新しいプロジェクトへの参加が増えた年となった。新たなプロジェクトに参加することで、これまで接点の少なかった研究者とも議論を行う機会が得られたため、それをもとに、今後は研究成果のとりまとめと新たな研究課題の推進を行いたいと考えている。

具体的には、次のような研究活動を行った。研究発信としては、7月の琵琶湖博物館研究セミナーおよび3月の日本生態学会において、複数のカワウ営巣林での調査に基づき、土壌の窒素動態の長期変遷過程を明らかにした研究成果を発表した。今後はこの成果を論文化していく必要がある。新たな研究プロジェクトへの参加では、琵琶湖博物館共同研究の立ち上げ、海外の研究ネットワーク、“SEAPRE: Seabird Islands and Introduced Predators: Impacts of Presence and Eradication on Island Function (海鳥の生息する島と移入捕食者：海鳥、捕食者の存在と除去が島の機能に与える効果)”への加入、そして、農林水産研究高度化事業の一つとして始まった「カワウによる漁業被害防除技術の開発」におけるコロニー・ねぐら管理およびカワウの餌魚種選好性に関する研究課題の分担を行った。博物館共同研究では、GIS(地理情報システム)解析を中心としてカワウ営巣林の長期森林変遷過程を明らかにしようとしており、2007年度はそのための基礎情報の入手とデータ入力に力を注いだ。農林水産研究高度化事業についても、事務的作業も含めて立ち上げのための準備に時間を費やした。海外の研究ネットワークは、まだ本格的な活動は始まっていないが、他の海鳥営巣地とカワウ営巣地のデータを比較することで、より広い視点からカワウとそのコロニーに関する研究を位置づけたいと考えている。これら新たな研究は、これまでに得てきたデータを整理しまとめることで新たな成果をあげるという側面が大きく、その点では、これまでの研究成果のとりまとめにも役立つものと考えている。特に、海外の研究者とのネットワークに参加できたことは2007年度の収穫であり、これを今後のプロジェクトの検討や発展に活かしていきたいと考えている。

事業部の活動については、資料活用担当のグループリーダーとして、資料整備の全体像把握と事業の見直しに時間を費やした。特に、資料整備に関する書類やデータの整理が進んでいない部分があったため、まずは書類の整理と把握から始めることとし、その過程で資料整備の現状把握に努めた。8月と9月は、2008年度からの財政構造改革プログラムへの対応と予算書作成に多くの時間を費やした。一方、専門分野に関する事業については、年度の後半に活動が集中した。鳥類標本データベースの公開、水鳥の観察会の実施、体験学習への対応、小中高等学校での総合学習の対応などが、その主なものである。

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

亀田佳代子 (2008) 生態系間を移動する動物による物質輸送. 永田 俊・宮島利宏 編, *流域環境評価と安定同位体-水循環から生態系まで*, 京都大学学術出版会, 京都: 331-347.

### 【一般向けの著作】

亀田佳代子 (2007) 滋賀で見られる鳥. 琵琶湖ハンドブック編集委員会 編, *琵琶湖ハンドブック*, 滋賀県環境政策課, 滋賀県: 96-97.

亀田佳代子 (2007) 湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「鳥が森林を変える: カワウによる物質輸送の影響をさぐる」, 8, *毎日新聞*: 2007年5月29日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 亀田佳代子 (2007年4月26日) 鳥類による水域から陸域への物質輸送とその影響. 水域ゼミ, 京大大学生態学研究センター, 京大大学生態学研究センター (滋賀県大津市), [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2007年7月20日) カワウ営巣林における森林衰退-回復過程の検討-愛知県鶴の山と琵琶湖のカワウコロニーの比較-. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 亀田佳代子・保原 達・石田 朗 (2008年3月16日) カワウの営巣が森林の養分動態と植生に与える長期的影響. 第55回日本生態学会大会, 日本生態学会, 福岡国際会議場 (福岡県福岡市), [ポスター発表].
- 亀田佳代子 (2007年7月21日) 日本鳥学会員近畿地区懇談会第90回例会, 日本鳥学会員近畿地区懇談会, [企画・運営].

### 【研究プロジェクト等への参加】

- National Science Foundation (NSF), Research Coordination Networks in Biological Sciences (RCN) 「SEAPRE : Seabird Islands and Introduced Predators : Impacts of Presence and Eradication on Island Function」 (研究代表者: Christa Mulder), 研究分担者 (2007-2009年度).
- 平成19年度先端技術を活用した農林水産研究高度化事業「カワウによる漁業被害防除技術の開発」 (研究代表者: 村上眞裕美), 研究分担者 (2007-2009年度).
- 琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明-ニゴロブナを媒体として-」 (研究代表者: 前畑政善), 共同研究者 (2007-2011年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「カワウ営巣林における森林衰退-回復モデル構築のための調査方法の検討」 (研究代表者: 亀田佳代子), 研究代表者 (2007-2009年度).
- 琵琶湖博物館専門研究「食物網を含むカワウ営巣林の森林変遷モデル構築の試み」, (2007年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本鳥学会庶務幹事, 2007年4月-2009年12月.
- 日本鳥学会評議員, 2006年1月-2009年12月.
- 日本鳥学会企画委員会委員, 2006年1月-2007年12月.
- 日本鳥学会員近畿地区懇談会世話人, 2000年-.
- 陸水生物学報, 論文の査読, 1件.
- Waterbirds, 論文の査読, 1件.

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2007年度後期, 滋賀県立大学大学院, 生物多様性論 (分担).

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

- フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 12回.
- 2007年5月27日, 2006年度第1回フィールドレポーター調査「オオヨシキリさえずり調査」結果報告, フィールド

ドレポーター交流会，琵琶湖博物館・草津市，コメンテーター。

2007年12月8日，水鳥を観察しよう-色とりどりの冬の鳥たち-，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館・草津市，講師。

2007年12月16日，下物の水鳥を観察してみよう，観察会，鳥丸半島周辺・草津市，主担当，（日本野鳥の会滋賀支部・はしかけグループ「びわたん」共催）。

### 他の博物館・機関等主催行事

2007年4月11日，琵琶湖におけるカワウの生息状況と森林の変化，地球環境関西フォーラム，第32回水環境とくらしの調査部会-竹生島のカワウ等の現状視察-，尾上漁業協同組合（滋賀県東浅井郡），講師。

2007年6月2日，野鳥観察実習，立命館守山高校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2007年9月1日，琵琶湖周辺のカワウについて-カワウの生態と、人とカワウの現在・過去・未来-，京都造形芸術大学芸術学部，京都造形芸術大学スクーリング授業，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2007年11月25日，湖から森へと養分を運ぶ鳥!？，自然史学会連合，平成19年度自然史学会連合講演会「いきもの・ひと・みずの自然史」，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2007年12月15日，野鳥観察実習，立命館守山高校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2008年1月9日，カワウってどんな鳥？，湖北町立朝日小学校，朝日っ子わくわく博物館総合的な学習の時間，湖北町立朝日小学校（滋賀県東浅井郡），講師。

2008年1月24日，だれの、なにを、守るのかカワウと人と生態系のバランス，農林水産省近畿農政局，生物多様性と野生動物被害対策を考えるシンポジウム，KBSホール（京都府京都市），パネリスト。

2008年2月2日，鳥類班への対応，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2008年2月13日，カワウの生態と現状，関東カワウ広域協議会，関東カワウ広域協議会平成19年度総会，経済産業省別館（東京都中央区），パネラー。

2008年2月16日，鳥類班への対応，立命館守山中学校，琵琶湖学習，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

### メディアへの協力

2007年6月1日，TBS テレビ，ピンポン，カワウの狩猟鳥化や琵琶湖での生息状況について，（2007年5月29・31日取材）。

2008年1月9日，BBC びわこ放送，県政プラスワン，湖北町立朝日小学校の総合的な学習の時間で行う「カワウってどんな鳥？」の授業について，（2008年1月9日取材）。

2008年1月10日，京都新聞，湖北町立朝日小学校の総合的な学習の時間で行う「カワウってどんな鳥？」の授業について，（2008年1月9日取材）。

2008年1月10日，読売新聞，湖北町立朝日小学校の総合的な学習の時間で行う「カワウってどんな鳥？」の授業について，（2008年1月9日取材）。

2008年1月14日，中日新聞，湖北町立朝日小学校の総合的な学習の時間で行う「カワウってどんな鳥？」の授業について，（2008年1月9日取材）。

読売新聞，県がカワウの銃器駆除をやめたことについて，（2008年1月23日取材）。

2008年3月6日，朝日放送，NEWS ゆう，和歌山県新宮市のカワウのねぐらおよびカワウの基本的な生態について，（2008年2月15日取材）。

### 【情報整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

鳥類標本データベース公開，主任。

#### 【資料整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

鳥類剥製標本及び骨格標本の製作，手続き，主任，71件.

鳥類標本提供，受入・整理，主任，4件.

資料活用担当事務の総括に関すること.

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回.

展示交流員と話そう，内容指導，3件.

#### 【企画調整活動】

博物館実習，琵琶湖博物館の資料の特徴の講義，2007年8月6日，琵琶湖博物館.

学校への訪問説明，京都府内小中学校，5件.

#### 【研究部関連事業】

研究交流室の管理に関すること，主任.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館外の活動】

1997年4月1日～2010年3月31日，京都大学生態学研究センター，協力研究員.

2006年6月1日～2009年3月31日，滋賀県外来種問題検討委員会，委員.

2006年8月1日～2011年3月31日，滋賀県生きもの総合調査委員会鳥類部会，専門委員.

2006年7月12日～2008年3月31日，農林水産省近畿中国森林管理局伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ，委員.

2006年8月1日～2009年3月31日，滋賀県カワウ対策検討会，会員.

2006年10月1日～2008年3月31日，滋賀県カワウ総合対策計画検討協議会，委員.

2007年11月27日～2009年11月26日，大津市環境審議会，委員.

今年度、研究においては、大きく分けて次の4つのテーマで調査研究を行った。

1. エリ網に付着する汚れの経年変化の把握
2. 造成ヨシ群落の産卵機能の評価
3. 南湖の湖底改変状況の把握
4. セタシジミの餌料生物探索

1. についてはこれまで引き続き行っている琵琶湖漁業の主要漁業であるエリの網にソブと呼ばれる汚損物が多量に付着し、操業に支障が生じている問題について、現況把握調査を行い、とくにここ数年で、これまでの糸状藍藻の優占からケイ藻優占型へ遷移していることが判ってきた。今年度も引き続き、水産試験場と連絡を取りながら、現況把握に努めた。

2. については、昨年度より取り組んでいる「琵琶湖湖岸において造成されたヨシ群落の機能回復度の評価に向けて「天然ヨシ群落との比較から」では、昨年度のヨシ群落の沖側と奥側の水温差に着目した評価を、あらたに北湖2カ所、南湖2カ所で適用してみたところシーズン中に、水温差が見られない水域では産卵は見られなかったものの、水温差がある水域で必ず産卵が見られるということではなかった。これが何に起因するものか、親魚の来遊状況などの観点から検討していきたいと考えている。

3. については、琵琶湖の南湖湖底には長年にわたる砂利採取事業や浚渫跡などによる不規則な穴が確認されている。そこで、とくに湖底改変の著しいと考えられる南湖東岸の東西2km、南北3kmの範囲を100m間隔で調査線を設け、魚探による音響測深によって湖底状況の把握を行った。その結果、調査測線上に不規則な10m以上の穴が10個観察された。また観測された最大水深は12.5mにもおよんだ。これら結果に基づいて水産試験場、琵琶湖環境科学研究センターが、これら穴群が底生生物へ与える影響、湖底からの栄養塩の溶出など影響を検討している。

4. については、採集した直後のセタシジミをろ過水を入れたビーカーに収容し、その後、排出された排出物を検鏡、サイズを測定することによってセタシジミの餌料生物の探索をおこなった。その結果、排出物に一番多く含まれていたものは、直径10 $\mu$ m前後の中心目のケイ藻であった。

## 印刷物

### 【一般向けの著作】

孝橋賢一 (2008) 魚と水生動物たち「スジエビ・ヌマエビ」. あいあいAI 滋賀, 朝日新聞: 2008年2月14日.

孝橋賢一 (2008) 魚と水生動物たち「テナガエビ」. あいあいAI 滋賀, 朝日新聞: 2008年2月20日.

孝橋賢一 (2008) 魚と水生動物たち「タンカイザリガニ・アメリカザリガニ」. あいあいAI 滋賀, 朝日新聞: 2008年2月27日.

孝橋賢一 (2008) 魚と水生動物たち「ヒウオ」. あいあいAI 滋賀, 朝日新聞: 2008年3月5日.

孝橋賢一 (2008) 魚と水生動物たち「アオウオ・ソウギョ」. あいあいAI 滋賀, 朝日新聞: 2008年3月26日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

孝橋賢一・芳賀裕樹・臼井 学 (2007年9月11日) 琵琶湖南湖東岸部における穴状地形について (予報). 日本陸

水学会第72回大会，日本陸水学会，茨城大学水戸キャンパス（茨城県水戸市），[口頭発表]。  
孝橋賢一・芳賀裕樹・臼井 学（2008年1月19日），琵琶湖南湖東岸部における穴状地形について（予報）。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

#### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「造成ヨシ群落の産卵繁殖場としての機能評価」，（2007年度）。

#### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006年9月14日，近畿大学農学部水産学科2年生，「琵琶湖漁業の直面している課題」。

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，12件。

2007年7月29日，漁船に乗ってビワマス漁を見にいこう，観察会，滋賀県東浅井郡，主担当，（桑原雅之と共同）。

2007年9月16日，アユ産卵用人工河川を見にいこう，観察会，滋賀県高島市，主担当，（桑原雅之と共同）。

2007年10月28日，ビワマスの採卵現場を見てください，観察会，滋賀県高島市，副担当，（桑原雅之と共同）。

##### メディアへの協力

2007年6月26日，NHK 大津，おうみ発610「びわ湖クローズアップ」，取材協力，（2007年6月22日取材）。

2007年10月3日，KBS 滋賀ラジオ，「森谷威夫のお世話になります」，取材協力，（2007年10月3日取材）。

2007年10月22日，NHK 大津，おうみ発610「びわ湖クローズアップ」，取材協力，（2007年10月18日取材）。

2007年12月12日，中日新聞，湖魚の環境問題展示，取材協力，（2007年12月11日取材）。

2008年2月16日～2月29日，ZTV，ふるさとめぐり逢い「琵琶湖周遊Ⅱ-湖からのめぐみ-」，取材協力，（2008年2月6日取材）。

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回。

2007年12月11日～2008年1月17日，ギャラリー展示「注文の多い湖魚の料理店」，担当。

2007年12月11日～2008年1月17日，第20回水族企画展示「湖魚の今…。そして未来！」，主担当。

##### 他博物館・機関の活動

第27回全国豊かなうみづくり大会滋賀県大会実行委員会（水産課），2007年11月11日，漁業環境ミュージアム「注文の多い湖魚の料理店」の開催にかかる湖魚の生態展示，担当。

#### 【企画調整活動】

学校への説明訪問，京都府内小中学校，2件。

本年度は、「河道内の伐採竹におけるゼロエミッション型地域モデルの検討」をテーマに専門研究に取り組んだ。近年、地球温暖化の影響による集中豪雨や大型台風の襲来による水害が各地で相次いでいるが、このような水害から国民生活の「安全・安心」を確保するためには河川の維持管理は日常欠かせないものとなってきている。河川の維持管理は、治水、利水、環境という目的に応じた管理、日常から洪水時までの河川の状態に応じた管理、堤防、ダム、排水機場さらには河道といった河川管理施設の種類に応じた管理というように、非常に広範・多岐にわたっている。現存する河川管理施設の多くは高度成長期の昭和 30～40 年代に設置されており、これらが一斉に更新時期を迎えることから、河川の維持管理に要する費用は今後益々増加していくと考えられている。しかし、限られた予算と人員・体制で河川の維持管理を行わざるを得ない状況下では、河川管理者が確保すべき維持管理水準と実施できる維持管理の限界を明らかにして、効果的・効率的な維持管理を実施していくことが緊急の課題となっている。このような背景を受け、今回は荒廃している河畔林の竹林に焦点を当てて、効果的、効率的な維持管理手法について研究を進めていくことにした。

元来、竹は水害防備林として植えられ、それを工芸品、生活用具、農業・漁業用資材、建設資材など生活面や文化面で幅広く活用されてきたため、地域による適正な竹林管理がなされてきた。しかし、最近の国内の需要は、安価な中国製品がとって変わるとともに、プラスチック等代替資材が普及したため激減し、地域においても竹林を管理しなくなった。その結果、県内の 1 級河川の河畔林に繁茂する竹は、その旺盛な繁殖力により植生範囲を拡大し、河積を阻害し、治水機能の低下を招くとともに、ゴミの不法投棄が目立つなど、社会的に問題視されているところが出てきている。これらの竹については、治水上支障になるものについては伐採が進められているが、伐採した竹は廃棄物として大量に処分し、多額の処分費を要しているのが実状であり、このコスト縮減や再資源化が喫緊の課題となっている。さらに竹は旺盛な繁殖力により短期間で再生するため、継続的に伐採を行う必要があるが、植生する面積が広大なため、河川管理者にとって手に負えない状況となっている。

現在、竹の利活用については様々な研究・開発が行われており、これらの中から滋賀県における利活用の有効性の検証を行い、事業者、研究機関、地域等とも連携を図りながら、竹の製品化等により竹資源の活用を実証する場を確保するなどして、事業者の起業化を誘導し、循環型の維持管理が継続できるベースの構築を目指していきたいと考えている。具体的には県内でも竹の伐採実績が多いとされる、愛知川、安曇川、姉川、高時川、日野川の 5 河川をモデル河川として設定し、当面はこれらの河川についての地域モデルを検討していくことにした。本年度においては、河畔林の基礎資料収集と現地調査をはじめ、各地域振興局を対象にした聞き取り調査を行い、竹材の発生量、竹の利活用と拡大防止方策の事例、地域での維持管理の取り組み等について、現状のとりまとめと課題の整理を行った。次年度は利活用方策の検討と実証実験、さらには管理目標の指標となる河畔林の治水性の評価などについても検討していきたい。

## 印刷物

### 【一般向けの著作】

臼井 学 (2007) 湖と人と-琵琶湖博物館の 10 年-「ハード・ソフトの包括的対策」. 33, 毎日新聞: 2007 年 12 月 18 日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

孝橋賢一・芳賀裕樹・臼井 学 (2007年9月11日) 琵琶湖南湖東岸部における穴状地形について(予報). 日本陸水学会第72回大会, 日本陸水学会, 茨城大学水戸キャンパス(茨城県水戸市), [口頭発表].  
臼井 学(2008年3月21日)河道内の伐採竹におけるゼロエミッション型地域モデルの検討. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「河道内の伐採竹におけるゼロエミッション型地域モデルの検討」, (2007年度).

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアートーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 10件.

#### 視察対応

2007年7月13日, 琵琶湖の水位と治水, 第13回中部9県1市広域災害応援連絡協議会.

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 3回.

2007年度, 常設展示維持管理, 主担当.

展示交流員と話そう, 内容指導.

### 【企画調整活動】

学校への訪問説明, 京都府内小中学校, 3件.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館内の人事】

2007年4月～10月, 第7回いのちの科学フォーラム市民公開講座, 事務局担当.

2007年度, 滋賀県土木交通部河港課河川環境担当主査を兼務.

近年、滋賀県内の中山間地域においては、野生動物による農林業被害が発生し、農林家、行政ともに対応に苦慮しています。とくに林業被害としては、ニホンジカにより、植栽したばかりの苗木が食べられてしまう「食害」が起こっていて、対策なしには森林資源の循環利用が行えない状態が続いています。私は、こうした被害を直接防ぐ「防除」と被害軽減につながると考えられている「生息地改善」をテーマに研究を行っています。従来の間伐よりも多くの本数を伐採する「強度間伐」を実施した場合に、発達する下層植生の推移を調べています。また強度間伐を行った林地においてはニホンジカの利用頻度が高くなるのか、隣接する新植造林地では逆に、ニホンジカの侵入が少なくなり、防護柵の維持管理が軽減されるのか、などを調査しています。

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

西村知記（2007年9月21日）強度間伐後の下層植生（一年後）、琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]。

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10件。

はしかけ「里山の会」，野洲市大篠原，4件。

2007年4月21日・7月21日・10月20日・2008年1月19日，里山体験教室，野洲市大篠原，4件，（里山の会と共同）。

2007年6月17日，観察会，自然農法の田んぼで生きもの探検，高島市朽木，講師。

2007年7月8日・11月17日・2008年3月9日，はしかけ登録講座，琵琶湖博物館，3件。

2007年11月24日，わくわく探検隊，秋の色を集めよう～森のたんけん隊～，琵琶湖博物館。

2007年12月8日，わら細工，日本動物園水族館教育研究会，琵琶湖博物館。

#### 他の機関等主催行事

2007年5月21日，色さがし，平野幼稚園，にこにこ広場，大津市浄化センター（滋賀県大津市），講師。

2007年7月11日，木をはかる森をはかる，彦根東高等学校1年SSクラス，琵琶湖博物館，講師。

2007年8月22日，森のアクティビティ，平成19年度滋賀県環境教育研究会協議会，琵琶湖博物館，講師。

2007年9月13日，秋を探しに，研究保育，滋賀大学教育学部附属幼稚園（滋賀県大津市），講師。

2007年10月16日，森のお弁当づくり，理科実習講座，琵琶湖博物館，講師。

2007年10月22日，バッタ採り，平野幼稚園，にこにこ広場，茶臼山公園（滋賀県大津市），講師。

2007年11月16日，子どもと自然の関係性，保育を語る会，滋賀大学教育学部附属幼稚園（滋賀県大津市），講師。

2008年2月2日，草花遊び，立命館守山中学校，琵琶湖博物館，講師。

### 視察対応

2007年6月20日，講演「森と水」，栗原敬老会，琵琶湖博物館。

2007年11月30日，コーディネート「森と湖」，タイ人研究者，琵琶湖博物館・野洲市あやめ浜。

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回。

### 〔企画調整活動〕

学校への訪問説明，京都府内小中学校，5件。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館内の活動】

2007年度，滋賀県森林センター主査を兼務。

2007年度，うみんど編集委員。

2007年度，うみっこ編集委員。

### 【館外の活動】

環境学習支援センター，企画運営委員会，委員。

2007年4月からは、滋賀県琵琶湖環境科学研究センター勤務が前年の週2日から4日、琵琶湖博物館勤務が週3日から1日の兼務と変わった。今回の人事交流を通して、同センターの人や研究を知ると共に、視野を広げることができた。さらに自分の研究面に関しては、研究センターの方々のご配慮で、博物館にない分析装置の活用も可能になった。しかし一面、研究センター組織変更の時期が重なったこともあり、人事交流2年目となってもやはり、博物館とのシステムの違いに戸惑う面もあったが、このたび無事に2年間の交流を終えることができホッとしている。

具体的には、同センターや県立大、京大と連携して行ってきた、森林管理に関する「斜面下部残存実験」の硝化に関するまとめを行い、同センターの研究評価部会で、好評を得ると共に、「環境負荷の軽減を図るための森林管理方法の検討」総合報告書に提案と共にまとめ、共同で提出した。

また、基礎研究として、滋賀県立大学の國松教授グループと共同で行った「森林渓流水の水質モニタリングと解析」に関する研究では、その観測データにより、ナラ枯れによると思われる窒素濃度の上昇などの水質影響がはじめてみられた。今後ナラ枯れが琵琶湖集水域に拡大していくと、琵琶湖水質への影響も懸念される。これは5月に報告書を提出予定である。

研究センターでは、広報兼務及び研究交流担当として、琵琶湖環境研究部門の意見集約を手がけ、センターニュースの発刊のために編集会議などで、研究部門と管理部門の橋渡しをした。さらに、研究交流として、琵琶湖環境研究セミナーや講演会、滋賀県試験研究機関連絡協議会やその研究発表会に参加した。

琵琶湖博物館では屋外展示の植栽管理を引き続き臼井氏と共に行った。博物館の専門研究としては、硝酸形成に影響すると思われる斜面での水分条件に関する2007年の貴重なデータが得られた。

昨年、(財)河川環境管理財団の助成金を得て行い、提出した成果報告書「下流域の富栄養化への影響を最小限にする森林管理方法の探究」は、幸い良い評価を受け、多数応募のうち採択件数97件のなかより、優秀成果に選ばれ、ホームページに公開された。

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

草加伸吾・金子有子・籠谷泰行・草加伸吾・國松孝男・徳地直子・中島拓男・濱端悦治・樋口能士（2007）（第3章土壌浸透水質への森林管理の影響評価）in 総合報告書「環境負荷の軽減を図るための森林管理方法の検討」．滋賀県琵琶湖環境科学研究センター試験研究報告，6（2211）：21-25．

金子有子・籠谷泰行・徳地直子・草加伸吾（2007）環境負荷の軽減を図るための森林管理方法の検討-環境負荷の軽減方法を探るための実験から-．平成18年度試験研究報告，滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター．滋賀県：1-11．

草加伸吾（2007）平成18年度河川整備基金助成事業．下流域の富栄養化への影響を最小限にする森林管理方法の探究に関する報告書，河川整備財団：32p．

### 【一般向けの著作】

草加伸吾（2007）琵琶湖と森林．琵琶湖ハンドブック編集委員会 編，琵琶湖ハンドブック，滋賀県：102-103．

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

草加伸吾（2007年6月18日）森林伐採による水系への負荷を削減する伐採管理手法の検討。琵琶湖環境科学研究センター琵琶湖部門研究セミナー，琵琶湖環境科学研究センター，（滋賀県大津市），[口頭発表].

草加伸吾（2008年2月15日）下流域の富栄養化への影響を最小限にする森林伐採管理方法の探求。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

### 【インターネットページでの公表】

草加伸吾（2007）下流域の富栄養化への影響を最小限にする森林管理方法の探究に関する報告書.

<http://www.kasen.or.jp/seibikikin/h19/pdf/h19yuusyuuuseika.pdf>，河川整備財団.

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「伐採後の硝酸形成に影響する環境条件の解明と斜面での硝酸流出過程の探求」，（2007年度～）.

琵琶湖環境科学研究センター基礎研究「森林渓流水の水質モニタリングと解析」（研究代表者：草加伸吾），（2007年度）.

河川環境財団「下流域の富栄養化への影響を最小限にする森林管理方法の探求」（研究代表者：草加伸吾），（2006～2007年度）.

## 博物館事業に関する業績

### 【資料整備活動】

#### *琵琶湖博物館の活動*

植物標本資料収集整理（モンゴル国植物標本資料同定用15点）.

植物収蔵庫維持管理，主担当（3,136点登録，登録総数79,526点）（石田末基・町田英則氏と共同）.

実験温室管理，主担当.

### 【展示活動】

#### *琵琶湖博物館の活動*

モーニングレクチャー，講義，3件.

展示交流員と話そう，内容指導，1件.

屋外展示植栽維持管理業務（臼井 学と共同）.

屋外展示植栽木（高木、亜高木）毎木調査（DBH測定・生育状況）実施、ラベル調査実施（成長に伴う被覆針金交換、追加：落下、読めないもの対応）.

屋外植栽管理台帳基礎データベース更新，約800本（臼井 学と共同）.

### 【企画調整活動】

新任職員研修，C展示室，水をはぐくむ森林・森林、農地、市街地を通る水，2007年4月19日，説明.

## 館内人事・館外活動等に関すること

### 【館内の人事】

2006年4月1日～2008年3月31日，滋賀県琵琶湖環境科学研究センター，主任研究員兼務。

### 【館外の活動】

滋賀県森林センター委員。

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター，広報及び研究交流担当。

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター，センターニュース編集委員。

2007年度は総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明-ニゴロブナを媒体として-」の一環として水田に放流されたニゴロブナの消化管内容物を調べ、フナが最初にミジンコ類を食べ尽くし、後にユスリカなどの底生動物を捕食することを明らかにした。総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」では中国から絨毛虫の分類学者を招待し、一緒に琵琶湖で絨毛虫の調査を行った。その結果、1種の新種および、9種の琵琶湖未記録種を見つけることができた。

博物館の事業としては企画調整課で広報担当として、広報対応や情報の発信を行った。

JICA 博物館学集中コースの担当として、8カ国10人の研修員を受け入れ、琵琶湖博物館で行ったさまざまなプログラムの立案やコーディネートを行った。

2月にタイの国立 Mahidol Wittayanusorn School から招待され、学校や大学の教育関係者に対して、琵琶湖博物館が行っている学校や地域との連携事業について講義をし、生徒に対しては陸水学的調査の仕方やプランクトン観察の実習および講義を行った。

JICA の研修員として来日ザンビアの国立ルサカ博物館およびリビングストーン博物館の学芸員と共にディスカバリールームの国際コーナーをザンビアに更新した。

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

Shimano, S., Foissner, W. and Kusuoka, Y. (2007) Morphology and gene sequence of an endemic, new colepid (Protozoa, Ciliophora) from the ancient Lake Biwa, Japan. *Protistology*, 5 (1), European Congress of Protistology : 72.

浅井 博・堀田康夫・楠岡 泰 (2007) 琵琶湖湖畔の葦とオオカナダモに付着して棲息する巨大ズーサムニウム. *原生動物学雑誌*, 40 (1), 日本原生動物学会 : 44-46.

### 【一般向けの著作】

楠岡 泰 (2007) どぶ川の中の小さなドラマ. *岩国市立マイクロ生物館ニュース*, 22, 岩国市立マイクロ生物館 : (メールマガジンのみ).

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

Shimano, S., Foissner, W. and Kusuoka, Y. (2007年7月23日) Morphology and gene sequence of an endemic, new colepid (Protozoa, Ciliophora) from the ancient Lake Biwa, Japan. V European Congress of Protistology and XI European Conference on Ciliate Biology. European Congress of Protistology and European Conference on Ciliate Biology, St. Petersburg State University. (St. Petersburg, Russia), [講演].

楠岡 泰・Wilhelm Foissner・島野智之 (2007年8月17日) 絨毛虫から見た古代湖としての琵琶湖. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

### 【インターネットページでの公表】

Foissner, W., Kusuoka, Y. and Shimano, S. (2008) Morphology and gene sequence of *Levicolleps biwae* n. gen., n. sp. (Ciliophora, Prostomatida), a proposed endemic from the ancient Lake Biwa, Japan. *The Journal of Eukaryotic Microbiology*.

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査：分類学、形態と分子に基づく系統学」（研究代表者：マーク・グライガー），副代表者（2006～2007年度）.

琵琶湖博物館総合研究「水田地帯における水域ネットワークの構造と生物群集の関係性に関する研究」（研究代表者：前畑政善），共同研究者（2006～2007年度）.

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本陸水学会, 陸水学雑誌, 査読, 1件.

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2007年7月18日, JICA イラク南部湿原地域保全研修, Museums as a place for environment education.

2007年8月29日, JICA 閉鎖性海域の水環境管理技術コース, Environment of Lake Biwa.

2008年9月14日, JICA 水環境を主題とする環境教育, Environment education in the Lake Biwa Museum.

2007年9月29日, JICA ヨルダン国別研修「博物館活動を通じた観光振興」, The Process of Building the Lake Biwa Museum.

2007年12月8日, タイ教育関係者視察団（キング・モンクット工科大学など）, Environment education in the Lake Biwa Museum.

2008年2月14日, JICA 中東地域博物館研修, Introduction to the Lake Biwa Museum.

2008年2月16日, JICA 中東地域博物館研修, Lake Biwa museum and the local community.

2008年2月22日, タイ・マヒドール・ウィッタヤヌソルン学校, Observation of the plankton.

2008年2月25日, タイ・マヒドール・ウィッタヤヌソルン学校, Environment education in the Lake Biwa Museum.

2008年3月5日, JICA フセインサガール湖水質管理研修, Environment education in museums.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 12件.

里山体験教室, はしかけ担当, 3回, 西村知記・はしかけ「里山の会」共同.

2007年5月12日, プランクトンの模型をつくろう, わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講師, (はしかけ「びわたん」共同),

2007年6月17日, 自然農法の田んぼで生きもの探検, 観察会, 高島市, 主担当, (西村知記共同・共催: 朽木生き物ふれあいの里).

2007年11月24日, 秋の里山を歩こう, 観察会, 大津市, 主担当, (布谷知夫共同・共催: カワセミ自然の会).

#### 他の博物館・機関等主催行事

2007年6月2日, プランクトンの観察, 立命館守山高校, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年6月23日, プランクトンの観察, 立命館守山高校, 琵琶湖博物館, 講師.  
2007年8月2日, プランクトンの観察, 膳所高校, スーパーサイエンスハイスクール, 琵琶湖博物館, 講師.  
2007年8月7日, プランクトンと付着微小生物の観察, 中学校理科部会, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.  
2007年8月8日, プランクトン観察のまとめ方, 栗東中学校科学部, 琵琶湖博物館, 講師.  
2007年8月22日, プランクトンの観察, 環境教育担当者連絡会議, 琵琶湖博物館, 講師.

### **視察対応**

2007年4月19日, 展示解説および案内, 韓国 国立光州博物館職員, 琵琶湖博物館.  
2007年7月14日, 展示案内, Drs. J. Kim and C. Huh, Seoul National University, 琵琶湖博物館.  
2007年11月22日, 展示案内, Prof. Dr. Manfred Scharl Univ. Wuerzburg, 琵琶湖博物館.  
2007年12月4日, 展示案内, ノルウェーの小学生とテレビ局スタッフ, 琵琶湖博物館.

### **メディアへの協力**

2007年4月21日, NHK, ぐるっと関西プラス, 撮影対応・出演, (2007年4月8日取材).  
2007年4月23日, びわ湖放送, 羽川英樹のぐるっとびわ環状線, 撮影対応出演, (2007年4月4日取材).  
その他広報担当としてテレビ・ラジオ取材対応14件、雑誌・新聞対応21件以上.

### **【資料整備活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

微小生物静止画, 撮影および指導, 約500件.  
微小生物動画, 撮影および指導, 約10件.

### **【展示活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

モーニングレクチャー, 講演, 3回.  
展示交流員と話そう, 内容指導, 2件.  
2007年, 常設展示: 生き物コレクションプランクトンコーナー, 維持管理、展示更新 (年4回).  
2007年, 常設展示: ミクロの世界, 維持管理.  
2007年, 常設展示: どぶ川の生き物たち, 維持管理.  
2008年, ディスカバリールーム世界の子どもたちコーナー, 国立ルサカ博物館と協力して資料収集.  
2008年3月, プランクトンコーナー, 新設に協力.

### **【企画調整活動】**

2007年, 広報担当, 主担当.  
2007年, JICA 博物館学集中コース, 主担当, (布谷知夫・スミス、ロビン J. と共同).  
2007年5月8日, JICA 博物館学集中コース, Introduction to the Lake Biwa Museum.  
2007年5月9日, 琵琶湖博物館の展示を評価する, JICA 博物館学集中コース, 琵琶湖博物館, 副担当, (布谷知夫・スミス、ロビン J. と共同).  
2007年5月11日, 草津本陣見学, JICA 博物館学集中コース, 草津本陣, 引率, (布谷知夫・スミス、ロビン J. と共同).  
2007年5月12日, はしかけおよびフィールドレポーターとの懇談, JICA 博物館学集中コース, 琵琶湖博物館, コーディネート, (布谷知夫・スミス、ロビン J. と共同).  
2007年5月12日, 体験学習プログラム見学および体験, JICA 博物館学集中コース, 琵琶湖博物館, 講師, (布谷

知夫・スミス、ロビン J. と共同).

2007年5月23日～25日, 沖縄博物館見学, JICA 博物館学集中コース, 那覇市歴史博物館、那覇市立壺屋焼き博物館、首里城、沖縄県平和祈念資料館、びめゆり平和祈念資料館、恩納村博物館、読谷村立歴史博物館、座喜味城など, 引率, (国立民族学博物館と共同).

2007年6月27日, 滋賀の特徴的博物館見学, JICA 博物館学集中コース, 近江八幡資料館、能登川博物館, 引率, (布谷知夫・スミス、ロビン J. と共同).

2007年6月28日, 草津市立まちづくりセンター見学, JICA 博物館学集中コース, 草津市立まちづくりセンター, 引率, (布谷知夫・スミス、ロビン J. と共同).

2007年6月29日, 伯母川探検プロジェクト, JICA 博物館学集中コース, 琵琶湖博物館, 講師, (布谷知夫・スミス、ロビン J. と共同).

2007年6月29日, JICA 博物館学集中コース, Cooperation between museums, schools and local communities.

2007年6月30日, 子どもたちと伯母川探検, JICA 博物館学集中コース, 草津市伯母川, コーディネート, (布谷知夫・スミス、ロビン J. と共同).

2007年6月30日, 伯母Q五郎の子ども達とのワークショップ, JICA 博物館学集中コース, 草津市伯母川, コーディネート, (布谷知夫・スミス、ロビン J. と共同).

2007年7月21・22日, 企画展示関連シンポジウム, 琵琶湖博物館, 広報主担当,

2008年2月15日, 彦根城周辺見学, JICA 中東地域博物館研修, 彦根城博物館、彦根城、彦根、夢京橋キャッスルロード, 引率.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館内の人事】

2004年4月～2008年3月, JICA, 博物館学集中コース運営委員会, 運営委員.

### 【海外渡航】

2008年2月20日～28日, タイ王国、ナコン・パトム, ナコン・チャイ・シー川に関する博物館計画へのアドバイス.

2007年度は、滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課の兼務の2年目で、兼務先で週4日の勤務となった。業務の内容は昨年度に引き続き野生生物担当で主として希少種・外来種に関する業務を分担した。今年度は北川第一ダム予定地においてクマタカの営巣が確認されたことで、イヌワシ・クマタカ小委員会の運営が、年度前半の主な担当業務となった。昨年度から引き続き、「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」に関しては、指定希少野生動植物種22種と指定外来種15種類の指定が5月1日になされ、年度内には地藏川ハリヨ生息地保護区、山門湿原ミツガシワ等生育地保護区の指定に向けて取り組んだ。また、年度後半には、滋賀県内で初めて特定外来生物指定の植物・ミズヒマワリの生育が確認されたことで、ミズヒマワリのほか、同様に侵入初期にあたるナガエツルノゲイトウ、ボタンウキクサの対策の検討に関わったほか、滋賀県みずすまし計画における循環灌漑の障害となる滋賀県指定外来種のスクミリンゴガイの防除対策の検討、施設維持管理事業における滋賀県絶滅危惧種のアサザの緊急避難の検討など、主として希少種の保護と外来種の管理に関する業務に携わった1年であった。

水産庁健全な内水面生態系復元等推進委託事業は、新規課題「外来種抑制等対策事業委」となり、分担者として、特定外来魚と在来魚との共存条件の解明に資するべく、全国都道府県におけるレッドデータブックにおける特定外来魚の影響を調査し、傾向をとりまとめた。また、(財)ダム水源環境整備センターによる応用生態研究助成を受け、ダム貯水池における特定外来魚の生息抑制に関する有効な方策を検討した。具体的には、産卵に適した水底基質が卓越するために誘引性の低い人工産卵床への誘引性を高めるための設置方法の検討と、水面に設置した構造物に秋から冬にかけて蟻集する状況の追跡調査を行った。

## 印刷物

### 【学術論文】

佐藤千夏・向井貴彦・淀 太我・佐久間 徹・中井克樹・沢田裕一 (2007) 日本国内におけるコクチバスのmtDNAハプロタイプの分布. *魚類学雑誌*, 54: 225-229.

### 【専門分野の著述】

金尾滋史・中尾博行・高野裕樹・舟尾俊範・沢田裕一・琵琶湖博物館うおの会・中井克樹 (2007) 滋賀県におけるスクミリンゴガイの生息域の拡大. *ちりぼたん*, 38: 88-94.

堤 茂和・土井 典・中井克樹 (2008) 滋賀県の外来生物に対する取組の経緯と新しい条例の施行. *都市緑化技術*, 68: 18-21.

中井克樹 (2008) 陸産貝類を対象とした種リストの作成. 滋賀自然環境研究会 編, *平成19年度野生生物生息状況調査報告書～魚類・貝類・その他の水生無脊椎動物編*, 43-50.

中井克樹・金尾滋史 (2008) 7 菅山寺, 6 陸産貝類. 滋賀県自然環境研究会 編, *平成19年度生息・生育地等保護区野生動植物調査報告書*: 129-140.

### 【一般向けの著述】

中井克樹 (2007) 私と環境: 地域の生物多様性は「お宝」. *朝日新聞*, 2007年5月27日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表など】

- 中井克樹 (2007年4月23日) 特定外来生物防除の問題：オオクチバス～淡水魚類および無脊椎動物における侵略的外来種の問題と課題. 侵入種プロジェクト推進会議, WWF ジャパン (東京都港区), [口頭発表].
- 中井克樹・中尾博行・高野裕樹・沢田裕一 (2007年9月15日) ブルーギルの繁殖コロニーの動態とその特性を利用した捕獲方法の検討. 応用生態工学会第11回大会研究発表会, 名古屋大学 (愛知県), [口頭発表].
- 中井克樹 (2007年10月7日) 2007年度日本魚類学会年会. 北海道大学学術交流会館 (北海道札幌市), [口頭発表第1会場 (分布・魚類相)、座長].
- 中井克樹 (2007年11月3日) ブラックバスが昆虫を食う！～バスは虫で生き延びる～. 日本鞘翅学会第20回大会特別講演, 福井大学文京キャンパス (福井県福井市), [特別講演 (招待)].
- 中井克樹 (2007年11月3日) シンポジウム「種多様性の保全と, 日本鞘翅学会が果たすべき役割～第20回大会の節目の年で」. 日本鞘翅学会第20回大会特別講演, 福井大学文京キャンパス (福井県福井市), [パネラー].
- 中井克樹 (2007年12月21日) 自然環境保全と琵琶湖博物館. 琵琶湖博物館研究セミナー. 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 中井克樹 (2008年1月25日) オオクチバスの遺伝的分析が示す琵琶湖への追加導入と国内での分布拡大様式. 第4回湖岸生態系保全・修復研究会「侵略的外来生物の脅威と対策」, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター. ピアザ淡海 (滋賀県大津市), [口頭発表].
- 中井克樹 (2008年1月25日) 滋賀県における外来動物の侵入状況と指定外来種の選定. 第4回湖岸生態系保全・修復研究会「侵略的外来生物の脅威と対策」, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター. ピアザ淡海 (滋賀県大津市), [口頭発表].
- 中井克樹 (2008年1月25日) 総合討論. 第4回湖岸生態系保全・修復研究会「侵略的外来生物の脅威と対策」, 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター, ピアザ淡海 (滋賀県大津市), [パネリスト].
- 中井克樹 (2008年1月27日) 「オオクチバス防除モデル事業」にみる防除の取り組みの実際と課題. 琵琶湖を戻す会第3回「外来魚情報交換会」, 草津市市民交流プラザ (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 佐藤千夏・向井貴彦・淀 太我・佐久間 徹・中井克樹 (2008年1月27日) 日本国内におけるコクチバスのmtDNAハプロタイプの分布と侵入起源. 琵琶湖を戻す会第3回「外来魚情報交換会」, 草津市市民交流プラザ (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 木村浩和・南野洋孝・中尾博行・中井克樹・沢田裕一 (2008年1月27日) 琵琶湖北湖におけるブルーギル産卵床形成場所について. 琵琶湖を戻す会第3回「外来魚情報交換会」, 草津市市民交流プラザ (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 中尾博行・中井克樹・沢田裕一 (2008年1月27日) コロニーを利用してブルーギルを獲りまくる方法. 琵琶湖を戻す会第3回「外来魚情報交換会」, 草津市市民交流プラザ (滋賀県草津市), [口頭発表].
- 中井克樹 (2008年2月16日) 特定外来魚と在来魚との共存条件の解明 (1) 在来魚との共存の可否の検討. 平成19年度外来種抑制等対策事業検討委員会年度末報告会, (財) 全国内水面漁業協同組合連合会, 三会堂ビル (東京都港区), [口頭発表].
- 中井克樹 (2008年3月15日) オオクチバスはどうする？～外来生物法の目玉のその後～. 日本生態学会第55回大会シンポジウム S03「外来生物法の光と影～制定5年後の見直しに向けて」, 福岡国際会議場 (福岡県福岡市), [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明-ニゴロブナを媒体として-」(研究代表者：前畑改善), 研究協力者 (2006年度～).
- 水産庁平成19年度健全な内水面生態系復元等推進委託事業「外来種抑制等対策事業」, 担当者 (2007年度～).

(財)ダム水源地環境整備センター応用生態研究助成「ダム水源地における水位操作と人工産卵床を利用した特定外来魚の生息抑制に関する研究」, 申請者 (2007年度～2009年度).

#### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会, 自然保護専門委員会外来種問題検討作業部会, 部会員, 2001年3月～.

日本魚類学会, 評議員, 2004年1月～.

応用生態工学会, 「応用生態工学」会誌編集委員会, 専門編集委員, 2000年4月～.

応用生態工学会, パートナースhip委員会, 委員, 2001年12月～.

阪神貝類談話会, 理事, 2000年1月～.

山口貝類研究同好会, 査読協力員, 1996年～.

生物多様性ネットワーク新潟, 顧問, 2004年10月～.

日本陸水学会, 陸水学雑誌 (外来生物特集), 投稿論文の査読, 1件.

日本魚類学会, 魚類学雑誌, 投稿論文の査読, 1件.

豊橋市自然史博物館, 研究紀要, 投稿論文の査読, 1件.

シリーズ「群集生態学の新たな挑戦」(共立出版) 章, 査読, 1件.

#### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2007年度, 滋賀県立大学大学院環境科学研究科・博士後期課程大学院生 (中尾博之・藤田建太郎) [副指導教官], 琵琶湖におけるオオクチバス・ブルーギルに繁殖生態等に関する研究.

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 琵琶湖博物館の主催行事

2007年8月2日, 生きものの飼育に関するルール: 「してはいけないこと」と「しなくてはいけないこと」, 琵琶湖博物館生き物飼育方講座, 湖北町立朝日小学校, 講義, (分担担当).

2007年8月3日, 生きものの飼育に関するルール: 「してはいけないこと」と「しなくてはいけないこと」, 琵琶湖博物館生き物飼育方講座, 琵琶湖博物館, 講義, (分担担当).

2008年1月19日, なぜ地域在来魚を調べ、守るのかーいま必要な「お宝鑑定」ー, 指導者のための淡水魚類学専門講座, 多賀町立博物館多賀の自然と文化の館, 講師.

##### 他の博物館・機関等主催行事

2007年6月10日, 外来種問題: 琵琶湖の現状とビオトープにおける考え方, ビオトープを考える会, 平成19年度宿泊勉強会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), 講師.

2007年8月4日, 外来魚問題にどう対処するか: 各地の取り組みと琵琶湖の課題, びわ湖の水と環境を守る会 (びわ湖の会), 「びわ湖の現在を考える」連続講座, 大津市市民活動センター (滋賀県大津市), 講師.

2007年8月8日, 外来生物の現状と課題, 吹田市まちなか水族館講座「～楽しく学ぼう!～水辺の生態系」, メイシアター (大阪府吹田市), 講師.

2007年8月10日, プランクトンと魚の観察, (財)大阪府水道サービス公社, 夏休み水源琵琶湖親子見学会, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年8月10日, 身近な森の仲間たちのお話, 信楽たけのこ児童館, 星空映画会「森のリトル・ギャング」, 信楽運動公園 (甲賀市信楽町), 講師.

2007年8月24日, 「生き物屋」が見つめる、自然と命, 第55回日本PTA全国研究大会「滋賀びわこ大会」, 「環境」び

わこから考える環境学習，滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール（滋賀県大津市），提言者・パネリスト。

2007年10月16日，生きものとのつきあい方，京都府立東稜高等学校，2007年度SPP講義，京都府立東稜高等学校（京都市伏見区），講義。

2007年11月18日，なぜ郷土の生きものが大切なのか：外来生物対策が必要な理由，関川水系生態系保全協議会，生きものから見た高田平野の池や川…関川水系の水辺環境の保全を考える，八千浦交流館「はまぐみ」（新潟県上越市），基調講演。

2007年11月20日，外来魚問題：影響と対策、そして課題，（社）日本水産資源保護協会，巡回教室講演。鳥取県立県民文化会館（鳥取県鳥取市），講演。

2007年12月9日，琵琶湖の環境問題を考える，瀬田川リバブレ隊，湖上セミナー，瀬田川観光船「一番丸」（滋賀県琵琶湖上），講演。

2008年2月8日，こどもと大人の環境井戸端会議，第7回草津市こども環境会議実行委員会，第7回草津市こども環境会議～語り合おう！身近な環境！みんなの未来～，草津市役所（滋賀県草津市），おとなのパネラー。

2008年2月19日，バス釣り問題・外来生物法・レッドデータブック，京都府立東稜高等学校，2007年度SPP生徒研究発表会，京都府立東稜高等学校（京都市伏見区），講評。

2008年3月18日，外来生物はどうすればいい？琵琶湖で、そして洞爺湖で，滋賀県立石山高等学校，環境問題講演会，滋賀県立石山高等学校（滋賀県大津市），講師。

### 視察対応

2007年9月18日，琵琶湖における淡水貝類の現状に関する視察，ドイツ連邦共和国ギッセン大学修士課程大学院生，琵琶湖博物館および琵琶湖南湖。

2007年9月20日，琵琶湖の淡水魚と外来魚問題の現状に関する視察，岩手県内水面漁業協同組合連合会，琵琶湖博物館。

2007年9月23日，琵琶湖における淡水貝類に関する情報収集と標本採集，ドイツ連邦共和国フンボルト大学自然史博物館研究員，琵琶湖博物館および琵琶湖南湖。

### メディアへの協力

2007年5月13日，TBS「噂の！東京マガジン」，カワヒバリガイの生態的影響と京都府宇治川での取材同行，（2007年5月2日取材）。

2007年5月25日，TBS「みのもんたの朝ズバッ！」，カワヒバリガイの生態的影響と資料映像提供（2007年5月電話取材）。

2007年6月10日，テレビ朝日系「素敵な宇宙船地球号」，外来種は警告するVol. 4～巨大ワニガメの悲鳴～，監修（2007年1月以降取材）。

2007年11月4日，テレビ朝日系「素敵な宇宙船地球号」，外来種は警告するVol. 5～大都会の水がめを襲う侵略者～，監修・カワヒバリガイに関する情報提供（2007年1月以降取材）。

2007年11月18日，新潟日報，朝日池地引網イベントに関するコメント，（2007年11月17日現地取材）。

2008年1月，三推社「FENEK2008年1月号」，外来生物法施行後の外来魚対策に関するコメント，（2007年11月電話・電子メール取材）。

2008年2月28日，「R25.jpNo. 181：特定外来生物が各地で食べられているのはなぜ？」，外来魚の食利用と琵琶湖の現状に関するコメント，（2008年2月電子メール取材）。

2007年，滋賀県立石山高等学校放送部「琵琶湖を守れ」，外来魚に関するインタビュー（2007年9月取材）。

### 【情報整備活動】

#### 他博物館・機関の活動

名古屋市「平成19年版名古屋市環境白書」への写真提供。

### 【資料整備活動】

#### 他博物館・機関の活動

秋田淡水魚研究会，汽水生貝類の同定依頼。  
エヌエス環境（株），淡水生貝類の同定依頼。

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回。  
2007年4月24日～5月6日，新空間展示「動植物とのつきあいの新しいルール～指定希少野生動植物種と指定外来種」，担当，（松田征也ほかと共同）。

#### 他博物館・機関の活動

朽木生きものふれあいの里特別企画展「滋賀県の希少種と外来種」，2007年5月～7月，資料提供。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館内の人事】

2007年4月1日～，滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課主査（野生生物担当）を兼務。

### 【館外の活動】

2003年5月～，滋賀県外来種問題検討委員会（2006年度までは「滋賀県移入種問題検討委員会」），検討委員および水生生態系部会員。

2003年～，滋賀県滋賀県生き物総合調査委員会，魚貝類部会，専門委員。

2003年度～，環境省絶滅のおそれのある野生動植物種の選定・評価検討会，陸・淡水産貝類分科会，検討委員。

2004年10月～，環境省，外来生物専門家グループ（無脊椎動物），検討委員。

1999年2月～，（財）リバーフロント整備センター，河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員。

1999年10月～，（財）ダム水源地環境整備センター，河川水辺の国勢調査（ダム湖版）スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員。

2004年8月～，国土交通省琵琶湖河川事務所，河川保全利用委員会，委員。

2004年10月～，生物多様性ネットワーク新潟，顧問。

2006年4月～，2008年3月近畿農政局，平成18年度水土里の環境創造懇談会，委員。

2005年12月～，環境省近畿地方事務所，琵琶湖オオクチバス等防除モデル事業調査検討会，委員。

2005年12月～，環境省中部地方事務所，犬山市オオクチバス等防除モデル事業検討会，委員。

2007年3月～，環境省中部地方事務所，オオクチバス等防除モデル事業（片野鴨池）検討会，事業アドバイザー。

2007年11月～3月，滋賀県農政水産部農政振興課，みずすまし専門部会（生態系保全専門部会），外来巻貝に関する専門家。

2008年3月～，環境省九州地方事務所，蘭牟田池オオクチバス等防除モデル事業検討会，アドバイザー。

本年度の研究および事業は半期毎に分かれる。前半期は、第15回企画展示「琵琶湖のコイ・フナ物語-東アジアの中の湖と人-」の製作、および企画展示と関連するシンポジウムの準備、開催を行った。本企画展示は博物館の総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明-ニゴロブナを媒体として-」と深く関連する内容であったので、集水域農村において展示製作及びシンポジウム準備をかねた調査を行い、その一端をシンポジウムにおいて報告した。

後半期は、二つの領域で調査研究を進めてきた。一つは、専門研究として取り組んでいる鳥獣被害問題の研究であり、もうひとつはヨシ帯保全についての研究である。それらはいずれも人間による伝統的な自然利用とその変遷に関する研究として位置づけられる。前者については、滋賀県下のカワウ営巣による森林衰退の問題を中心に、この問題を伝統的な資源利用との連続性のなかに位置づけるための調査を実施してきた。その結果、鳥糞を肥料として利用している地域は、想像以上に多くあること、さらに、利用形態も多様であることがわかってきた。その成果の一部は公表したが、より一層の資料収集と仮説の再構築が必要である。もうひとつは、前年度に調査を行ったヨシ帯保全の調査である。これについては、上述した水田の総合研究と密接にかかわることがわかってきた。そのような視点および、討論の成果を得て、今期は成果の公表につとめた。

交流事業では、博物館をとりまく環境の激変に対応して、地域連携事業の強化に力を入れた。県内の博物館や利用者同士のネットワーク化に積極的に参加するとともに、館内では、利用者の活動支援の充実をはかった。また、新しい交流のあり方についても若干の検討を行った。

## 印刷物

### 【学術論文】

- 牧野厚史（2008）ヨシ帯保全における自然と人間との適度な関係。滋賀大学総合環境研究所年報（特集），1（5）：1-12。  
 藤村美穂・武田 淳・牧野厚史（2007）琵琶湖と有明海における水族資源の伝統的利用と変容（その2）。社会関係からみたヨシ帯，低平地研究，16：25-30。  
 藤村美穂・武田 淳・牧野厚史（2007）琵琶湖と有明海における水族資源の伝統的利用と変容（その3）。社会関係からみたヨシ帯，低平地研究，16：31-42。

### 【一般向けの著作】

- 牧野厚史（2007）半栽培という自然との関わり。うみんど，42，琵琶湖博物館：5-6。  
 牧野厚史（2007）湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「中国『魚と米の郷』で琵琶湖のことを考える」。9，毎日新聞：2007年6月5日。

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 牧野厚史（2007年5月19日）半栽培という自然との関わり-滋賀県琵琶湖のヨシ帯保全/環境保全への住民参加再考-。半栽培研究会，関西学院大学（西宮市），[口頭発表]。  
 牧野厚史（2007年7月20日）野生生物がもたらす利益を享受する-愛知県美浜町「鵜の山鵜 蓄殖地」における森林を介したカワウとむらとの関係-。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館（草津市），[口頭発表]。

牧野厚史 (2007年7月28日) 米を作るために魚を育てる。企画展示関連シンポジウム「東アジアにおける生き物と人—これからの関係を探る—」, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].

牧野厚史 (2008年2月27日) 共同利用空間としての水田。試験研究機関研究発表会, 琵琶湖博物館 (草津市), [口頭発表].

牧野厚史 (2008年3月1日) 共同利用空間としての水田。琵琶湖環境史科研共同研究会, 水ヶ浜ペンション (近江八幡市), [口頭発表].

#### 【インターネットページでの公表】

牧野厚史 (2007年5月19日) 半栽培という自然との関わり—滋賀県琵琶湖のヨシ帯保全/環境保全への住民参加再考。  
<http://miya.let.hokudai.ac.jp/xoops/modules/tinyd3/content/index.php?id=9>, 半栽培研究会.

#### 【研究プロジェクト等への参加】

関西学院大学 21世紀COEプログラム「人類の幸福に資する社会調査」の研究「幸福のフィールドワーク—実存と実践の比較社会学的方法の確立をめざして—」(研究代表者:古川 彰), 分担者 (2003~2008年度).

滋賀大学総合環境研究所プロジェクト研究「水辺エコトーンにおける伝統的生業活動とコモンスの容容に関する研究」(研究代表者:佐野静代), 分担者 (2005年度~).

科学研究費基盤研究 (B)「半栽培 (半自然) と社会的しくみについての環境社会学的研究」(研究代表者:宮内泰介), 分担者 (2005~2007年度).

科学研究費基盤研究 (B)「琵琶湖の歴史的環境と人間の関わりに関する総合的研究」(研究代表者:水野章二), 分担者 (2006~2009年度).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明—ニゴロブナを媒体として—」(研究代表者:前畑政善), 環境利用調査班 班長 (2007年度).

#### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

村落研究学会, 理事, 2007~2009年度.

村落研究学会, 研究委員会副委員長, 2007~2009年度.

環境社会学会, 環境社会学研究, 査読, 1件.

#### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006年4月~7月, 龍谷大学社会学部, 「びわ湖・滋賀学」.

2006年9月~12月, 関西学院大学社会学部, 「地域・生活・環境特論A」.

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー, フロアトーク, 琵琶湖博物館, 12件.

はしかけ登録講座, 2件.

2007年10月6日, 湖南環境シンポジウム, 琵琶湖博物館 (草津市), 受け入れ, (湖南振興局と共催).

牧野厚史 (2007年10月14日) 山・川・海をつなぐ水といのちの物語。第7回いのちの科学フォーラム市民公開講座, 琵琶湖博物館 (草津市), [パネラー].

### 他の博物館・機関等主催行事

- 2007年5月16日、琵琶湖と人々の暮らし、大垣市立西中学校2年生、琵琶湖博物館、講師。
- 2007年6月30日、水と人々の暮らし、立命館守山高校、琵琶湖博物館、講師。
- 2007年7月24日、水と人々の暮らし、膳所高校スーパーサイエンスハイスクール、琵琶湖博物館、講師。
- 2007年9月29日、関西例会、日本科学技術ジャーナリスト会議、琵琶湖博物館、講師。
- 2007年9月30日、博物館の使い方・楽しみ方-博物館は琵琶湖の入り口-、My ライフ My 草津講座、特定非営利活動法人  
おうみNPO政策ネットワーク、琵琶湖博物館、講師。
- 2007年10月6日、淡海こどもエコクラブ活動交流会、琵琶湖博物館、琵琶湖博物館、受け入れ、および審査委員。
- 2007年10月10日、Lake Biwa : Development and Environments, (独立行政法人) 国際文化会館, アジア・リーダーシ  
ップ・フェロー・プログラム, Unity in Diversity-Envisioning Community Building in Asia and Beyon, 琵  
琶湖博物館, 講師。
- 2007年10月27日、水と人々の暮らし、立命館守山中学校、琵琶湖博物館、講師。
- 2007年11月23日、「魚のゆりかご水田」シンポジウム、滋賀県農政水産部農村振興課・滋賀県立琵琶湖博物館、琵琶  
湖博物館、座長。
- 2007年12月2日、環境・ほっと・カフェ 今、地域のために何ができるかII (滋賀県民環境学習のつどい)、しが協働  
部活プロジェクト、琵琶湖博物館、コーディネーター。
- 2007年12月4日、水でつながる暮らしと琵琶湖、滋賀県理容生活衛生同業組合、琵琶湖博物館、講師。
- 2008年2月9日、第7回草津市こども環境会議、第7回草津市こども環境会議実行委員会、草津市役所、展示出展。
- 2008年2月22・23日、気軽にどこでもアート交流事業「アートはみんなのもの」、滋賀県、(財) 滋賀県文化振興事業  
団、文化産業交流会館(米原市)、ワークショップ出展。

### 視察対応

- 2007年10月11・12日、琵琶湖自然再生見学、秋田県立大学谷口研究室、講師・現地案内。
- 2007年10月31日、自治体職員協力交流事業(北九州市)、琵琶湖博物館および中主漁協。

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

- モーニングレクチャー、講義、3回。
- 2007年4月～7月、第15回企画展示「琵琶湖のこい・フナのお話-東アジアの中の湖と人-」第4幕製作。

### 【企画調整活動】

- 新任職員研修、交流事業について、2007年4月19日、琵琶湖博物館。  
学校への説明訪問、京都府内小中学校、4件。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【海外渡航】

- 2007年4月10日～18日、中国湖南省、企画展に関する調査。

### 【館外の活動】

- 2007年度、水陸移行帯ワーキンググループ、委員。
- 2008年3月～、ゆりかご水田ネットワーク、委員。

生物地球化学的視点から、湖内の生態系や物質循環に関わる現象を研究している。最近7年間は南湖で急速に増えた沈水植物の分布、現存量組成をモニタリングすると同時に、沈水植物が急増した原因や、背景としての歴史的な消長を探っている。

沈水植物の研究から副次的に発生した研究課題としては、南湖の面積の再検討、セタシジミやタテボシガイの貧酸素耐性、東岸沖の湖底穴の現況調査などがある。このうちあとの2つについては現在も調査を継続中である。

また、2007年度は琵琶湖博物館のフィールドレポーターの方々とともに、特定外来種のボタンウキクサの県下の分布状況の調査も行った。調査期間中に赤野井湾でボタンウキクサが多量に発生したため、県自然環境保全課に協力して、その除去と防除の活動も行っている。

## 印刷物

### 【一般向けの著作】

芳賀裕樹 (2007) 湖と人と琵琶湖博物館の10年-「集う・使う・創る新空間 交流機能の充実を求めて」. 11, 毎日新聞: 2007年6月19日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

芳賀裕樹 (2007年4月20日) 水草が増えた本当のわけを探る. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

芳賀裕樹 (2007年6月29日) 南湖における沈水植物の量的変遷とその要因について. 湖岸生態系保全・修復研究会 (第1回), 琵琶湖環境科学研究センター, ピアザ淡海 (滋賀県大津市), [口頭発表].

芳賀裕樹・大塚泰介 (2007年9月11日) 琵琶湖南湖の沈水植物の分布拡大の原因に関する検討. 日本陸水学会第78回大会, 日本陸水学会, 茨城大学 (茨城県水戸市), [口頭発表].

孝橋賢一・芳賀裕樹・臼井 学・森田 尚・岡村貴司・藤岡康弘・小林博美・岡本高弘・原 良平 (2007年9月11日) 琵琶湖南湖東岸部における穴状地形について. 日本陸水学会第78回大会, 日本陸水学会, 茨城大学 (茨城県水戸市), [口頭発表].

一瀬 諭・吉田美紀・若林徹哉・古田世子・青木 茂・岡本高弘・原 良平・荒木 真・芳賀裕樹 (2007年9月11日) 琵琶湖沿岸帯モデル水域におけるアオコ発生抑制対策後の検証. 日本陸水学会第78回大会, 日本陸水学会, 茨城大学 (茨城県水戸市), [口頭発表].

石川可奈子・芳賀裕樹 (2008年3月4日) 南湖における水の動きと水草分布. 湖岸生態系保全・修復研究会 (第5回), 琵琶湖環境科学研究センター, びわ湖大津館 (滋賀県大津市), [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館申請専門研究「2007年の南湖沈水植物の現存量分布」(研究代表者: 芳賀裕樹), 研究代表者 (2007年4月~2008年3月).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本陸水学会，和文誌編集委員長，2007年4月～2009年3月。

日本陸水学会，陸水学雑誌，査読3件。

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10件。

2007年8月27日～28日，先生のための湖沼学基礎講座，講座，琵琶湖博物館，講師，（中村公一・中野正俊共同、滋賀県総合教育センターと共催）。

#### 他の博物館・機関等主催行事

2007年7月18日，イラク南部湿地保全コース，国際湖沼環境委員会，JICA研修，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2007年8月2日，研修，膳所高校，SSH，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2007年8月29日，琵琶湖と淀川について 淀川の水質はどのように悪かったのか？，きつづ光科学館ふおとん・京都府山城教育局，教員研修，きつづ光科学館（京都府木津川市），講師。

2007年9月14日，We love “Water Planet” Coca-Cola Mother Lake 琵琶湖2007，日本コカ・コーラ（株），研修，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2007年10月20日，水草の繁茂は『異常』か，びわ湖の水と環境を守る会，公開講座「琵琶湖の現在を考える」，大津市市民活動センター（滋賀県大津市），講師。

2008年2月1日，下水処理研修，北九州国際技術協力協会，JICA研修，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2008年2月2日，立命館守山中学校，ミュージアムスクール，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2008年2月5日，湖沼環境保全のための総合的流域管理コース，国際湖沼環境委員会，JICA研修，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

#### 視察対応

2008年3月26日，琵琶湖など湖沼環境について，碧南青少年海の科学館，琵琶湖博物館。

#### メディアへの協力

2007年4月4日，毎日新聞，琵琶湖の水草異常繁茂「抑制要因が消えた」芳賀・琵琶湖博物館主任学芸員が指摘，情報提供，（2007年3月31日取材）。

2007年6月30日，京都新聞，琵琶湖岸の生態系守れ 大津で初の研究会，取材対応，（2007年6月29日取材）。

2007年10月10日，京都新聞，ボタンウキクサ分布追え 琵琶湖博物館県全域で調査，取材対応，（2007年10月10日取材）。

2007年10月11日，産経新聞，ボタンウキクサ繁殖防げ 琵琶湖博物館 分布調査開始、県民協力募る，取材対応，（2007年10月10日取材）。

2007年10月12日，中日新聞，ボタンウキクサ繁殖状況報告を 県民サポーター募る，取材対応，（2007年10月10日取材）。

2007年10月27日，朝日新聞，水草、湖面に猛威，取材協力・コメント，（2007年10月10日取材）。

2007年11月15日，京都新聞，知ってナットク 琵琶湖湖底の低酸素化，情報提供，（2007年11月10日取材）。

2007年11月27日，NHK おうみ発610，びわ湖クローズアップ，ボタンウキクサ，出演，（2007年11月20日取材）。

2007年11月30日, 京都新聞, ボタンウキクサ 取り除け 6000平方メートル、船が出動, 取材協力・コメント, (2007年11月29日取材).

2007年12月10日, テレビ関西アンカー, 水面にびっしり緑のじゅうたん 外来ウキクサ驚きの繁殖力, 出演, (2007年12月10日取材).

2008年1月4日, 京都新聞, コカナダモ増殖5年前の10倍超, 情報提供, (2007年12月20日取材).

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 3回.

#### 【企画調整活動】

学校への説明訪問, 京都府内小中学校, 2件.

#### 【研究部関連事業】

試験研究機関連絡会議, 担当, 8回, 2007年4月～.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館内の人事】

2007年4月～10月, いのちの科学フォーラム実行委員会, 実行委員.

#### 【館外の活動】

2006年4月～2007年3月, 滋賀県環境部下水道課, 琵琶湖流域下水道懇話会, 委員.

2008年3月, 淡海環境保全財団, 水草除去・有効活用公募審査委員.

2007年4月～2008年3月, 滋賀県環境部琵琶湖再生課, 水草ワーキンググループグループ員.

研究内容が多岐にわたり、またそれぞれの研究への関与の度合いが異なるので、研究への関与が大きく、かつ今年度中に結果がある程度まとまった4課題の概要のみを以下に記す。

愛媛大学米野々森林研究センター付近の石手川に生息する珪藻を調べた。出現種のうち、*Achnanthes minutissima* var. *robusta* Hust. を種に昇格し、*Achnantheidium* 属に移して *Achnantheidium robustum* (Hust.) Ohtsuka comb. nov. et stat. nov. とした。また、*Synedra ramesi* Hérib. を、命名規約上妥当な属名である *Ulnaria* に移して *Ulnaria ramesi* (Hérib.) Ohtsuka comb. nov. とした。日本の河川からの報告が少ない、あるいは全くない種が多く出現したが、これらの種の大部分は一部の未同定種を除いて石手川に特有なものではなく、これまで未同定だったか、他の分類群として同定されてきたものであることが明らかになった。

構造方程式モデリング (SEM) によって、DAIpo (付着珪藻群集に基づく有機汚濁指数) の水質指標としての特徴を解明した。琵琶湖に直接流入する農業幹線排水路で事例研究を行った。2005年11月と2006年5月に、水深30cmの場所に約1ヶ月設置した煉瓦の上から珪藻群落の試料を採集した。DAIpo の値は27.6-53.9の範囲にあり、多くの地点がβ-中腐水性であると判定された。SEMによって、DAIpo で指標される水質は複数の要因の総合であり、単一の水質項目には還元できないことが示された。高いNO<sub>2</sub>-N およびPO<sub>4</sub>-P 濃度、あるいは低い溶存酸素が、DAIpo を引き下げる要因になったのに対して、高い電気伝導度およびNO<sub>3</sub>-N 濃度はDAIpo を引き下げなかったことが示された。5月に11月よりも有意に高いDAIpo が観測された。この結果は、従来の報告通り5月の降雨時に集中的な栄養塩負荷が起こっていたとしても、DAIpo には指標されなかったことを示している。

水田にニゴロブナ仔魚を放流し、浮遊生物群集に及ぼす影響を調べた。ニゴロブナ放流区では、対照区に比べて枝角類が著しく減少し、貝形類およびユスリカ幼虫も少なくなった。放流区では、0.8μm以上の分画に含まれる細菌、微小従属栄養鞭毛虫 (HNF)、63μm以下の分画に含まれる植物プランクトンが、いずれも有意な減少を示した。この結果はニゴロブナ仔魚→枝角類→微小生物という栄養カスケードの存在を示している。一方、放流区では枝角類に捕食されない大型の植物プランクトンもやや多くなった。また、水中のクロロフィル a の総量、および全リンの濃度は、ニゴロブナが稚魚期に入った頃から放流区で対照区よりも高くなった。この結果は、稚魚が土壌から水中へと栄養塩を供給する栄養ポンプとして働いていたためと解釈される。

琵琶湖博物館における環境教育の位置付けについて検討した。琵琶湖博物館の基本方針の中に教育という語は全く見られない。しかし琵琶湖博物館は、設置理念によれば、人間と湖とのよりよい共存関係を築くために、情報や体験の交流を行い、人間と湖との共存関係を考えるための場として設置されている。この活動方針は、教育とはコミュニケーションを媒介として、新しい知識・経験を取り込んで自らの概念を構成する機会を提供することだという見方、すなわち社会的構成主義教育観に基づくならば、まさに教育そのものである。また、人間と湖とのよりよい共存関係を築くことに目的を置いている点で、ベオグラード憲章に見られる環境教育の定義ともよく一致している。すなわち琵琶湖博物館は、基本方針の中で環境教育を謳っていないとしても、実質的に環境教育機関として位置づけられる。この事については「うみと環境教育」シンポジウムで発表した。

## 印刷物

### 【学術論文】

Haga, H. , Ohtsuka, T. , Matsuda, M. and Ashiya, M. (2007) Echosounding observations of coverage, height, PVI, and biomass of submerged macrophytes in the southern basin of Lake Biwa, Japan. *Limnology*, 8,

日本陸水学会：95-102.

大塚泰介・打越崇子・甲津久生（2007）農業排水路でDAIpo（付着珪藻群集に基づく有機汚濁指数）は何を指標するか？-構造方程式モデリングによる検討-. *陸水学雑誌*, 68, 日本陸水学会：229-240.

Takahashi, T. , Ohtsuka, T. and Matsuura, K. (2007) A computer system for identifying Tanganyikan cichlids using meristic and descriptive data accumulated in literature. *Ichthyological Research*, 54, 日本魚類学会：399-403.

Ohtsuka, T. , Nakamura, Y. , Nakano, S. and Miyake, Y. (2007) Diatoms of Ishite Stream, near the Komenono Forest Research Center of Ehime University, Japan. *Diatom*, 23, 日本珪藻学会：29-48.

Kihara, Y. , Arita, S. and Ohtsuka, T. (2007) Diatoms of Yakumogahara Moor in the Hira Mountain Range, west-central Japan. *Diatom*, 23, 日本珪藻学会：83-90.

### 【専門分野の著作】

Park, J.S. , Ohtsuka, T. and Koh, C.H. (2007) Taxonomic notes on two marine benthic diatoms in Korean tidal flats : *Climaconeis* sp. and *Petrodictyon voigtii* (Skvortsov) J.Park and C.H.Koh, comb. nov. *Proceedings of the 1st Central European Diatom Meeting 2007*, Botanic Garden and Botanical Museum Berlin-Dahlem, Freie Universität Berlin : 125-128.

大塚泰介（2007）書評. 宇野木早苗 著 , 河川事業は海をどう変えたか. *陸水学雑誌*, 68, 日本陸水学会：521-522.

### 【一般向けの著作】

小川雅広・西村知記・南堀貞雄・宮本真二・芳賀裕樹・大塚泰介 編（2007）うみんど. 42・43・44・45, 琵琶湖博物館：8p.

大塚泰介（2007）湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「珪藻を研究-たんさいぼうの会『水の中の宝石』に魅せられ」. 24, *毎日新聞*, 2007年10月16日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

大塚泰介（2007年5月19日）日本珪藻学会第28回大会, 日本珪藻学会, 近畿大学医学部（大阪狭山市）, [座長].

有田重彦・大塚泰介（2007年5月19日）*Eunotia serra* の波打ちがもつ規則性について. 日本珪藻学会第28回大会, 日本珪藻学会, 近畿大学医学部（大阪狭山市）, [ポスター発表].

木原靖郎・有田重彦・大塚泰介（2007年5月19日）比良山八雲ヶ原湿原の珪藻. 日本珪藻学会第28回大会, 日本珪藻学会, 近畿大学医学部（大阪狭山市）, [ポスター発表].

大塚泰介・打越崇子・甲津久生（2007年7月20日）農業排水路でDAIpo（付着珪藻群集に基づく有機汚濁指数）は何を指標するか？ 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

大塚泰介・金尾滋史・鈴木規慈・前畑政善・沢田裕一（2007年10月20日）水田におけるニゴロブナ仔稚魚の成長パターン. 第45回魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会, 龍谷大学（大津市）, [口頭発表].

中井大介・大塚泰介（2007年11月3日）ヨシのシュートに付着した珪藻群落の遷移. 日本珪藻学会第27回研究集会, 日本珪藻学会, 豊田市福祉センター百年草（豊田市）, [口頭発表].

大塚泰介（2007年12月20日）人の禪で相撲をとる. 京大学生態学研究センター水域セミナー, 京大学生態学研究センター, 京大学生態学研究センター（大津市）, [口頭発表].

大塚泰介（2008年3月16日）琵琶湖博物館にとって環境教育とは何か？. 沿岸環境関連学会連絡協議会第19回ジョイント・シンポジウム「うみと環境教育」, 沿岸環境関連学会連絡協議会, 京都大学（京都市）, [口頭発表].

#### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「アンケート調査による展示効果の研究」, (2007年度).

琵琶湖博物館共同研究「珪藻電子図鑑の増補改良」(研究代表者:大塚泰介), 研究代表者(2003年度~2007年度).

琵琶湖博物館総合研究「琵琶湖およびその集水域の生物学的探査:分類学,形態と分子に基づく系統学」(研究代表者:Mark・J. Grygier), 共同研究者(2006年度~)

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明-ニゴロブナを媒体として-」(研究代表者:前畑政善), 副代表者(2007年度~).

科学研究費補助金事業基盤研究(C)「ラオスの水田における生態系変化の指標となる藻類相の特定」(研究代表者:藤田裕子), 研究分担者(2005年度~).

科学研究費補助金事業基盤研究(C)「珪藻同定支援システムの開発」(研究代表者:大塚泰介), 研究代表者(2006年度~).

財団法人発酵研究所特定研究助成「琵琶湖のヨシ帯が水質および環境浄化に果たす役割の解明-有用微生物の探索と応用-」(研究代表者:今井一郎), サブリーダー(2007年度~).

#### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本珪藻学会, Diatom, 編集委員, 2003年4月~.

日本珪藻学会, Diatom, 査読, 2件.

日本陸水学会, Limnology, 査読, 1件.

#### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2007年11月26日・12月3日, 滋賀県立大学大学院, 「生物多様性論」(分担).

2007年4月~2008年3月, 中井大介(京都大学農学研究科博士課程), 研究指導・助言.

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 11件.

はしかけ運営, たんさいぼうの会, 琵琶湖博物館, 随時.

2007年5月5日, 珪藻入門講座「はじめてのたんさいぼう」, たんさいぼうの会, 琵琶湖博物館, 講師(中井大介氏共同).

2007年5月26日, プランクトンの観察と模型作り, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講師, (中村公一, 中野正俊と共同).

2007年8月6日, 琵琶湖博物館の資料整備事業等, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

##### 他の博物館・機関等主催行事

2007年7月11日, プランクトンの採集と観察, 滋賀県立彦根東高校, 校外実習, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

2007年7月24日, プランクトンの採集と観察, 滋賀県立石部高等学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年8月5日、プランクトンと珪藻の観察、ホテルの学校、体験学習、琵琶湖博物館、講師、(荒井紀子氏共同)。  
2007年8月22日、プランクトンおよび付着微小生物の採集と観察、環境教育担当者連絡会議、琵琶湖博物館、講師。  
2007年10月27日、プランクトンに関する講義、立命館守山中学校、校外学習、琵琶湖博物館、講師。  
2007年10月31日、プランクトンの採集と観察、東京都立白鷗高等学校、校外実習、琵琶湖博物館、講師。  
2007年11月13日、プランクトンの採集と観察、滋賀県立米原高等学校、校外実習、琵琶湖博物館、講師、2件。  
2007年11月17日、シニア自然大学、特定非営利活動法人自然と緑、琵琶湖博物館、講師。(山川千代美と共同)  
2007年12月15日・2008年1月12日、プランクトンの採集と観察、立命館守山高等学校、校外実習、琵琶湖博物館、講師、2件。  
2008年2月16日、学習のまとめに対する助言指導、立命館守山中学校、校外学習、琵琶湖博物館、講師。

#### 【情報整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

電子図鑑の公開、担当者、2件。  
電子図鑑の増補更新、担当者。  
データベースの公開、担当者、2件。

#### 【資料整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

動画資料の収集・整理、監督・指示。  
微小生物試料の収集・整理、監督・指示。  
映像資料の貸出、貸出責任者、1点。  
図書資料整備、副担当。

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講義、3回。  
ミクロの世界、展示更新作業(芳賀裕樹、楠岡 泰、Robin・J. Smithと共同)。

#### 【企画調整活動】

学校への説明訪問、京都府内小中学校、4件。

#### 【研究部関連事業】

琵琶湖博物館研究セミナー、担当、12件、2007年度。  
特別研究員、受入担当。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館内の人事】

2007年度、うみんど、編集委員。

#### 【館外の活動】

2001年4月ー、島根大学汽水域研究センター、協力研究員。

研究は以下の4つのプロジェクトに焦点をあわせている。

1. Darwinulidカイミジンコの個体発生

これはDarwinulid科では初めての個体発生についての詳しい記述であり、ほかの科のカイミジンコとの関係についての重要な情報である。この論文は現在査読されている。

2. 琵琶湖のカイミジンコの動物相プロジェクト

収集は終了し、このプロジェクトの最初の論文が学術誌に投稿された。

3. 白亜紀と現在のカイミジンコの放射光による分析

これはドイツ、フランス、イギリスの研究者と行った大きなプロジェクトである。2008年2月2-6日にフランス・グルノーブルのヨーロッパ放射光施設を利用し、1億年前の化石の内部構造を見るためにスキャンした。

4. 日本の地下水に生息するカイミジンコ

これは塚越 明教授 (静岡大学) によって主導されているプロジェクトである。滋賀県でのサンプルの収集を開始し、まだ記述されていない種を既にいくつか発見している。これらの種の分類作業が現在進行中である。静岡でサンプル収集のためフィールドワークを行った。

## 印刷物

### 【学術論文】

Smith, R. J. and Kamiya, T. (2007) Copulatory behaviour and sexual morphology of three *Fabaeformiscandona* Krstic, 1972 (Candoninae, Ostracoda, Crustacea) species from Japan, including descriptions of two new species. *Hydrobiologia*, 585 : 225-248.

### 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

Boomer, I., Horne, D. J. and Smith, R. J. (2006) Freshwater Ostracoda (Crustacea) from the Assynt region, N. W. Scotland: new Scottish records and a checklist of Scottish freshwater species. Bulletin de l'Institut Royal des Sciences Naturelles de Belgique, *Biologie*, 76 : 111-123.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

Smith, R. J. (2007年8月29-30日) JASSO (日本カイミジンコ学会), 琵琶湖博物館, [運営・議長・タイムキーパー].

Smith, R. J. and Matzke-Karasz R. (2007年9月5日) The 'new' organ of the cypridoidean (Ostracoda, Crustacea) antennule; morphology and phylogenetic significance. 国際カイミジンコシンポジウム, ゼンケンベルグ博物館 (ドイツ、フランクフルト), [口頭発表].

Kamiya, T., Fujinami, Y., Smith, R. J. and Todoroki, Y. (2007年9月5日-7日), Carapace morphology and population ecology of the sexual darwinuloidean ostracode *Vestalenula cornelia* Smith, Kamiya & Horne, 2006. 国際カイミジンコシンポジウム, ゼンケンベルグ博物館 (ドイツ・フランクフルト), [ポスター発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

「ヨーロッパ放射光施設（フランス・グルノーブル）での化石と最近のカイミジンコの放射光による分析」（研究代表者：Renate Matzke-Karasz博士），データ収集と分析（2008年1月31日～2月7日）。

「日本の淡水カイミジンコ」（研究代表者：塚越 明），研究とサンプルの収集，2007年4月1日～2008年3月31日。

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

JASSO（日本カイミジンコ学会），主催・運営・議長，2007年8月29～30日。

Species Diversity, 査読, 1件.

Hydrobiologia, 査読, 1件,

Zoological Journal of the Linnean Society, 査読, 1件.

Zootaxa, 査読, 1件.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

2007年10月13日，第7回いのちの科学フォーラム市民公開講座「山・川・海をつなぐ水といのちの物語」，タイムキーパー。

#### 他の博物館・機関等主催行事

2007年11月13日，滋賀県人会，琵琶湖博物館のブースに代表者として出席。

#### 視察対応

2007年6月9日，環境学，ミシガン州立大学連合日本センターの学生，琵琶湖博物館。

2007年6月29日，ミシガン州高校生，琵琶湖博物館。

2007年7月25日，ミシガン州友好親善使節団，琵琶湖博物館。

2007年7月27日，第9回JICA国別特設フィリピン環境管理コースの研修，琵琶湖博物館。

2007年10月25日，2007年度JICA「生活排水対策コース」研修，琵琶湖博物館。

2007年11月9日，2007年度JICA草の根「スリランカ国河川モニタリング研修」，琵琶湖博物館。

2007年11月14日，2007年度JICA「産業廃水処理技術（II）」コース，琵琶湖博物館。

2007年11月18日，カリフォルニア州滋賀県大会，琵琶湖博物館。

2007年12月8日，タイのキング モンクット工科大学の先生，琵琶湖博物館。

#### メディアへの協力

2008年3月，科学ジャーナル「Nature」，古代無性種について，（2008年1月22日取材）。

### 【情報整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

英語版ウェブページの更新（新しい展示の情報，バスの時刻表等）。

**【展示活動】****琵琶湖博物館の活動**

2007年7月14日，魚の展示のオープニングセレモニー，写真撮影.

2007年12月～3月，プランクトン展示，デザインと写真，美術.

**【企画調整活動】**

JICA博物館学集中コース，国別報告会参加，2007年4月17日，琵琶湖博物館.

JICA博物館学集中コース，対応と研修員の世話，2007年5月8～13日，琵琶湖博物館.

学校への訪問説明，京都府内小中学校，6件.

行幸啓，2007年11月11日.

**【研究部関連事業】**

企画展示関連シンポジウム「東アジアにおける-生き物と人のこれからの関係を探る-」，会場内でのマイクの手配，

2007年7月28日，琵琶湖博物館.

琵琶湖博物館での研究は、一昨年から引き続き、近江の前方後円墳を中心とする古墳時代首長墓と中世山岳寺院研究を主なテーマとして行ってきた。

前年度末に、滋賀県立大学より学位を授与された論文「琵琶湖をめぐる古墳と古墳群の考古学的研究」をもとにして、本文の加筆・修正および図版整備を行って、2007年7月に『琵琶湖をめぐる古墳と古墳群』を単著として刊行した。また、その中心的な部分についてさらに手直しを行い、滋賀県立大学菅谷文則先生の編になる『王権と武器と信仰』に、「琵琶湖をめぐる在地首長の動向と畿内中枢」と題した論文を寄稿した。

山岳寺院の研究は、昨年度の「山の考古学研究会」によるフィールド調査の報告を兼ねて、伊吹山の弥高寺にみる城郭要素と上平寺城にみる寺院要素についてまとめた論文を『山の考古学通信』に掲載した。

一方、琵琶湖博物館での民具資料の整備活動は、博物館開設準備室以来16年間にわたって嘱託・日々雇用職員らと共にやってきたが、その資料目録の3冊目の「衣食住」および4冊目の「生産生業」をとりまとめて、『琵琶湖博物館資料目録』第17号・第18号として刊行した。

また、昨年度から継続して行ってきた河川環境管理財団の助成事業である弥生時代環濠集落研究は、その成果の一部を琵琶湖博物館新空間および東近江市埋蔵文化財センターで展示し、報告書をまとめたところである。

滋賀県立大学大学院での「日本考古学」の講義は5年目に入り、考古学の方法論や学史を後回しにして、実践的な考古学的话题を中心に上げながら、近江や日本列島の考古学の諸問題を取り上げていき、専攻生以外へ興味を持たせるよう工夫しているところである。

その他、インドネシアや中国・北京周辺での博物館や考古・民俗調査を実施し、その成果の一部は、これまでの古墳研究以外の考古学的成果および民俗学の成果とあわせて、現在とりまとめ中の刊行本に反映させる予定である。

## 印刷物

### 【学術論文】

用田政晴（2007）琵琶湖をめぐる古墳と古墳群．用田政晴 編，サンライズ出版，滋賀：358p.

用田政晴（2007）中世山城にみる山岳寺院要素-伊吹山・弥高寺と上平寺城-．山の考古学通信，19，山の考古学研究会：6-10.

用田政晴（2008）琵琶湖をめぐる在地首長の動向と畿内中枢．王権と武器と信仰同成社，東京：150-157.

### 【専門分野の著作】

用田政晴 編（2008）琵琶湖博物館資料目録「民俗資料3 衣食住」，17，琵琶湖博物館：297p.

用田政晴 編（2008）琵琶湖博物館資料目録「民俗資料4 生産生業」，18，琵琶湖博物館：226p.

### 【一般向けの著作】

用田政晴（2007）古代における中国との交流-滋賀県と湖南省-．うみんど，44，琵琶湖博物館：7.

用田政晴（2007）湖上交通．琵琶湖ハンドブック編集委員会，琵琶湖ハンドブック，滋賀県：140・141，240.

用田政晴（2007）湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「これまでの活動と未来像」．2，毎日新聞：2007年4月10日.

用田政晴（2007）湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「湖上交通史を背景に周辺の古墳を分析」．26，毎日新聞：2007年10月30日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

用田政晴(2007年11月16日)琵琶湖をめぐる古墳時代首長墓の地域性と歴史的展開. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖水系における古墳と古墳群の地域性の歴史的特質に関する研究」, (2007年度).

アジア考古学研究機構「アジアの考古と民俗」(研究代表者:用田政晴), 代表 (2007年度).

河川環境管理財団研究助成「琵琶湖水系野洲川・愛知川流域における弥生時代環濠集落の水環境論研究と成果展示への試み」(研究代表者:用田政晴), 研究代表者 (2007年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構, 代表.

### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2007年度前期, 滋賀県立大学大学院人間文化研究科, 日本考古学.

2007年5月20日, 京都造形芸術大学, 博物館学.

2007年6月28日, 富山大学考古学研究室, 琵琶湖博物館と近江の考古学.

2007年7月21・22日, 滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科, 吉備の遺跡.

2007年11月28日, 京都造形芸術大学, 博物館学.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 12件.

#### 視察対応

2007年7月7日, 展示案内, 経済同友会, 琵琶湖博物館.

2007年8月11日, 展示案内, 徳島文理大学, 琵琶湖博物館.

2007年10月3日, 展示案内, 船の科学館, 琵琶湖博物館.

### 【情報整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館学芸員個人ページ(用田政晴), 更新多数.

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

民具資料目録作成, 写真撮影, 目録編集.

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回.

2007年5月15日～6月3日，新空間展示「弥生時代の村と水環境」，研究代表者・展示責任者.

2007年度，B展示室「湖と川の支配と領域」展示更新，担当.

2007年度，B展示室「琵琶湖歴史図鑑」展示新設，担当.

2007年度，B展示室「琴湖の漁」展示更新，担当.

#### 他博物館・機関の活動

安土城考古博物館，2007年度，展示企画検討会，委員.

東近江市埋蔵文化財センター，2007年6月4日～22日，弥生時代の村と水環境，主担当.

### 【企画調整活動】

滋賀県博物館協議会事務局次長，総会議長，2007年6月27日，東近江市観峰館.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館内の人事】

2007年度，滋賀県博物館協議会，事務局次長.

### 【海外渡航】

2007年7月23～27日，インドネシア，博物館資料調査、山岳寺院遺跡調査.

2007年12月2～5日，中国，都城・城郭資料調査、胡同調査.

### 【館外の活動】

2007年度，金山城跡調査指導委員会，委員長.

2007年度，東近江市史「能登川の歴史」編纂委員会，委員.

2007年度，安土城考古博物館，展示企画検討会，委員.

事情により原稿作成が困難なため、本年度の業績等については、来年度に掲載する。

2007年度は、次の3つの調査・研究を実施した。

1. 希少淡水魚の卵（胚）および精子の凍結保存技術の開発

希少淡水魚の飼育下保存に関する研究の一環として、近畿大学の小林 徹准教授と、魚の卵（胚）および精子を液体窒素中で凍結保存を行うための実験を行った。結果的には、胚および精子を保存するまでには至らなかったが、保存に向けた基礎的なデータを得ることはできた。なお、この研究は笹川科学研究助成を受けて実施したものである。

2. ISSR 分析によるハリヨ天然繁殖群および水族館飼育継代群の遺伝的多様性

（社）日本動物園水族館協会に加盟する水族館・動物園のうち、同協会の下部組織である種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会に参加する動物園・水族館では、希少淡水魚の域外保存に取り組んでいる。そのうちの一種であるハリヨについても、複数の館で飼育保存しているが、飼育下での継代繁殖をおこなっているため、遺伝的多様性の低下が問題となっている。研究では、野生個体と飼育下個体との遺伝子を ISSR 分析することにより、遺伝的多様性を調べるための一手法を確立し、今後の域外保存の参考とするための材料を蓄積した。なお、この研究は（社）日本動物園水族館協会の野生動物保護基金より助成を受けて実施した。

3. 滋賀県下における外来貝類の分布状況の把握について

2007年度は野外調査を実施することができず、データはごく限られたものになったが、11月に高島市内に生息するコモチカワツボの分布状況を実施した。本調査は2004年に実施したコモチカワツボの分布の状況変化を確認するためのものである。調査の結果、高島市内のコモチカワツボは石田川より南側のごく限られた地域に現在も生息していることが明らかになった。今後も、分布情報を集めるとともに、なぜこの限られた地域に侵入、定着したかについて調査できればと考えている。

## 印刷物

### 【学術論文】

米山和良・山根 猛・光永 靖・松田征也（2007）琵琶湖南湖エリ周辺における漁場水温の変化がコイの行動に与える影響。水産工学, 2 (44), 水産工学会: 113-118.

Haga, H., Ohtsuka, T. and Matsuda, M. (2007) Echosounding observations of coverage, height, PVI, and biomass of submerged macrophytes in the southern basin of Lake Biwa, Japan. 陸水学雑誌, 8, 陸水学会: 95-102.

### 【一般向けの著作】

松田征也（2007）朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚「イタセンパラ」。朝日小学生新聞: 2007年8月24日。

松田征也（2007）朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚「ハリヨ」。朝日小学生新聞: 2007年8月25日。

松田征也（2007）朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚「アユモドキ」。朝日小学生新聞: 2007年8月29日。

松田征也（2007）朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚「カワバタモロコ」。朝日小学生新聞: 2007年8月31日。

松田征也（2007）朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚「オヤニラミ」。朝日小学生新聞: 2007年9月4日。

松田征也（2007）朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚「ホトケドジョウ」。朝日小学生新聞: 2007年9月7日。

松田征也（2007）朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚「ニッポンバラタナゴ」。朝日小学生新聞: 2007年9月8日。

松田征也（2007）朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚「ウシモツゴ」。朝日小学生新聞: 2007年9月15日。

松田征也（2007）朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚「ネコギギ」。朝日小学生新聞: 2007年9月22日。

松田征也 (2007) 朝小ミニ図鑑 減っている淡水魚「ニゴロブナ」. 朝日小学生新聞: 2007年9月29日.  
松田征也 (2007) 東アジアのタナゴたち, 松田征也 編, 水族企画展示リーフレット, 琵琶湖博物館: 4p.  
前畑政善・松田征也 (2007) 湖と人と琵琶湖博物館からの発信-「希少淡水魚の保護増殖センター」, 31, 毎日新聞:  
2007年12月4日.  
松田征也 (2008) 魚と水生動物たち「イシガメ・クサガメ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞: 2008年1月16日.  
松田征也 (2008) 魚と水生動物たち「イケチョウガイ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞: 2008年3月12日.  
松田征也 (2008) 魚と水生動物たち「セタシジミ」. あいあいAI 滋賀, 朝日新聞: 2008年3月19日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

松田征也・御薬袋 聡・布施幸江・小林 徹 (2007年10月6・6日) 希少淡水魚の飼育下保存の課題と展示. 平成19年度日本動物園水族館協会近畿ブロック水族館飼育係研修会, (社) 日本動物園水族館協会, 宮津エネルギー研究所水族館 (京都府宮津市), [口頭発表].  
松田征也・岡田 隆・御薬袋 聡・岡田勇馬・西村博之 (2007年10月6・6日) 日本、中国、韓国のタナゴ事情. 平成19年度日本動物園水族館協会近畿ブロック水族館飼育係研修会, (社) 日本動物園水族館協会, 宮津エネルギー研究所水族館 (京都府宮津市), [口頭発表].  
小林 徹・阿部 洋・柳下直己・松田征也 (2007年10月6・7日) ISSR分析によるハリヨ天然繁殖群および水族館飼育継代群の遺伝的多様性. 日本魚類学会年会, 日本魚類学会, 北海道大学学術交流会館 (札幌市), [ポスター発表].  
長井健生・安井幸男・松田征也・青山 茂・御薬袋 聡・磯貝 徹・佐藤智之・布施幸江 (2007年9月20日) 種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会 15周年記念企画展示「いま、日本の淡水魚があぶない！」の開催について. 第52回水族館技術者研究会, (社) 日本動物園水族館協会, 小樽水族館 (北海道小樽市), [口頭発表].  
松田征也 (2007年11月18日) 日本産希少淡水魚繁殖検討委員会 15周年記念企画展示「いま、日本の淡水魚があぶない！」の開催について. 第15回種保存会議, (社) 日本動物園水族館協会, 日本平動物園 (静岡県静岡市), [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

(社) 日本動物園水族館協会野生動物保護基金「希少淡水魚の飼育下保存に関する研究『ISSR分析によるハリヨ天然繁殖群および水族館飼育継代群の遺伝的多様性』」(研究代表者: 松田征也), 研究代表者 (2007年度).  
笹川科学研究助成「希少淡水魚の飼育下保存に関する研究『精子および胚細胞の凍結保存技術確立によるアユモドキの繁殖助長、ならびに種・系統保存に関する研究』」(研究代表者: 松田征也), 研究代表者 (2007年度).  
琵琶湖博物館専門研究「博物館収蔵資料のDNA解析による外国産シジミ進入時期の推定」, (2007年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本ベントス学会, 日本ベントス学会誌, 査読, 1件.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10 件。

2007 年 7 月 7 日，企画展関連行事，魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう，守山市ホテルの森資料館，説明。

2007 年 8 月 1 日，自然調査ゼミナール，打ち合わせ，琵琶湖博物館，貝類班担当。

2007 年 8 月 7 日，自然調査ゼミナール，観察会，琵琶湖博物館，貝類班担当。

2007 年 8 月 27 日，水族展示ガイドツアー，観察会，琵琶湖博物館，担当。

2007 年 9 月 29 日，企画展示関連シンポジウム，第 2 部「生き物とかかわるおもしろさ」，琵琶湖博物館，司会進行。

2007 年 10 月 13 日，シンポジウム，第 7 回いのちの科学フォーラム市民公開講座，琵琶湖博物館，機械調整。

2007 年 10 月 22 日，サテライト博物館，オープニング式典，朝日小学校，記録。

### 他の博物館・機関等主催行事

2007 年 4 月 23 日，琵琶湖の生き物，第 22 回セタシジミ祭実行委員会，セタシジミ祭，インターラーケン船内（滋賀県大津市），講師。

2007 年 5 月 31 日，琵琶湖の水生生物，大津市立平野小学校，総合学習，平野小学校（滋賀県大津市），講師。

2007 年 11 月 27 日，琵琶湖の水生生物，大津市立中央小学校，環境学習，中央小学校（滋賀県大津市），講師。

2007 年 12 月 8 日～12 月 9 日，日本動物園水族館教育研究会研究発表会，日本動物園水族館教育研究会，研究発表会，琵琶湖博物館，開催運営責任者。

2008 年 3 月 15 日，立命館守山中学校学習発表会，発表会，琵琶湖博物館，審査員。

### メディアへの協力

2007 年 4 月 23 日，BBC びわ湖放送，びびっとビーム，シジミの写真提供，（2007 年 4 月 23 日取材）。

2007 年 5 月 8 日，BBC びわ湖放送，ニュース，来館者 600 万人達成，（2007 年 5 月 8 日取材）。

2007 年 5 月 9 日，読売新聞，来館者 600 万人達成，（2007 年 5 月 8 日取材）。

2007 年 5 月 9 日，朝日新聞，来館者 600 万人達成，（2007 年 5 月 8 日取材）。

2007 年 5 月 9 日，中日新聞，来館者 600 万人達成，（2007 年 5 月 8 日取材）。

2007 年 5 月 9 日，京都新聞，来館者 600 万人達成，（2007 年 5 月 8 日取材）。

2007 年 5 月 10 日，毎日新聞，来館者 600 万人達成，（2007 年 5 月 8 日取材）。

2007 年 5 月 11 日，産経新聞，来館者 600 万人達成，（2007 年 5 月 8 日取材）。

2007 年 5 月 19 日，中日新聞，スイゲンゼニタナゴ，（2007 年 5 月 15 日取材）。

2007 年 5 月 24 日，読売新聞，スイゲンゼニタナゴ，（2007 年 5 月 15 日取材）。

2007 年 5 月 21 日，産経新聞，スイゲンゼニタナゴ，（2007 年 5 月 18 日取材）。

2007 年 5 月 24 日，NHK，おうみ発 610，スイゲンゼニタナゴ，（2007 年 5 月 24 日取材）。

2007 年 5 月 29 日，BBC びわ湖放送，ニュース，琵琶湖でチャンネルキャットフィッシュを漁獲，（2007 年 5 月 28 日取材）。

2007 年 5 月 29 日，NHK，ニュース，琵琶湖でチャンネルキャットフィッシュを漁獲，（2007 年 5 月 28 日取材）。

2007 年 5 月 29 日，KBS 京都放送，ニュース，琵琶湖でチャンネルキャットフィッシュを漁獲，（2007 年 5 月 28 日取材）。

共同通信社，琵琶湖でチャンネルキャットフィッシュを漁獲，（2007 年 5 月 28 日取材）。

2007 年 5 月 29 日，京都新聞，琵琶湖でチャンネルキャットフィッシュを漁獲，（2007 年 5 月 28 日取材）。

2007 年 5 月 29 日，産経新聞，琵琶湖でチャンネルキャットフィッシュを漁獲，（2007 年 5 月 28 日取材）。

2007 年 5 月 29 日，毎日新聞，琵琶湖でチャンネルキャットフィッシュを漁獲，（2007 年 5 月 28 日取材）。

2007 年 5 月 29 日，日本経済新聞，琵琶湖でチャンネルキャットフィッシュを漁獲，（2007 年 5 月 28 日取材）。

2007 年 5 月 29 日，京都新聞，琵琶湖でチャンネルキャットフィッシュを漁獲，（2007 年 5 月 28 日取材）。

2007 年 5 月 30 日，読売新聞，琵琶湖でチャンネルキャットフィッシュを漁獲，（2007 年 5 月 28 日取材）。

2007 年 6 月 1 日，寿ファミリーハウス，THE 水族館，水族展示紹介，（2007 年 5 月 28 日取材）。

2007年6月6日, 朝日新聞, 琵琶湖でチャンネルキャットフィッシュを漁獲, (2007年5月28日取材).

2007年6月20日, 中日新聞, 水族トピック展示ムサシトミヨ, (2007年6月19日取材).

2007年6月24日, 中日新聞, 水族トピック展示ムサシトミヨ, (2007年6月23日取材).

2007年6月25日, 京都新聞, 水族トピック展示ムサシトミヨ, (2007年6月24日取材).

2007年6月27日, 朝日新聞, 水族トピック展示ムサシトミヨ, (2007年6月26日取材).

2007年8月17日, 中日新聞, 水族トピック展示イタセンパラ, (2007年8月16日取材).

2007年9月5日, あいあいAI 滋賀, 魚と水生動物たち, ビワコオオナマズ写真提供, (2007年9月4日取材).

2007年10月18日, 読売新聞, 学校に博物館が来た, (2007年10月17日取材).

2007年11月6日, 毎日放送, ニュース, 琵琶湖で捕獲エンツイユイ, (2007年11月6日取材).

2007年12月20日, 京都新聞, トピック展示ねずみ, (2007年12月19日取材).

2007年12月20日, 京都新聞, 増殖外来種, (2007年12月13日取材).

2007年12月21日, 中日新聞, トピック展示ねずみ, (2007年12月20日取材).

2008年1月7日, KBS 京都ラジオ, 笑福亭晃平のほっかほかラジオ, トピック展示ねずみ, (2007年1月7日取材).

2008年1月24日, 滋賀報知新聞, トピック展示ねずみ, (2007年12月18日取材).

2008年1月25日, 毎日新聞, アートの窓, トピック展示ねずみ, (2007年12月18日取材).

2008年1月30日, NHK, おうみ発610, トピック展示ねずみ, (2008年1月30日取材).

2008年1月31日, NHK, 関西発, トピック展示ねずみ, (2008年1月30日取材).

2008年1月31日, NHK ラジオ, ニュース, トピック展示ねずみ, (2008年1月30日取材).

2008年3月2日, フジテレビ, あっぱれ!!さんま新教授, ペタキンについて, (2008年2月2日取材).

#### 【情報整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館インターネットページ, 博物館ニュース, 企画, 5件.

#### 【資料整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

貝類資料, 受け入れ, 5件.

映像資料, 提供, 1件.

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

2006年11月18日~2007年4月8日, 日本産希少淡水魚繁殖検討委員会15周年記念事業, 主担当.

2007年4月24日~5月13日, 水族トピック展示ハリヨ, 担当.

2007年5月15日~5月27日, 水族トピック展示スイゲンゼニタナゴの稚魚, 担当.

2007年5月29日~6月17日, 水族トピック展示ホンモロコの稚魚, 担当.

2007年6月19日~7月8日, 水族トピック展示ムサシトミヨの稚魚, 担当.

2007年7月10日~29日, 水族トピック展示イチモンジタナゴの稚魚, 担当.

2007年7月14日~11月25日, 水族企画展示「東アジアのタナゴたち」, 主担当.

2007年7月14日~11月25日, 第15回企画展示「琵琶湖のコイ・フナの物語—東アジアの中の湖と人—」, 広報担当.

2007年7月30日~9月2日, 水族トピック展示イタセンパラの未成魚, 担当.

2007年9月11日~30日, 水族トピック展示ニゴロブナの未成魚, 担当.

2007年10月2日~21日, 産卵期を迎えたカネヒラ, 担当.

2007年10月23日~11月11日, 産卵期を迎えたイタセンパラ, 担当.

2007年12月18日~2008年2月3日, 水族トピック展示ネコギギ, 担当.

2007年12月18日～2008年2月3日，お正月開館トピック展示「ネズミ」，主担当。  
2008年2月26日～3月23日，水族トピック展示ヒナモロコ，担当。  
2008年3月25日～4月13日，水族トピック展示ハリヨの稚魚，担当。  
2008年3月1日～4月13日，ギャラリー展「淡海の博物館・美術館」，副担当。  
モーニングレクチャー，講義，3回。

#### **他博物館・機関の活動**

滋賀県生きもの総合調査委員会，2007年4月27日～5月6日，新空間での展示「動植物とのつきあい方の新しいルール」，展示担当。  
神戸市立須磨海浜水族園，2008年2月20日，ニゴロブナの企画展示への展示，資料提供。

#### **【企画調整活動】**

滋賀県観光PRへの参加，PR活動，2007年4月7日，JR京都駅。  
滋賀県博物館協議会総会，開催準備，2007年6月27日，観峰館。  
企画展示オープニングセレモニー，司会進行，2007年7月14日，琵琶湖博物館。  
秋篠宮殿下ご来館，広報対応，2007年7月28日，琵琶湖博物館。  
日本動物園水族館協会・近畿ブロック園館長会議，運営・総括，2007年9月13日～14日，琵琶湖博物館。  
滋賀県観光PRへの参加，PR活動，2007年10月16日，JR京都駅。  
行幸啓，2007年11月11日。

#### **【研究部関連事業】**

調査船「うみんど」管理，副担当，2007年度。  
研究用アルコール管理，主担当，2007年度。

## **館内の人事・館外活動等に関すること**

#### **【館内の人事】**

2007年度，広報・経営戦略行動計画の作成と進行管理，運営，広報・経営戦略会議。  
2005年～，滋賀県博物館協議会，企画委員，委員。

#### **【海外渡航】**

4月10日～4月18日，中国湖南省，水族企画展示準備。

#### **【館外の活動】**

1999年～，守山湖岸再生部会，南部振興局，委員。  
2000年～，木浜内湖再生部会，南部振興局，委員。  
2004年～，環境省，淀川水系アユモドキ連絡協議会。  
2005年～，(社)日本動物園水族館協会，種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，検討委員。  
2005年～，(社)日本動物園水族館協会，種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，アユモドキ・イタセンバラ・ニッポンバラタナゴ種別調整者。  
2005年～，国土交通省，瀬田川及び天ヶ瀬ダム再開発ワーキンググループ，委員。

オサムシ科を中心に昆虫の系統進化、生物地理を明らかにすることを研究目標としている。

琵琶湖博物館の共同研究「近畿地方におけるオオオサムシ亜属の歴史生物地理」が今年度から始まった。その研究成果の一部が論文として公表された。内容はミトコンドリアDNAを用いて、近畿・中部日本に同所的に分布するオオオサムシ亜属の種間の浸透性交雑のパターンとその制限要因を調べたところ、7種のうち6種の間にはハプロタイプあるいはハプロタイプの系統の共有が見られ、ミトコンドリアの浸透を示した。また、体長差と交尾器の交尾片の長さによって遺伝子の浸透が制限されているというものである。本研究は、種分化における形態の分化の役割や機械的隔離を通じた集団の形成プロセスを解明する上で重要な知見となった (Nagata, Kubota, Yahiro and Sota 2007, Mol. Ecol.)。

昆虫化石に関する研究も進めており、広島県東広島市の西条層から産出した中期更新世の昆虫化石 (林・八尋・北林, 2008)、熊本市河内町の芳野層から産出した中期更新世の昆虫化石 (林・八尋・北林, 2008) の2本の論文が印刷された。ともにオサムシ科を担当した。

専門分野の著述としては、北隆館から刊行された「新訂 原色昆虫圖鑑第II巻 (甲虫篇)」のオサムシ科を担当した。また、滋賀県南東平野部水田のライトトラップで採集された昆虫類の種構成が資料として環境動物昆虫学会誌に掲載された。一般向けの著述として、あいあいAI滋賀で27編の滋賀県の昆虫の解説を行ったほか、「琵琶湖ハンドブック」で「昆虫で見る琵琶湖」というタイトルで解説を行った。

事業の主な活動は今年度の7月から北海道大学総合博物館で始まり、日本国内の5館を巡回する日仏共同企画「フアブルにまなぶ」展の準備である。この展示の実施設計の作成および展示に関連した図録と子ども向けプチガイドを編集した他、図録の原稿を執筆した。

また、交流担当のグループリーダーとして交流事業全体の総括を行った。その他の交流業務としては、通年でショップ会議の運営、「ホテルを観察しよう」「生き物飼い方講座」「夏休み自由研究講座」を担当した。また、資料整備活動の業務になるが電子図鑑「滋賀県&日本のオサムシ」を公開した。

## 印刷物

### 【学術論文】

Nagata, N., Kubota, K., Yahiro, K. and Sota, T. (2007) Mechanical barriers to introgressive hybridization revealed by mitochondrial introgression patterns in *Ohomopterus* ground beetle assemblages. *Molecular Ecology*, 16 : 4822-4836.

林 成多・八尋克郎・北林栄一 (2008) 広島県東広島市の西条層から産出した中期更新世の昆虫化石. *瑞浪市化石博物館研究報告*, 34 : 89-93.

林 成多・八尋克郎・北林栄一 (2008) 熊本市河内町の芳野層から産出した中期更新世の昆虫化石. *瑞浪市化石博物館研究報告*, 34 : 95-98.

### 【専門分野の著作】

八尋克郎 (2007) 滋賀県南東平野部水田のライトトラップで採集された昆虫類の種構成. 18 (1), *日本環境動物昆虫学会誌* : 43-47.

八尋克郎 (2007) オサムシ科. 森本 桂 監修, *新訂 原色昆虫圖鑑第II巻 (甲虫篇)*, 北隆館 : 1-61.

### 【一般向けの著作】

- 八尋克郎・榎永一宏 編 (2007) 『昆虫記』刊行100年記念日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展示解説書. 日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展実行委員会：152p.
- 八尋克郎 (2007) フェアブルが観察したオサムシの習性. 『昆虫記』刊行100年記念日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展示解説書, 日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展実行委員会：74-75.
- 堀田桃子・荒井文子・布谷知夫・八尋克郎 編 (2007) 『昆虫記』刊行100年記念日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」プチガイド. 日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展実行委員会：18p.
- 八尋克郎 (2007) 昆虫で見る琵琶湖. 琵琶湖ハンドブック, 琵琶湖ハンドブック編集委員会：78-79.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「トビロシワアリ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年4月4日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「コバネナガカメムシ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年4月11日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「クロシジミ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年4月18日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「ジンガサハムシ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年4月25日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「アサギマダラ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年5月2日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「マダラナニワトンボ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年5月16日.
- 八尋克郎 (2007) 湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「地域の人たちとの調査から企画展」. 7, 毎日新聞：2007年5月22日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「ヒメクロオトシブミ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年5月23日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「コオイムシ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年5月30日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「タケウチトゲアワフキ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年6月6日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「オオウラギンヒョウモン」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年6月13日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「ブタクサハムシ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年6月20日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「ムナグロチャイロテントウ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年6月27日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「プライアシリアゲ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年7月4日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「ダイミョウセセリ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年7月11日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「サメメクラチビゴミムシ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年7月18日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「ヘイケボタル」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年7月25日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「ニホンミツバチ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年8月1日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「ツノトンボ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年8月8日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫「ミヤマクワガタ」, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年8月22日.
- 八尋克郎 (2007) 湖国の昆虫 日仏共同企画「フェアブルにまなぶ」展, あいあいAI 滋賀, 朝日新聞：2007年8月29日.
- 八尋克郎 (2007) 『昆虫記』発刊100年を迎えて. 聖教新聞：2007年12月5日.
- 八尋克郎 (2007) オサムシの幼虫. 文部科学時報, 12月号, 文部科学省：15.
- 八尋克郎 (2007) 湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「急変する県内の昆虫相」. 32, 毎日新聞：2007年12月11日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 長太伸章・久保田耕平・八尋克郎・曾田貞滋 (2007年9月2日) オオオサムシ亜属のサイズ分化と機械的生殖隔離. 日本進化学会第9回京都大会, 日本進化学会、シンポジウム「適応的分化と生殖隔離」, 京都大学吉田キャンパス (京都府京都市), [口頭発表].
- 八尋克郎・曾田貞滋・長太伸章・久保田耕平 (2007年11月16日) 共同研究「オオオサムシ亜属の歴史生物地理」の経過. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「近畿地方におけるオオオサムシ亜属の歴史生物地理」（研究代表者：八尋克郎），研究代表者（2007～2009年度）。

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本昆虫学会近畿支部，自然保護委員，2003年度～。

滋賀オサムシ研究会，事務局，1997年度～。

地表性甲虫談話会会報，編集幹事，2004年度～。

第67回日本昆虫学会大会実行委員会，委員，2006年度～。

日本昆虫学会，昆蟲ニューシリーズ，論文査読，1件。

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，11件。

2007年6月10日，ホテルを観察しよう，フィールド観察会，大津市千丈川，講師，（荒井紀子氏共同）。

2007年7月22日，夏休み自由研究講座，講座，琵琶湖博物館，講師，（武田 滋・南 尊演・佐々木 剛氏共同）。

2007年8月2日，生き物飼いかた講座，講座，湖北町，講師。

2006年8月5日，琵琶湖博物館の交流事業の概要，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。

#### 他の博物館・機関等主催行事

2007年8月7・8日，博物館周辺で昆虫採集をしよう，滋賀県中学校教育研究会理科部会，第10回自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2007年6月9日，ホテルの観察会，真野北公民館，融神社付近（滋賀県大津市），講師。

2007年12月15日，滋賀の昆虫，立命館守山中学校，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2008年1月26日，博物館の裏側，真野北公民館，まのきたっこわくわく，琵琶湖博物館（滋賀県草津市），講師。

2008年3月23日，カブト、クワガタの観察と飼育方法，八日市市河辺生き物の森，八日市市河辺生き物の森（滋賀県八日市市），講師。

#### 視察対応

2007年8月9日，昆虫の飼いかた，奈良県田原町教員研修，琵琶湖博物館。

2007年8月22日，昆虫から見る琵琶湖，平成19年度環境教育研究協議会，琵琶湖博物館。

2007年10月24日，琵琶湖博物館の交流事業，鳥取市歴史博物館，琵琶湖博物館。

#### メディアへの協力

2007年6月9日，朝日新聞，学芸員の仕事って？，インタビュー，（2007年6月5日取材）。

2007年7月4日，NHK，おうみ発610-QP ハートプラザ，夏休み自由研究講座のイベント紹介，出演。

2007年8月7日，読売新聞しが県民情報，夏休み自由研究講座のイベント紹介，インタビュー，（2007年7月22日取材）。

2007年8月21日，FM滋賀，平和堂マイ・デイリー・ライフ，「人物ファイル～あの人に聞く」のコーナー，「まだ間に合う！夏休みの宿題」，出演。

#### 【情報整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

電子図鑑「日本&滋賀県のオサムシ」公開.

八尋克郎個人ホームページ, 更新.

クエリーの質問対応, 昆虫に関する質問への回答, 8 件.

#### 【資料整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

資料の寄贈受け入れ, 5 件.

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 3 回.

展示交流員と話そう, 内容指導.

2007 年 4 月 24 日～5 月 6 日, 新空間展示「動植物とのつきあいの新しいルールー指定希少野生動植物と指定外来種」,  
昆虫の担当.

#### 【企画調整活動】

新任職員研修, C 展示室生き物コレクション概要, 2007 年 4 月 17 日, 琵琶湖博物館.

JICA 博物館学集中コース, 琵琶湖博物館の交流活動とは, 2007 年 5 月 10 日, 琵琶湖博物館.

ショップ会議, レストラン・ショップとの連携, 12 件, 琵琶湖博物館.

学校への訪問説明, 京都府内小中学校, 6 件.

#### 【研究部関連事業】

研究紹介展示, 更新, 2007 年 5 月 4 日, 琵琶湖博物館.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館内の人事】

滋賀県博物館協議会, 研修委員.

#### 【館外の活動】

2003 年 7 月 1 日～, 滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会, 専門委員.

ここ数年、教育学会との関わりを契機として、自分自身の博物館学の研究にどのような方向性を定めていくかを模索しているところである。そして「機関連携」というキーワードを拠り所として設定できることが昨年度の間に見えてきた。6月の館内研究セミナーでは、これに基づく研究方針について論じることができた。

そして今年度を通して、研究成果として結実するにはワンクッションあるものの、今後の方向性を定めるに役立つ活動ができたと考えている。

その活動のひとつは、8月に指定討論の依頼を受けたものを含めて、教育系の学会において2件の発表の場が実現できたことがある。その中で学校や学校教育に関わる機関と博物館などの社会教育機関との関わりに注目した発表を行い、議論を深めることができた。

そして、もうひとつの活動として、滋賀県博物館協議会25周年記念事業を展開したことがある。この事業は博物館施設同志が連携する実践事例としても位置づけられるものであり、先行事例との比較などから見えてきた論点も多々ある。この実践に基づく方法論を研究成果としてまとめることを、来年度早々の目標として設定している。

## 印刷物

### 【一般向けの著作】

戸田 孝 (2008) 淡海の博物館・美術館. うみんど, 45, 琵琶湖博物館: 2-4.

戸田 孝 (2008) 「機関連携」に着目した博物館学への展望. うみんど, 45, 琵琶湖博物館: 5-6.

戸田 孝 (2008) 湖と人と-琵琶湖博物館の10年- 「各館の連携担う協議会」. 40, 毎日新聞: 2008年3月4日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

戸田 孝 (2007年6月15日) 教育学会との関わりから-博物館学の展開の可能性-. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

戸田 孝 (2007年8月5日) 対話型科学技術社会における教師教育プログラムの開発と評価-科学系博物館との連携を手がかりとして-. 日本理科教育学会第57回全国大会, 日本理科教育学会, 愛知教育大学 (愛知県刈谷市), [口頭発表セッションの指定討論者].

戸田 孝、中村公一 (2007年8月19日) 学博連携を博物館側の立場から探る. 日本科学教育学会第31回年会, 日本科学教育学会, 北海道大学 (札幌市), [口頭発表].

戸田 孝 (2008年2月12日) ミュージウム・ティーチャーワークショップ. 琵琶湖博物館, [総合討論進行].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「博物館事業における水理学分野の位置付けに関する研究」, (2007年度).

### 【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本科学教育学会, 科学教育研究, 査読, 6件.

陸水物理研究会, 運営委員, 2004年度〜.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，11 件.

2007 年 8 月 7 日，回転実験室で水槽実験を！，博物館講座，琵琶湖博物館，主担当.

#### 他の博物館・機関等主催行事

2008 年 2 月 2 日・16 日，「琵琶湖の水の流れ」に関する班活動の指導，ミュージアムスクール，立命館守山中学校，総合学習（琵琶湖学習），琵琶湖博物館，講義.

#### 視察対応

2008 年 2 月 27 日，びわこビジターズビューロー「韓国マスコミ取材団」への対応，琵琶湖博物館.

#### メディアへの協力

2007 年 6 月 20 日，西日本放送ラジオ，さわやかラジオ きょうはきし、快晴「日本の旅・全国いろいろミュージアム」，電話生出演，(2007 年 6 月 7 日取材).

2008 年 2 月 2 日，毎日新聞，比良おろしに防風柵，列車運行抑止の背景となる気象条件について解説，(2008 年 1 月 31 日取材).

2008 年 3 月 2 日，中日新聞，県内の博物館紹介-琵琶湖博物館でパネル展，取材対応，(2008 年 3 月 1 日取材).

2008 年 3 月 2 日，京都新聞，県内 87 館の「宝」一堂に，取材対応，(2008 年 3 月 1 日取材).

2008 年 3 月 19 日，朝日新聞あいあい AI 滋賀，記念展で全館紹介-琵琶湖博物館でパネルや収蔵品展示，取材対応，(2008 年 3 月 1 日取材).

2008 年 3 月 14 日，KBS ラジオ，知っとこ滋賀「琵琶湖博物館ギャラリー展示淡海の博物館・美術館について」，電話生出演，(2008 年 2 月 28 日取材).

### 【情報整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

情報システム整備および電子情報発信活動の総括，副担当.

情報システム中枢機器群の更新，副担当.

インターネットを介した情報発信，副担当.

質問メールの受付・振り分け・回答進捗状況管理，副担当.

全館員向けメールメッセージの館内公開.

個人管理ページの運営.

#### 他博物館・機関の活動

滋賀県博物館協議会，協議会ページの運営（各加盟館紹介ページの更新など）.

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3 回.

2008年3月1日～4月13日、ギャラリー展示「淡海の博物館・美術館」、主担当。

2007年度、気象に関する展示に関する更新直後の調整および維持管理、主担当。

2007年度、水理に関する展示の維持管理、主担当。

展示交流員と話そう、内容指導。

#### **他博物館・機関の活動**

滋賀県博物館協議会、2007年11月3日～2008年2月24日、巡回パネル展「淡海の博物館・美術館」、企画・調整・記録。

#### **【企画調整活動】**

JICA 博物館集中コース、Information Use and Equipment for Information Use -Learning from History-, 2007年5月13日、琵琶湖博物館。

ショップ会議、レストラン・ショップとの連携、7件、琵琶湖博物館。

学校への説明訪問、京都府内小中学校、6件。

#### **【研究部関連事業】**

研究調査報告書担当、号数管理・体裁統一のための連絡調整。

## **館内の人事・館外活動等に関すること**

#### **【館内の人事】**

2007年度、広報経営戦略会議、メンバー。

2007年度、滋賀県博物館協議会、広報委員会、広報委員。

2007年度、滋賀県博物館協議会、企画委員会、企画委員。

病気療養のため未提出であった2004年度以降2007年度までの業績を挙げる（2006年以前の印刷物以外の業績については、企画展を除いては、口頭発表も含め省略）。この中には病気が発覚する前まで取り組んでいた南湖での沈水植物調査の成果が含まれている。またこの業績目録で取り上げた期間、病気治療中であったが、2004年度には企画展「のびる・ひらく・ひろがる—植物が動くとき—」の主担当者として展示を作った。この会期中は、展示利用者の調査などを行いその成果を研究会で発表するなどしたが、それ以外は健康上の事情により新たな研究活動は行っていない。

## 印刷物

### 【学術論文】

Haga, H., Ohtsuka, T., Matsuda, M. and Ashiya, M. (2007) Echosounding observations of coverage, height, PVI, and biomass of submerged macrophytes in the southern basin of Lake Biwa, Japan, *Limnology*, 8: 95-102.

### 【一般向けの著作】

芦谷美奈子 (2008) ディスカバリー・ルームの10年 1. 月刊ミュゼ, アム・プロモーション, 83: 22-23.

### 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

芳賀裕樹・芦谷美奈子・大塚泰介・松田征也・辻 彰洋・馬場浩一・沼畑里美・山根 猛 (2006) 琵琶湖南湖における湖底直上の溶存酸素濃度と沈水植物群落現存量の関係について. *陸水学会誌*, 67 (1): 23-27.

芳賀裕樹・大塚泰介・松田征也・芦谷美奈子 (2006) 2002年夏の琵琶湖南湖における沈水植物の現存量と種組成の場所による違い. *陸水学会誌*, 67 (2): 69-79.

芦谷美奈子 (2006) 琵琶湖博物館企画展「のびる・ひらく・ひろがる—植物がうごくとき—」におけるハンズ・オン展示手法比較と展示評価の試み. 布谷知夫 編, *展示室におけるコミュニケーション 展示と人・人と人, 琵琶湖博物館研究調査報告書*, 琵琶湖博物館, 24: 38-57.

芦谷美奈子 (2006) 「浮草類」「呼吸根」「自殖」. 日本陸水学会 編, *陸水の事典*, 講談社: 22, 151, 194.

芦谷美奈子 (2005) 企画展「のびる・ひらく・ひろがる—植物がうごくとき—」の裏話, *うみんど*, 33, 琵琶湖博物館: 6.

## 研究活動に関する業績

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「イバラモの雌雄比および雌雄分布とシュート成長に関する研究」, (1996年度へ).

## 博物館事業に関する業績

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回。

ディスカバリー・ルーム，展示制作，主担当者。

2004年7月17日～11月23日，第12回琵琶湖博物館企画展示「のびる・ひらく・ひろがる-植物がうごくとき-」，  
主担当者。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館外の活動】

2000年4月～，木浜地区保全整備地域協議会，守山湖岸再生部会，委員。

2000年4月～，木浜地区保全整備地域協議会，木浜内湖再生部会，委員。

2002年8月～，守山なぎさ地区保全地域協議会，委員。

2003年1月～，滋賀県ヨシ群落保全審議会，委員。

民俗学部門担当の学芸職員として、開館以来、民俗資料の収集・整理・利用、民俗分野に関する交流・情報・展示の各事業を担当している。本年度は10月末まで育児休暇を取得した。休職中は、地域や学校の子育て関連の活動に積極的に参加し、現代日本の子育て・教育環境の実態を把握するとともに、関係者と交流し、復職後に活かせる幅広い人脈をつくることができた。復職後はそれらを活かし、はしかけ活動や生活実験工房での利用者との交流活動を発展させている。工房での田んぼの作業・行事のある参加者は、私の仕事に取り組む姿勢に興味をもってくださり、何度か取材して、自ら発行する子育て情報誌に私を紹介する記事を掲載してくださった。記事のタイトルに「昔の暮らしに意味を見出し、生きる力を見出す」とあったことに大いに励まされた。

博物館は、教育・生涯学習機関、研究機関としてだけでなく、もっと人々にとって存在意義のある場ではないか。ここ数年思い続けてきた。実際に展示空間にいる来館者の姿にふれ、来館者アンケート業務の中で直接来館者から聞き取りして肌身にしみたのは、来館する人々は研究成果・科学的知識を求めているというよりは、仲間と一緒に心地よい居場所を求めているということだった。家庭にも学校にも職場にも自分の心地よい居場所をもてない人々があまりに多いこの社会において、博物館という場がそういった方々の居場所となることができれば、社会的意義は大変に深い。

博物館の空間に身をおき、普段目にしないものを見、味わえない雰囲気を感じ、自分が生きてきた経験と照らし合わせる中で自分なりの発見をし、その発見を周りの人々と共有する。そんな体験によって自分の中にあつた生きる力に自ら気づき、それを引き出していく。博物館という場はこうしたセラピー的な機能をもつことができるのではないか。これこそ、現代社会においてあらゆる人々にとって切実に求められている博物館の新しい役割ではないか。私はそれに気づき2008年1月、「ミュージアムセラピー研究会」を発足した。展示室の最前線で日々、来館者と交流する中で、人々の生きる力を引き出す交流を重ねている展示交流員の方々をはじめ、博物館に関わるさまざまな方々と、今の琵琶湖博物館が実際に果たしているセラピーに光を当てるとともに、回想法や写真療法などの理論や手法も学び、志を同じくする人々とともに博物館の新しい役割について夢を描いていきたい。そして、博物館の生活実験工房、田畑・森という空間を使って、民具を使って人々の生きる力を引き出す実践をこつこつ行っていければと考えている。

## 印刷物

### 【一般向けの著作】

中藤容子（2008）昔の道具は、将来に役立つ財産です。うみんど、46、琵琶湖博物館：7.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

中藤容子（2008年1月30日）博物館療法＜ミュージアムセラピー＞に寄せる夢。第1回ミュージアムセラピー研究会，琵琶湖博物館，[口頭発表].

中藤容子（2008年3月19日）セラピーとは-昔の暮らし体験の可能性-。第2回ミュージアムセラピー研究会，琵琶湖博物館，[口頭発表].

中藤容子（2008年3月23日）琵琶湖の生活世界と水草利用。第1回研究集会「里海を考えるII」，愛知大学総合郷

土研究所三河湾共同研究会, 愛知大学研究館 (愛知県豊橋市), [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「博物館における民具資料の存在意義と利用価値の再発見」, (2004年度～).

### 【受賞など】

おおきに特別賞・地域の文化を掘り起こし、現代に合うように形を変えて後世に繋げてほしいで賞 (湖国まるごとエコ・ミュージアムづくり 第3回たたえあう交流会), 2008年1月27日, 「綿と機織りの会」の活動に対して.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク, 1件.

はしかけグループ「展示室を楽しくする会」, 担当.

はしかけグループ「近江はたおり探検隊」, 担当.

2007年4月21日～2008年3月30日, 織姫の会, 琵琶湖博物館, はしかけ「近江はたおり探検隊」活動, 24回.

2007年11月10日～2008年1月31日, はたおり探検, 八尾市立歴史民俗資料館、愛荘町立歴史文化博物館など, はしかけ「近江はたおり探検隊」活動, 3回.

2007年12月16日～2008年3月25日, 生活実験工房田んぼ作業, 琵琶湖博物館, 協力, 4回.

2007年11月17日, はしかけ登録講座・交流会, 琵琶湖博物館, 活動紹介・協力.

2008年2月9日, 昔のくらしを体験しよう, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 協力,

2008年2月26日・3月5日, 工房に集う会, 琵琶湖博物館, はしかけ「展示室を楽しくする会」活動, 2回.

2008年2月27日, 近江はたおり研究会 (第29回), 琵琶湖博物館, はしかけ「近江はたおり探検隊」活動.

2008年3月4・10日, おじいちゃんおばあちゃんが子どものころのくらし, サテライト博物館事業, 朝日小学校 (湖北町), 講義.

#### 他の博物館・機関等主催行事

2007年11月8・25日、2008年2月9・10日, 「おっきん椋川」機織り交流会, 今津町椋川 (高島市), はしかけ「近江はたおり探検隊」協力, 4件.

2008年2月2日, 綿って知ってる?・わんぱくプラザ笠縫, 笠縫公民館 (草津市), 協力.

2008年2月19日, 農家のくらし展示から学ぶ, 河西小学校3年生 (守山市), 琵琶湖博物館, 講義.

2008年2月28日, 農家のくらし展示から学ぶ, 西小学校3年生 (八日市市), 琵琶湖博物館, 講義.

2008年3月9日, 学習会「滋賀の寺院におけるお講とお齋」・企画会議, 滋賀の食事文化研究会, 琵琶湖博物館, 協力.

#### メディアへの協力

2008年3月5日, 中日新聞, 昔の暮らしに興味津々 朝日小 学芸員・中藤さん出前授業, (2008年3月4日取材)

2008年3月1日, パワーアップ・プランニング, 昔の暮らしに意味を見出し、生きる力を引き出す 琵琶湖博物館学芸員 中藤容子さんを訪ねて・・・(パワーアップニュース 56号).

#### 【情報整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

民俗資料データベース（Web 公開版）の整備，主担当。（琵琶湖水系漁撈習俗資料 2584 件公開）。

#### 【資料整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

民俗収蔵庫維持管理業務・民俗資料整備，主担当。

環境収蔵庫維持管理業務，環境資料整備，副担当。

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，6 回。

2007 年度，常設展示 B 展示室「湖に生きる人々」コーナー管理，主担当。

屋外展示生活実験工房の畑に綿・苧麻・藍・青花を栽培，はしかけ「近江はたおり探検隊」活動。

2007 年 3 月 25 日～4 月 8 日，はしかけ・フィールドレポーター活動紹介，近江はたおり探検隊・展示室を楽しくする会担当。

2008 年 3 月 8 日～16 日，はしかけ・フィールドレポーター活動紹介，近江はたおり探検隊・展示室を楽しくする会担当。

#### 【企画調整活動】

電子メールによる質問対応，主担当，2007 年度（11 月～）。

来館者アンケート，主担当，2007 年度（11 月～）。

ショップ会議，ショップ・レストランとの連携，2007 年度（11 月～），5 件。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館内の人事】

2007 年 1 月 31 日～5 月 5 日，出産前・後休暇。

2007 年 5 月 6 日～10 月 30 日，育児休暇。

学芸員として採用された2007年9月以降の活動について報告する。今年度は、「桶風呂文化の保存と活用」についての取り組みを、滋賀県立大学大学院人間文学研究科に在籍時から引き続いて行った。主な活動内容は、東近江市在住の桶職人お二人と竹細工職人お一人に、桶風呂と竹笠の製作を依頼し、その製作工程の記録を行った。調査は実測とメモ、写真による記録だけでなく映像での記録も行い、その成果として滋賀県の桶風呂文化を紹介する教材用DVDの製作を進めた。来年度は、今年度の調査成果も加味して、これまでの桶風呂研究のとりまとめを行いたい。

その他、桶風呂の製作工程の記録と併行して博士論文の作成に取り組み、2008年2月に滋賀県立大学大学院に博士論文の審査申請を行った。現在、来年度の早い段階で審査を受けるべく訂正を行っている。

## 印刷物

### 【一般向けの著作】

老 文子 (2008) 湖と人と一琵琶湖博物館の10年-「環境にやさしい」暮らしの知恵. 37, 毎日新聞: 2008年2月5日・2008年3月12日(京都版).

### 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

老 文子・山本良子 (2007) 間取り絵図を用いた明治中期の集落の建物構成と景観復原-滋賀県神崎郡能登川町猪子の家屋と水路-. 人間文化(滋賀県立大学人間文化学部研究報告), 20, 滋賀県立大学: 3-14.

老 文子 (2005) 桶風呂の形態と使用域-滋賀県を中心とした事例研究-. 道具学論集, 11, 道具学会: 20-32.

老 文子・濱崎一志・藤森麻子・桑野朱希 (2005) 鈴鹿山系の山間集落の空間構成-滋賀県彦根市男鬼町を事例として-. 日本建築学会大会(近畿) 学術講演梗概集 E-2 建築計画II, 日本建築学会: 517-518.

老 文子 (2004) 滋賀県湖東の民家における風呂のあり方-桶風呂(直焚き式半蒸半湯浴風呂)の形態とその使用域からの考察-. 道具学会第8回研究フォーラム研究発表梗概集, 道具学会: 14-17.

老 文子 (2004) 滋賀県湖東における伝統的農家の床形式の変遷について-肥田村人家間取り図にみる土座の特徴-. 日本建築学会大会(北海道) 学術講演梗概集 F-2 建築歴史・意匠, 日本建築学会: 149-150.

老 文子・濱崎一志 (2003) 肥田村人家間取り図をもちいた肥田の景観復原. 平成14年度彦根市史景観部会報告書, 滋賀県彦根市: 7-26.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

老 文子 (2007年12月9日) 桶風呂の形態と使用域. 京都民俗学会第26回年次研究大会, 京都民俗学会, 京都市学校歴史博物館(京都市), [口頭発表].

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，3件。

2007年11月6日，むかしのくらし編. 指導者のための博物館活用講座，琵琶湖博物館，講義。

#### 他博物館・機関の主催行事

2007年9月1日，おけ風呂娘のむかし話，東近江市能登川博物館・滋賀県立大学濱崎研究室・NPO法人五環生活，五環スロー人講座-五環な職シリーズ Vol.2 桶風呂-おけ風呂娘のむかし話-（第71回東近江市能登川博物館企画展公開講座），東近江市能登川博物館（滋賀県東近江市），企画・講演。

2007年9月23日，おけ風呂～環境にやさしいくらしの知恵～，NPO法人金堂まちなみ保存会，第13回 ぶらりまちかど美術館・博物館，旧中江富士郎家（滋賀県東近江市），講演。

2007年10月25日，博物館資料整備事業の紹介，滋賀県立大学環琵琶湖文化論実習生，琵琶湖博物館。

2007年11月3日，おけ風呂～環境にやさしい暮らしの知恵～，東近江市愛東歴史研究会，あなたはどんなお風呂に入っていましたか-愛東のお風呂昔々-（愛史会歴史講座），東近江市愛東公民館（滋賀県東近江市），講演。

2008年2月16日，歴史・民家，生活道具と暮らしのようす，立命館守山中学校ミュージアム・スクール，琵琶湖博物館，講義。

2008年3月9日，展示デモンストレーション(桶風呂焚き実演)，NPO法人五環生活，近江の桶風呂再生プロジェクト，栗東芸術文化会館さくら(栗東市)，説明。

2008年3月30日，近江の桶風呂再生プロジェクト(入浴体験&上映会)，NPO法人五環生活，ほっこりカフェ 朴アート祭，護国神社敷地内ほっこりカフェ 朴(彦根市)，説明。

#### 視察対応

2007年11月15日，博物館概要説明，徳島県市町村文化財審議会委員，琵琶湖博物館。

2008年2月27日，博物館資料整備事業の紹介，(有)香りのデザイン研究所，琵琶湖博物館。

#### メディアへの協力

2007年9月12日，朝日新聞あいあいAI 滋賀，わが町トピックス「おけ風呂」に入浴してみた，インタビュー，(2007年9月1日取材)。

2007年10月10日，サンライズ出版 Duet，特集 桶風呂，資料提供・監修，(2007年7月11日・9月1日取材)。

2007年10月24日，朝日新聞あいあいAI 滋賀，漣人物録，資料提供・インタビュー，(2007年9月1日・10月6日取材)。

2007年11月8日，京都新聞，桶風呂復活へ思い熱く，資料提供・インタビュー，(2007年3日・4日取材)。

2007年12月6日，毎日新聞 Oh!Me，桶風呂文化を引き継ぎたい，資料提供・インタビュー，(2007年11月3日・6日取材)。

2008年1月12日，京都新聞夕刊，湖東・湖北の生きた文化 桶風呂ほっこり，インタビュー，(2007年11月8日取材)。

2008年3月14日，大阪毎日放送ちんぷいぷい，五右衛門風呂が自慢滋賀湖北の宿から中山ゴエモンが中継，情報提供・取材協力，(2008年3月13日取材)。

2008年3月30日，毎日新聞，エコOK風呂，資料提供・インタビュー，(2008年3月29日取材)。

2008年3月31日，毎日新聞，先人の知恵いい湯だな，インタビュー，(2008年3月30日取材)。

2008年3月31日，中日新聞，昔の「桶風呂」子どもら入浴，インタビュー，(2008年3月30日取材)。

2008年3月, 綾羽株式会社 社内報, 琵琶湖発人間探訪 今を生きる 第六十一話, 資料提供・インタビュー, (2008年2月28日取材).

#### 【情報整備活動】

##### 他博物館・機関の活動

おかきたまり氏, お風呂アドバイザー 洗いの殿堂ホームページ (<http://www.arainodendo.com>) への資料提供.

#### 【資料整備活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

民俗資料整理, 資料整理・収蔵庫管理.

環境資料整理, 収蔵庫管理.

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう, 内容指導, 4件.

##### 他博物館・機関の活動

東近江市能登川博物館, 2007年8月1日～9月2日, おけ風呂～環境にやさしいくらしの知恵～ (第71回 東近江市能登川博物館企画展), 企画・展示計画・パネル作製・質問アンケートコーナー・図録監修・資料提供.

NPO 法人金堂まちなみ保存会, 2007年9月23日, 第13回ぶらりまちかど美術館・博物館, 展示計画・パネル作製・資料提供.

東近江市愛東歴史研究会, 2007年11月3日, 愛史会歴史講座(あいとう文化まつり参加事業), 展示計画・パネル作製・アンケートコーナー・資料提供.

#### 【企画調整活動】

学校への訪問説明, 京都府内小中学校, 3件.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館外の活動】

2007年3月1日～, 近江の桶風呂再生プロジェクト, プロジェクトメンバー.

2008年3月1日～2011年2月28日, 滋賀県環境影響評価審査会, 委員.

琵琶湖博物館の学校連携事業については、教育職の学芸職員の諸先輩方のご苦勞もあり、内外ともに高い評価を受けている。前回の学習指導要領の改訂時に「総合的な学習の時間」が創設され、学校教育における博物館の有効活用が促されたことを受け、近年博学連携の事例研究などが多く発表されるようになってきた。また欧米で博物館学を研究した研究者がミュージアム・エデュケーターなどとして日本でも活躍される場面も多くなってきた。ハンズ・オン展示やワークシートの活用、展示室内でのアクティビティなど、日本の博物館が取り入れるべきものも多い。

しかし、欧米と日本の学校教育システムには違いがあり、欧米の手法を参考にすることは、非常に大切であるが、日本の教育システムを熟知した現場教員の経験のあるミュージアム・ティーチャーがアレンジすることが重要である。

そこで、現在ミュージアム・ティーチャーとして博物館にいる全国の教員について調査をするとともに、人と人とのネットワークを構築し、琵琶湖博物館が日本における博学連携の拠点として今後も活動していくことを内外に示したいと考え、次のテーマを設定し研究に取り組んだ。

#### 1. 研究テーマ

よりよい学校連携のありかたについて

#### 2. 結果と考察

##### (1) 博物館教員（ミュージアム・ティーチャーに関する調査）

当館の図書室に収蔵されている他館の年報やインターネットのサイトにより、全国の教員が常勤するであろうと思われる博物館にアンケート調査を実施した。またそのアンケートの質問項目に、担当者が知っている「教員が常勤する博物館」を回答してもらい、漏れていた館にも同じアンケート調査を実施した。全 166 館に送付し、119 館から回答を得た。そのうち教員が確かに在職していたのは 70 館であった。

##### (2) ミュージアム・ティーチャー ワークショップの開催

2008（平成 20）年 2 月 11 日～12 日に琵琶湖博物館を会場として、『ミュージアム・ティーチャー ワークショップ』を開催した。関東・北陸～九州より、23 園館（歴史・考古・科学・自然史・総合・水族館等）38 名の園館スタッフと 4 大学・高校より 6 名の参加があった。歴史民俗系・自然史系の博物館、科学館、水族館、美術館が集まり、共通の悩みがあるとともに、貸し出し資料セットを作る際などの共通にいかせるアイデアがあることも確認できた。また教育的に共通の話もでき、園館スタッフとの会話だけでなく資料との対話や見学者同士の対話による学びについても考えることができた。

#### 3. 今後に向けて

学芸員との連携をさらに密にし、研究者と教員の専門性を発揮し、子どもにとってよりよい学びができる琵琶湖博物館での学習の展開例をつくっていききたい。今後は学校現場から実践を通じた研究を行い、「博物館での学びのデザイン」について考えたい。

## 印刷物

### 【専門分野の著作】

Nakamura, K. ed. (2007) Cooperation of Lake Biwa Museum and The school System. In Dong Yuqin, ed., *Collected theses on summit Forum of Eurasian museums of Natural History*, Tianjin People's Publishing House : 272-277.

### 【一般向けの著作】

中村公一 (2007) 湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「体験学習や講座 多彩に」. 12, *毎日新聞*: 2007年6月26日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

中村公一 (2007年6月7日) エネルギーについて主体的に考える指導法の工夫. 滋賀県総合教育センター第49回研究発表大会, 滋賀県総合教育センター, 滋賀県総合教育センター (滋賀県野洲市), [口頭発表].

中村公一 (2007年6月16日) 学校と博物館の連携について. 2007年度総合研究・共同研究報告会, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

中村公一 (2007年8月5日) プラクトン模型づくり. 日本理科教育学会第57回全国大会, 日本理科教育学会, 愛知教育大学 (愛知県刈谷市), [口頭発表].

中村公一 (2007年8月19日) 学博連携を博物館側の立場から探る. 日本科学教育学会第31回年会, 日本科学教育学会, 北海道大学 (北海道札幌市), [口頭発表].

中村公一 (2007年8月20日) 滋賀県に採用された初任者に求められる環境学習観. 滋賀県教員初任者研修, 滋賀県総合教育センター, 滋賀県フローティングスクールうみのこ (滋賀県琵琶湖上), [口頭発表].

中村公一 (2007年11月15日) 琵琶湖博物館での化石のレプリカづくり体験学習について. 滋賀県中学校教育研究会理科部会研究発表大会, 滋賀県中学校教育研究会, 木之本町立杉野中学校 (滋賀県伊香郡), [口頭発表].

中村公一 (2007年12月8・9日) よりよい学校連携をめざして. 第48回日本動物園水族館教育研究会, 日本動物園水族館教育研究会, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

中村公一 (2008年2月11・12日) 琵琶湖博物館での学校連携. ミュージアム・ティーチャーワークショップ, 琵琶湖博物館, [ポスター発表].

中村公一 (2008年2月19日) 琵琶湖博物館での学校連携. 平成19年度全国科学館職員研修, 全国科学館連携協議会, 日本未来科学館, 日本未来科学館 (東京都江東区), [口頭発表].

中村公一 (2008年3月21日) よりよい学校連携のあり方について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

滋賀県総合教育センター平成19年度課題研究 (環境教育推進) 「水を中心とした物質循環に関する研究」 (研究代表者: 池下克美), 研究委員 (2007年5月-2008年3月).

### 【大学の講義・実習, 学生の指導など】

2007年4月-2008年3月, 龍谷大学学生, インターンシップ受け入れ.

2007年4月-2008年3月, 滋賀大学学生, 環境教育支援士実習受け入れ.

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

2007年4月-2008年3月, 「春の草花でしおりをつくろう」等10講座, 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業 (毎月第2第4土曜日開催), 琵琶湖博物館, 担当, 18件, はしかけグループ「びわたん」.

2007年7月～2007年8月、魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう、観察会、琵琶湖博物館、担当、3件、はしかけグループ「びわたん」「うおの会」他。

2007年7月～2007年11月、指導者のための博物館利用講座、教員・地域活動指導者向け博物館講座、琵琶湖博物館、担当、4件。

2007年8月27日・28日、指導者のための湖沼学基礎講座、教員・地域活動指導者向け博物館講座、琵琶湖博物館、担当、2件。

2007年8月2日・3日、夏休み「生き物飼いか講座」、教員向け博物館講座、琵琶湖博物館・湖北町立朝日小学校、担当、2件。

2007年7月30日、「指導者のための川の生き物調査」、教員・地域活動指導者向け博物館講座、館外、担当。

2007年4月～2008年3月、びわたん、はしかけ活動、琵琶湖博物館および館外、グループ担当、45件。

2007年4月～2008年3月、学校等標本貸出事業、標本貸し出し、琵琶湖博物館、担当、6件。

2007年8月7日、学校連携の実務業務、博物館実習、琵琶湖博物館、指導。

### 他の博物館・機関等主催行事

2007年4月～2008年3月、学校団体向け体験学習、県内県外各小中高等学校障害児教育諸学校、学校団体向け体験学習、琵琶湖博物館、草津市、講師、404件（159校）10769名。

2007年4月～2008年3月、一般団体向け体験学習、各団体、団体向け体験学習、琵琶湖博物館、草津市、講師、14件（12団体）361名。

2007年4月～2008年3月、ふるさとの自然探検、こどもエコクラブ「伯母Q五郎」、草津市志津地域との連携活動、草津市内の河川および琵琶湖、草津市、アドバイザー、5件。

2007年5月12日、博物館と学校との連携について、滋賀県草津市教育委員会、草津市初任者教員研修、琵琶湖博物館、講師。

2007年6月12日、博物館と学校との連携について、滋賀県中学校理科部会、滋賀県中学校理科部会環境委員会、琵琶湖博物館、講師。

2007年6月19日、博物館と学校との連携について、大阪成蹊大学、大阪成蹊大学博物館コース、琵琶湖博物館、講師。

2007年6月20日、博物館と学校との連携について、滋賀県環境政策課、4県環境子ども会議、琵琶湖博物館、講師。

2007年7月24日、学校連携について、自然史博物館館長懇談会、学校連携事業説明、琵琶湖博物館、説明。

2007年8月1日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県中学校理科部会、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、アドバイザー。

2007年8月7日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県中学校理科部会、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、アドバイザー。

2007年8月9日、博物館と学校との連携について、奈良県田原本町教育委員会、教員研修会、琵琶湖博物館、講師。

2007年8月22日、博物館と学校との連携について、滋賀県教育委員会、平成18年度環境教育研究協議会、琵琶湖博物館、アドバイザー。

2007年8月23日、博物館と学校との連携について、滋賀県教育委員会、理数大好き研修会、琵琶湖博物館、講師。

2007年9月28日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県環境学習支援センター、企画者のための環境教育講座、琵琶湖博物館、講師。

2007年10月11日、博物館で行う体験学習のノウハウ、滋賀県博物館協議会、滋賀県博物館協議会平成19年度第1回研修会、琵琶湖博物館、講師・コーディネーター。

2007年10月16日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県総合教育センター、理科実習助手講座、琵琶湖博物館、講師・コーディネーター。

2007年12月2日、琵琶湖博物館での体験学習、びわこ成蹊スポーツ大学、びわこ成蹊スポーツ大学野外活動コース、琵琶湖博物館、講師。

2008年1月19日, 琵琶湖博物館での体験学習, 滋賀県教育委員会, 滋賀の教師塾, 琵琶湖博物館, 講師.  
2008年3月9日, 琵琶湖博物館での体験学習, 滋賀県レクリエーション協会, 指導者研修会, 琵琶湖博物館, 講師・コーディネーター.

### 視察対応

2007年4月13日, 博学連携事業について, 滋賀県教育委員会生涯学習課長, 琵琶湖博物館.  
2007年4月19日, 博学連携事業について, 韓国光州博物館, 琵琶湖博物館.  
2007年8月29日, 博学連携事業について, 静岡県教育委員会, 琵琶湖博物館.  
2007年11月2日, 博学連携事業について, モンゴル国研修員, 琵琶湖博物館.  
2008年3月18日, 博学連携事業について, 名護市教育委員会・名護博物館, 琵琶湖博物館.  
2008年3月26日, 博学連携事業について, 碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館, 琵琶湖博物館.

### メディアへの協力

2007年4月3日, 読賣新聞, わくわく探検隊, インタビュー, (2007年3月23日取材).  
2007年5月8日, 読賣新聞, わくわく探検隊, インタビュー, (2007年4月25日取材).  
2007年5月10日, 京都新聞, わくわく探検隊, インタビュー, (2007年5月9日取材).  
2007年5月22日, 読賣新聞, わくわく探検隊, インタビュー, (2007年5月9日取材).  
2007年6月8日, びわ湖放送, わくわく探検隊, インタビュー, (2007年6月5日取材).  
2007年7月27日, 西日本新聞, 新空間展示「俺達魚部!」について, インタビュー, (2007年7月26日取材).  
2007年8月23日, サンケイ新聞, 新空間展示「俺達魚部!」について, インタビュー, (2007年8月21日取材).  
2007年8月28日, びわ湖放送, 「指導者のための湖沼学講座」について, インタビュー, (2007年8月28日取材).  
2007年9月4日, 読賣新聞, わくわく探検隊, インタビュー, (2007年8月17日取材).  
2007年9月19日, あいあいAI 滋賀, わくわく探検隊, インタビュー, (2007年9月8日取材).  
2007年10月9日, 読賣新聞, わくわく探検隊, インタビュー, (2007年9月28日取材).  
2007年11月29日, 読賣新聞, 「滋賀県環境学習県民のつどい」について, インタビュー, (2007年11月21日取材).  
2007年12月4日, 読賣新聞, わくわく探検隊, インタビュー, (2007年11月22日取材).  
2008年1月3日, あいあいAI 滋賀, わくわく探検隊, インタビュー, (2007年12月27日取材).  
2008年1月22日, 読賣新聞, わくわく探検隊, インタビュー, (2008年1月10日取材).  
2008年1月22日, 京都新聞, 「ミュージアム・ティーチャー ワークショップ」について, インタビュー, (2008年1月16日取材).  
2008年2月6日, あいあいAI 滋賀, わくわく探検隊, インタビュー, (2008年1月23日取材).  
2008年2月19日, 読賣新聞, わくわく探検隊, インタビュー, (2008年2月6日取材).  
2008年3月4日, 読賣新聞, わくわく探検隊, インタビュー, (2008年2月21日取材).  
2008年3月4日, 読賣新聞, はしかけ登録講座について, インタビュー, (2008年2月21日取材).  
2008年3月8日, 京都新聞, わくわく探検隊, インタビュー, (2008年3月6日取材).  
2008年3月8日, 京都新聞, はしかけ登録講座について, インタビュー, (2008年3月6日取材).

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

2007年7月30日～2007年8月26日, 新空間「俺達魚部!」, 調整・展示・管理.  
2007年12月1日～2007年12月4日, 平成19年滋賀県県民環境学習のつどい, 企画・調整・展示.  
2008年3月8日～2008年3月16日, はしかけ・フィールドレポーター紹介, 企画・調整・展示・管理.  
モーニングレクチャー, 講義, 3回.

#### 【企画調整活動】

JICA 博物館学研修集中コース，学校連携について，2007年5月10日，琵琶湖博物館。

JICA 博物館学研修集中コース，琵琶湖博物館わくわく探検隊事業について，2007年5月12日，琵琶湖博物館。  
学校への訪問説明，京都府内小中学校，3件。

### 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館外の活動】

2007年4月～2008年3月，理数大好きモデル地域推進事業，推進委員。

2007年4月～2008年3月，「2007 青少年のための科学の祭典」滋賀大会実行委員会，実行委員。

国立教育政策研究所(2007)は、環境学習のねらいとして「持続可能な社会の構築を目指し、よりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境への責任ある行動をとることができる態度を育成すること」と述べている。また、文部科学省(2007)も「環境教育に関する取組について」の中で「児童生徒が環境についての理解を深め、責任をもって環境を守るための行動がとれる」ことを学習の中核に位置づけている。したがって、これからの環境学習は、体験的・課題解決的であることはもちろん、子どもたち自らが環境に配慮した行動を促す工夫が求められる。

ただ、種々行われている環境学習によって、小・中学生の環境保全意識がどの程度高まり、またはどういった心理因子が顕著で、あるいは関連があるか等を検証する具体的な尺度は構成されていなかった。つまり、こういった現状は、各地で行われたせつかくの取り組みが同じものさしで論じられなかった理由の一つとなっていた。そこで、平成19年度では、環境配慮行動を規定する小・中学生の心理的な因子個々の関係性を明らかにするとともに、環境学習を行うに当たって、指導者がどのような点に配慮しながら、児童生徒の環境配慮行動を育てる必要があるかをさぐった。

1. 内容 特性的環境配慮意識測定尺度(中野・千原, 2007)での調査と分析
2. 対象 小学校児童 131名と中学校生徒 144名
3. 結果と考察

環境認知、行動評価を説明変数、環境保全態度を従属変数とした重回帰分析を行った。なお、標準偏回帰係数が有意水準1%未満で有意な変数のみを説明因として採用した。その結果、小学生にとっては、環境問題に対する危機感、有効感が環境保全態度形成に影響するが、これに加え、大人たちから自分が環境保全に対して期待されていると感じているかどうかという規範感も重要な規定因となった。一方、中学生にとっては、環境問題がどの程度深刻かという危機感と、環境配慮行動が環境問題に対してどの程度有効かということについての認知が、環境保全態度形成に影響すると考えられる。すなわち、小学生と中学生では、環境保全態度を形成する要因として規範感が関わるかどうかの違いとなることが明らかとなった。

次に、環境認知、行動評価を説明変数、環境配慮行動を従属変数とした重回帰分析を行った。小・中学生ともに行動評価が環境配慮行動を説明する要因となり、環境認知のいずれもが配慮行動を説明因とならなかったことは、広瀬モデルに符合する結果となった。すなわち、小・中学生ともに、自然を守る方法がわかり、それが実行可能かどうか、また、その負担はどのくらいで、大人たちにどれだけ期待されているか、が環境配慮行動に影響すると考えられる。

#### 4. 今後の検討課題

- (1) 環境保全態度が環境配慮行動に影響することから、保全態度を形成する危機感や有効感を高める指導の工夫を検討する必要がある。
- (2) 依藤・広瀬(2002)の結果との符合が見られたが、小・中学生ともに環境配慮行動に直接影響する規定因として行動評価が挙げられた。このことから環境問題に対する子どもの実行可能感、負担感、規範感を望ましい方向へと導く指導の工夫が求められる。
- (3) 小学生では、保全態度を形成する規範感が環境配慮行動の規定因と考えられる。このことから、子どもへの期待とともに、成人の環境保全行動や態度が重要であることがわかる。

#### 引用文献

- 国立教育政策研究所 (2007) 環境教育指導資料 (小学校編) : 3-6.  
文部科学省 (2007) 環境教育に関する取組について. 第37回中央環境審議会循環型社会計画部会資料.  
中野正俊・千原孝司 (2007) 環境配慮行動を規定する要因の検討. 滋賀大学教育学部紀要, 57 : 153-160.  
依藤佳世・広瀬幸雄 (2002) 子どものごみ減量行動を規定する要因について. 環境教育, 12(1) : 26-36.

## 印刷物

### 【学術論文】

- 中野正俊・千原孝司（2007）環境配慮行動を規定する要因の検討. *滋賀大学教育学部紀要*, 57, 滋賀大学:153-160.
- 木下裕也・中村公一・中野正俊・木下孝弘・鈴木真理子（2007）琵琶湖博物館と連携した体験学習プログラムの開発と評価. *滋賀大学教育学部紀要*, 57, 滋賀大学:177-190.

### 【専門分野の著作】

- Nakano, M. ed. (2007) The school satellite museum - A museum is made in a school so that the Lake Biwa museum comes into contact with local children and residents-. In, Dong Yuqin, ed, *Collected theses on summit Forum of Eurasian museums of Natural History*, Tianjin People's Publishing House : 285.
- 中野正俊（2007）琵琶湖博物館と学校の交流・連携に関わる実践的研究 I -児童生徒の環境配慮行動が規定する要因の検討-. *滋賀科学*, 51, 滋賀県高等学校理科教育研究会:46-50.
- 中野正俊（2007）博物館のサテライト化による理科・環境学習 I. *日本理科教育学会発表論文集*, 日本理科教育学会近畿支部:11.

### 【一般向けの著作】

- 中野正俊（2007）おわりに. *びわたんへの招待状*, びわたん:54.
- 中野正俊（2007）湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「小学校にサテライト博物館」. 36, *毎日新聞*:2008年1月29日.
- 中野正俊（2008）湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「理科嫌いを食い止める体験に」. 42, *毎日新聞*:2008年3月18日.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

- 中野正俊（2007年5月22日）琵琶湖のおいたちと集水域に住む人々の暮らし. 草津市教育委員会初任者研修会, 草津市教育委員会, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].
- 中野正俊（2007年6月2日）小学校でおこるいじめの実態とその対応-自尊心の育みから見つめる-. 滋賀大学大学院学校教育専修教育心理学教室修了生研究交換会, 滋賀大学心理学研究室, 滋賀大学教育学部（滋賀県大津市）, [口頭発表].
- 中野正俊（2007年7月31日）環境を守るってどんなこと?. 子どもまん中共和国, 滋賀県, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].
- 中野正俊（2007年8月17日）滋賀県に採用された初任者に求められる環境学習観. 滋賀県教員初任者研修, 滋賀県総合教育センター, 滋賀県フローティングスクールうみのこ（滋賀県琵琶湖上）, [口頭発表].
- 中野正俊（2007年8月20日）図画工作科、美術科で使えるワークショッププログラム. 造形美術教員研修会, 滋賀県造形美術教育研究会, 滋賀県立近代美術館（滋賀県大津市）, [口頭発表].
- 中野正俊（2007年9月29日）Determinants of environmental consideration in late-childhood's environment-learning situation. 滋賀大学大学院学校教育専修教育心理学教室修了生研究交換会, 滋賀大学心理学研究室, 滋賀大学教育学部（滋賀県大津市）, [口頭発表].
- 中野正俊（2007年11月3-7日）The school satellite museum -A museum is made in a school so that the Lake

Biwa museum comes into contact with local children and residents-. Summit Forum of Eurasian museums of Natural History, Eurasian museums of Natural History, Tianjin Museum of Natural History (中華人民共和国天津市), [ポスター発表].

中野正俊 (2007年12月8日) 博物館のサテライト化による理科・環境学習Ⅰ. 日本理科教育学会近畿支部大会, 日本理科教育学会近畿支部, 国立大学法人和歌山大学教育学部附属中学校 (和歌山県和歌山市), [口頭発表].

中野正俊 (2007年12月9日) 琵琶湖博物館と学校の交流・連携に関する実践的研究Ⅰ. 第48回日本動物園水族館教育研究会, 日本動物園水族館教育研究会, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [ポスター発表].

中野正俊 (2007年12月22日) 環境配慮行動を規定する要因の関係性…重回帰分析による結果の考察から… 滋賀大学大学院学校教育専修教育心理学教室修了生研究交換会, 滋賀大学心理学研究室, 滋賀大学教育学部 (滋賀県大津市), [口頭発表].

中野正俊 (2008年1月25日) 琵琶湖博物館における体験学習の実際. 総合的な学習の時間におけるコーディネータ養成講座, 滋賀県総合教育センター, 滋賀県総合教育センター (滋賀県野洲市), [口頭発表].

中野正俊 (2008年2月11日) 博物館のサテライト化による理科・環境学習Ⅰ. ミュージアム・ティーチャー ワークショップ, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

中野正俊 (2008年2月14日) 理科における環境学習について…新堂中学校の実践を通して… 平成19年度草津市教育委員会環境教育部会研修会, 草津市教育委員会環境教育部会, 草津市立新堂中学校 (滋賀県草津市), [口頭発表].

中野正俊 (2008年2月15日) 琵琶湖博物館と学校の交流・連携に関する実践的研究Ⅱ. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, 琵琶湖博物館 (滋賀県草津市), [口頭発表].

#### 【研究プロジェクト等への参加】

文部科学省学術振興会 科学研究費 (基盤研究C) 「博物館のサテライト化による学校再生と地域文化振興に関わる研究」 (研究代表者: 中野正俊), 研究代表者 (2007年4月~2009年3月).

文化庁芸術拠点形成 (ミュージアムタウン構想) 「学校サテライトワークショップで博・学・地域連携」 (研究代表者: 中野正俊), 研究代表者 (2007年5月~2008年3月).

滋賀県総合教育センター 平成19年度 課題研究 (理科教育に関する研究Ⅲ) 「問題解決の喜びを実感できる授業展開の工夫」, 研究委員 (2007年5月~2008年3月).

海と船の企画展 (日本財団) 支援 「人と湖の共生を考える学校サテライト博物館」 (研究代表者: 中野正俊), 研究代表者 (2007年5月~2008年3月).

#### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2007年4月~2008年3月, 龍谷大学学生, インターンシップ受け入れ.

2007年4月~2008年3月, 滋賀大学学生, 環境教育支援士実習受け入れ.

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 琵琶湖博物館の主催行事

2007年4月~2008年3月, 「春の草花でしおりをつくろう」等10講座, 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業 (毎月第2第4土曜日開催), 琵琶湖博物館, 担当, 18件, はしかけグループ「びわたん」.

2007年4月~2008年3月, 学校サテライト博物館設置事業, 標本貸し出し事業ならびにアウトリーチ事業, 滋賀県野洲市、湖北町, 担当, 16件, 野洲市立野洲北中学校、湖北町教育委員会、湖北町立朝日小学校.

2007年7月~2007年8月, 魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう, 観察会, 琵琶湖博物館, 担当, 3件, は

しかけグループ「びわたん」「うおの会」他.

2007年7月～2007年11月, 指導者のための博物館利用講座, 教員・地域活動指導者向け博物館講座, 琵琶湖博物館, 担当, 4件.

2007年8月27・28日, 指導者のための湖沼学基礎講座, 教員・地域活動指導者向け博物館講座, 琵琶湖博物館, 担当, 2件.

2007年8月2・3日, 夏休み「生き物飼いか講座」, 教員向け博物館講座, 琵琶湖博物館・湖北町立朝日小学校, 担当, 2件.

2007年7月30日, 指導者のための川の生き物調査, 教員・地域活動指導者向け博物館講座, 琵琶湖博物館館外, 担当.

2007年4月～2008年3月, びわたん, はしかけ活動, 琵琶湖博物館および館外, グループ担当, 45件.

2007年4月～2008年3月, 学校等標本貸出事業, 標本貸し出し, 琵琶湖博物館, 担当, 6件.

2007年8月7日, 学校連携の実際業務, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 指導.

2007年9月～2008年2月, 学校サテライトワークショップ推進事業, ワークショップ講師派遣事業, 滋賀県野洲市、湖北町, 担当, 25件, 野洲市立野洲北中学校、湖北町教育委員会、湖北町立朝日小学校.

### **他の博物館・機関等主催行事**

2007年4月～2008年3月, 学校団体向け体験学習, 県内県外各小中高等学校障害児教育諸学校, 学校団体向け体験学習, 琵琶湖博物館(草津市), 講師, 404件(159校)10769名.

2007年4月～2008年3月, 一般団体向け体験学習, 各団体, 団体向け体験学習, 琵琶湖博物館(草津市), 講師, 14件(12団体)361名.

2007年4月～2008年3月, ふるさとの自然探検, こどもエコクラブ「伯母Q五郎」, 草津市志津地域との連携活動, 草津市内の河川および琵琶湖, 草津市, アドバイザー, 5件.

2007年5月12日, 博物館と学校との連携について, 滋賀県草津市教育委員会, 草津市初任者教員研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年6月20日, 博物館と学校との連携について, 滋賀県環境政策課, 4県環境子ども会議, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年8月1日, 琵琶湖博物館での体験学習, 滋賀県中学校理科部会, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, アドバイザー.

2007年8月7日, 琵琶湖博物館での体験学習, 滋賀県中学校理科部会, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, アドバイザー.

2007年8月9日, 博物館と学校との連携について, 奈良県田原本町教育委員会, 教員研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年8月22日, 博物館と学校との連携について, 滋賀県教育委員会, 平成18年度環境教育研究協議会, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年8月23日, 博物館と学校との連携について, 滋賀県教育委員会, 理数大好き研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年9月28日, 琵琶湖博物館での体験学習, 滋賀県環境学習支援センター, 企画者のための環境教育講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年10月11日, 昔の暮らし体験学習の運営, 滋賀県博物館協議会, 滋賀県博物館協議会平成19年度第1回研修会, 琵琶湖博物館, 体験学習講師・コーディネーター.

2007年10月16日, 琵琶湖博物館での体験学習, 滋賀県総合教育センター, 理科実習助手講座, 琵琶湖博物館, 講師・コーディネーター.

2008年1月12日, 琵琶湖博物館における来館者体験学習(選択研修編), 滋賀県教育委員会, 滋賀の教師塾, 琵琶湖博物館, コーディネーター.

2008年1月19日, 滋賀の教師として心得てほしいこと…琵琶湖環境をとおして…, 滋賀県教育委員会, 滋賀の教師塾, 琵琶湖博物館, 講義講師ならびに体験学習講師.

2008年1月26日, 琵琶湖博物館における来館者体験学習(選択研修編), 滋賀県教育委員会, 滋賀の教師塾, 琵琶湖博物館, コーディネーター.

湖博物館，コーディネーター。

2008年2月23日，琵琶湖博物館における来館者体験学習（選択研修編），滋賀県教育委員会，滋賀の教師塾，琵琶湖博物館，コーディネーター。

### **視察対応**

2007年4月13日，博学連携事業について，滋賀県教育委員会生涯学習課長，琵琶湖博物館。

2007年8月29日，博学連携事業について，静岡県教育委員会，琵琶湖博物館。

2007年11月7日，博学連携事業について，鹿児島県日置市教育委員会（理数大好き関連），琵琶湖博物館。

2008年3月26日，博学連携事業について，碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館，琵琶湖博物館。

### **メディアへの協力**

2007年10月19日，讀賣新聞，博物館のサテライト化構想，インタビュー，（2007年10月2日取材）。

2007年10月23日，京都新聞，学校サテライト博物館の設置，インタビュー，（2007年10月22日取材）。

2007年10月23日，中日新聞，学校サテライト博物館の設置，インタビュー，（2007年10月22日取材）。

2008年1月9日，びわこ放送，学校サテライト博物館設置の経緯，インタビュー，（2008年1月9日取材）。

2008年1月9日，京都新聞，学校サテライト博物館事業の推進，インタビュー，（2008年1月9日取材）。

2008年1月9日，中日新聞，学校サテライト博物館事業の推進，インタビュー，（2008年1月9日取材）。

2008年2月19日，讀賣新聞，わくわく探検隊，インタビュー，（2008年2月9日取材）。

2008年3月5日，中日新聞，学校サテライト博物館事業の推進，インタビュー，（2008年3月4日取材）。

2008年3月5日，滋賀夕刊，学校サテライト博物館事業の推進，インタビュー，（2008年3月4日取材）。

### **【展示活動】**

#### **琵琶湖博物館の活動**

モーニングレクチャー，講義，3回。

2007年7月30日～2007年8月26日，新空間「俺達魚部！」，調整・展示・管理。

2007年12月1日～2007年12月4日，平成19年滋賀県県民環境学習のつどい，企画・調整・展示。

2008年3月8日～2008年3月16日，はしかけ・フィールドレポーター紹介，企画・調整・展示・管理。

### **【企画調整活動】**

学校への訪問説明，京都府内小中学校，4件。

JICA 博物館学研修集中コース，学校連携について，2007年5月10日，琵琶湖博物館。

JICA 博物館学研修集中コース，琵琶湖博物館わくわく探検隊事業について，2007年5月12日，琵琶湖博物館。

## **館内の人事・館外活動等に関すること**

### **【館外の活動】**

2007年4月～2008年3月，理数大好きモデル地域推進事業，委員。

## 印刷物

### 【一般向けの著作】

太田佳恵 (2007) 湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「いざに備え整理怠りなく」. 22, *毎日新聞*: 2007年9月11日.

## 博物館事業に関する業績

### 【情報整備活動】

#### *琵琶湖博物館の活動*

資料貸出情報の発信, 準備・整備, 2件.

クエリー質問対応, 回答のための資料調査.

### 【資料整備活動】

#### *琵琶湖博物館の活動*

小牧家資料の整理, 実施, 約800点.

時限保存資料の整理, 実施, 125点.

歴史資料写真・フィルム of 整理, 実施. 約30点.

歴史資料修理保存処理委託, 準備・指導, 30点.

歴史資料撮影委託, 準備・指導, 16点 (20カット).

館蔵資料東寺文書 (滋賀県所有本) 県指定のための調査, 準備, 176点.

館蔵資料の貸出, 対応. 2件.

館蔵資料の撮影, 準備・対応.

近江関係散逸古文書履歴の整備, 実施.

古書目録の整理, 実施.

pH測定 (7ヶ所), 実施, 11回.

収蔵庫内温湿度記録計用紙交換 (10ヶ所), 実施, 12回.

展示ケース内温湿度記録計用紙交換及び湿度管理, 実施, 26回.

定期清掃 (特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室), 実施, 11回.

臨時清掃 (特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室), 実施, 4回.

定期清掃 (特別収蔵庫前廊下), 実施, 5回.

定期清掃 (B展示室), 実施, 38回.

低酸素濃度殺虫処理, 実施, 4件.

二酸化炭素殺虫処理, 準備. 4件.

防虫防黴調査トラップ設置及び回収, 実施, 3回.

防虫防黴調査結果考察及び対策立案, 作成, 3回.

各種防虫対策 (防虫網の設置等), 企画・実施.

収蔵庫空間清掃体制の整備, 企画・準備.

生物発見履歴の整備, 実施.

### 【展示活動】

#### *琵琶湖博物館の活動*

2007年7月14日～11月25日, 企画展示「琵琶湖のコイ・フナ物語」歴史部門, 準備.

2007年7月14日～11月25日, 企画展示「琵琶湖のコイ・フナ物語」歴史部門, 陳列, 2件.

2007年7月14日～11月25日, 企画展示「琵琶湖のコイ・フナ物語」歴史部門, 陳列替え, 4件.

2007年7月14日～11月25日, 企画展示「琵琶湖のコイ・フナ物語」歴史部門 (鮎料理コーナー), 企画・準備・展示.

2007年12月18日～2008年2月3日, トピック展示「ネズミ」歴史資料の部, 企画・調査・展示.

2008年3月1日～4月13日, ギャラリー展示「淡海の博物館・美術館」, 展示ケース等準備.

B展示室陳列替え, 実施, 6件.

## 博物館事業に関する業績

### 【資料整備活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

- 小型無脊椎動物液浸標本の整理, 2961 件.
- 小型無脊椎動物液浸標本の仮データベース登録, 943 件.
- 両生爬虫類液浸標本の整理, 409 件.
- 両生爬虫類液浸標本のデータベース登録, 170 件.
- 珪藻液浸標本の整理, 399 件.
- 微小生物液浸標本の整理, 847 件.
- 微小生物プレパラート標本の整理, 31 件.
- 魚の寄生虫動画撮影, 3 件.
- 魚の寄生虫写真撮影, 25 件.
- 小型無脊椎動物液浸標本の保存液確認及び補充, 1 回
- 定期清掃 (液浸収蔵庫 1), 12 回.
- 臨時清掃 (液浸収蔵庫 1), 1 回.
- 各収蔵庫の温湿度管理.

### 【展示活動】

#### 琵琶湖博物館の活動

- C 展示室生き物コレクション「プランクトン」, 展示更新, 3 回.

## 特別研究員

## 研究活動に関する業績

## 【学会・研究会での発表】

青木伸子・布谷知夫（2008年3月9日）博物館ボランティアはなぜ必要か．琵琶湖博物館第49回特別研究セミナー，琵琶湖博物館，企画・運営．

## 館内の人事・館外活動等に関すること

## 【館外の活動】

2007年度，西堀栄三郎探検の殿堂，博物館協議会，委員．

琵琶湖博物館における「はしかけ制度」を応援することを通じて、博物館と利用者の関係性について利用者の学びの観点から整理・分析を試みた。その結果、博物館と利用者が双方向のやり取りを通じて、共に成長・発展できる協働関係が成立することを見出した。そのあり方を博物館での“協働モデル”として、『琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」の活動紹介～博物館における“協働モデル”の提示～』（青木・北村, 2006）で発表した。本年は、2006年度までの琵琶湖博物館における事業および研究活動をふまえて、“協働モデル”の汎用性を求めて研究活動を行った。研究テーマは、「博物館におけるボランティアの“協働モデル”再構築に向けた実証的研究」であり、文部科学省による科学研究費補助金交付を受けている。博物館ボランティアを運営する博物館関係者や活動するボランティアに対して、予備調査を目的とした紙媒体調査、聞き取り調査を行った。これらの結果が今後ますます社会的ニーズの高まる博物館において、博物館とボランティアがよりよい関係を築くことに少しでも貢献できたらと考えている。

特別研究員

印刷物

【学術論文】

上中央子（2007）畿内地域におけるソバ属花粉の分布の変遷. *考古学と自然科学*, 57, 日本文化財科学会：55-63.

【一般向けの著作】

上中央子(2008)湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「充実した特別研究員の日々」. 35, *毎日新聞*: 2008年1月22日・2月27日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

上中央子(2007年6月2・3日)花粉分析からみた近畿地方におけるソバ栽培の変遷. 日本文化財科学会第24回大会, 日本文化財科学会, 奈良教育大学(奈良県奈良市), [ポスター発表].

上中央子(2007年10月27日)原始・古代における畠作農耕の実態解明-花粉・種実分析からのアプローチ-. 第13回環境史研究会, 環境史研究会, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科(京都市左京区), [口頭発表].

上中央子(2007年11月16日)河内平野南部における縄文時代晩期以降の植生変遷-長原・瓜破遺跡を例として-. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

上中央子(2007年11月17・18日)河内平野南部における縄文時代晩期以降の植生変遷-長原・瓜破遺跡を例として-. 日本植生史学会 第22回大会, 日本植生史学会, 大阪市立自然史博物館(大阪府大阪市), [口頭発表].

上中央子(2008年2月24日)河内平野南部における縄文時代晩期以降の植生変遷-長原・瓜破遺跡を例として-. 第20回地学研究発表会, 琵琶湖博物館地学研究室・滋賀大学, 滋賀大学天津サテライトプラザ(滋賀県大津市), [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講義, 2回.

特別研究員

印刷物

【学術論文】

金山喜昭・布谷知夫・北村美香（2007）博物館と市民のキャリア形成「ボランティア」から「はしかけ」へ. キャリアデザイン学会誌, 3, キャリアデザイン学会: 163-170.

北村美香（2008）博物館を拠点とした共同イベントの開催による市民活動の協働性の発展. 京都橘大学文化政策学研究論文集, 2, 京都橘大学: 145-155.

【専門分野の著作】

北村美香・中井大介（2008）みんなで楽しむ「お魚つかみ観察会」実施報告. 博物館研究, 4 (43), (財) 日本博物館協会: 20-22.

【一般向けの著作】

北村美香（2007）湖と人と-琵琶湖博物館の10年-「他分野の視点で新たな発見」. 30, 毎日新聞: 2007年11月27日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

北村美香（2007年6月3日）マーケティング概念にもとづく来館者研究. 第33回研究大会, 全日本博物館学会, お茶の水大学（東京都）, [口頭発表].

北村美香（2007年9月3日）博物館を楽しもう！地域まるごと博物館-展示を使った地域の再発見-. 博物館ボランティアの集い2007, 博物館ボランティアの集い2007 実行委員会, 北海道大学, [口頭発表].

北村美香（2007年9月17日）マーケティング概念にもとづく来館者研究. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

北村美香（2008年3月2日）博物館のボランティア活動によるキャリア形成について. 全国ボランティアコーディネーター研究集会2008, 全国ボランティアコーディネーター研究集会2008 実行委員会, 龍谷大学（京都市）, [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2007年4月～2008年3月, 春の草花でしおりをつくろう他10講座, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 講師, 20件.

2007年7月7日, 魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう [魚つかみ編], 企画展示関連観察会, 守山市ほか

るの森資料館・守山市，主担当。

2007年7月28日・8月21日，魚つかみを楽しんで、魚の歯の標本をつくろう [標本づくり編]，企画展関連観察会，琵琶湖博物館，主担当。

2007年8月2日・8日，投網に挑戦，2007年度企画展関連イベント，琵琶湖博物館，講師。

2007年8月7日，くらやみでホネをさわって、ミテ，第31回自然調査ゼミナール，琵琶湖博物館，講師。

2007年8月19日，かしわざきキッズミュージアム事前講習，ワークショップ事前研究，琵琶湖博物館，講師。

2007年9月18日～2008年2月15日，琵琶湖博物館サテライトミュージアムワークショップ，湖北地方3小学校・野洲北中学校，講師，8件。

2007年10月7・21日，紙芝居「コイのゴーイ君とフナのプーナちゃん」，2007年度企画展示関連イベント，琵琶湖博物館，主担当。

2007年11月27日，びわたん活動紹介，はしかけ交流会，琵琶湖博物館，講師。

2007年12月8・9日，第48回日本動物園水族館教育研究会，琵琶湖博物館，スタッフ。

2007年12月21日，館長座談会，うみんど取材，琵琶湖博物館，対談参加者。

2008年2月11・12日，ミュージアムティーチャーワークショップ，琵琶湖博物館，スタッフ。

### **他の博物館・機関等主催行事**

2007年7月29日，くる☆カラフルたねとばし，環境と科学のフェスティバル実行委員会，環境と科学のフェスティバル，ビバシティ彦根（滋賀県彦根市），講師。

2007年8月11日，光と影で写真とうつそう，西堀栄三郎記念館探検の殿堂，かがくとアートの体験夏まつり，西堀栄三郎記念館探検の殿堂（滋賀県東近江市），講師。

2007年8月29日，みて！さわって！つくろう！多賀の魚!!，ブリジストン琵琶湖いのちの水プロジェクト，工作教室，ブリジストン彦根工場（滋賀県彦根市），講師。

2007年10月～11月，化石のレプリカをつくろう，文部科学省，理科大好き事業，大津市立瀬田中学校（滋賀県大津市），講師，3件。

2007年10月28日，ヨシ笛をつくろう，文部科学省，理科大好き事業，草津市立常盤小学校（滋賀県草津市），講師。

2007年2月23日，ワークショップ，河川レンジャーアドバイザー委員会・琵琶湖河川事務所，琵琶湖河川レンジャー周知イベント，草津市立市民交流プラザ（滋賀県草津市），講師。

2008年2月24日，縄文コースターをつくろう，滋賀県文化振興事業団，アートはみんなのもの，滋賀県立文化産業交流会館（滋賀県米原市），講師。

### **視察対応**

2007年11月27日，北海道開拓の村ボランティア，琵琶湖博物館。

### **【企画調整活動】**

JICA 博物館学集中コース，プランクトンの模型をつくろう，2007年5月12日，琵琶湖博物館。

## **館内の人事・館外活動等に関すること**

### **【館外の活動】**

2007年3月～7月，日本展示学会，第26回研究大会実行委員会，実行委員。

2007年5月～7月，京都文化博物館，ティアラ展運営委員会，運営ディレクター。

2007年9月18日～2008年2月15日，琵琶湖博物館サテライトミュージアム・ワークショップ事業，講師。

特別研究員

印刷物

【専門分野の著作】

北村美香・中井大介(2008) みんなで楽しむ「お魚つかみ観察会」実施報告. 博物館研究. Vol. 43 No. 4. (財)日本博物館協会: 20-22

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

中井大介 (2006) たんさいぼうの会「守山市内を流れる河川の珪藻調査」を終えて. はしかけニュースレター, 78号: 5-6

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中井大介 (2007年6月15日) 人工水路で添加された微細粒子が付着藻類群落の構造と種組成に与える影響. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表]

中井大介・大塚泰介 (2007年11月3日) ヨシのシュートに付着した珪藻群落の遷移. 日本珪藻学会第27回研究集会, 日本珪藻学会, 豊田市福祉センター百年草 (豊田市), [口頭発表]

【研究プロジェクト等への参加】

財団法人発酵研究所特定研究助成「琵琶湖のヨシ帯が水質および環境浄化に果たす役割の解明 -有用微生物の探索と応用-」(研究代表者: 今井一郎), 実験補助 (2007年度~).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2007年度前期, 龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科, 生物多様性実習B.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2007年5月5日, 珪藻入門講座「はじめてのたんさいぼう講座」, たんさいぼうの会, 琵琶湖博物館, 講師.

2007年7月7日, 魚つかみを楽しんで、魚の歯の標本をつくろうー魚つかみ編ー観察会, 2007年度企画展関連イベント, 守山市, 講師.

2007年, たんさいぼうの会総会, 4回開催, 琵琶湖博物館・草津市, 運営補助.

2007年, たんさいぼうの会調査, 4回実施.

他の博物館・機関等主催行事

2007年8月25日，環境カウンセラー活動報告会，滋賀県環境カウンセラー協会，野洲市中央公民館（野洲市），講師。

2007年9月22日，ほたるの川の観察会，守山市ほたるの森資料館（守山市），講師。

2007年11月10日，ほたるの森の観察会，守山市ほたるの森資料館（守山市），講師。

**【展示活動】**

**琵琶湖博物館の活動**

モーニングレクチャー，講義，3回。

## 特別研究員

## 印刷物

## 【学術論文】

水野敏明・中尾博行・琵琶湖博物館うおの会・中島経夫(2007)琵琶湖流域におけるブルーギル(*Lepomis macrochirus*)の生息リスク評価. *保全生態学研究*, 12:1-9.

金尾滋史・中尾博行・高野裕樹・舟尾俊範・沢田裕一・琵琶湖博物館うおの会・中井克樹(2007)滋賀県におけるスクミリンゴガイの生息域の拡大. *ちりぼたん*, 38:88-94.

## 【一般向けの著作】

中尾博行(2007)琵琶湖のブルーギル 6月除去が効果的. *自然保護5・6月号*, 財団法人日本自然保護協会, 東京: 26.

中尾博行(2007)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「ホンモロコ」. *京都新聞*:2007年4月1日.

中尾博行(2007)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「スナヤツメ」. *京都新聞*:2007年4月29日.

中尾博行(2007)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「オオクチバス」. *京都新聞*:2007年5月6日.

中尾博行(2007)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「巻き貝」. *京都新聞*:2007年6月3日.

中尾博行(2007)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「ナマズ」. *京都新聞*:2007年7月1日.

中尾博行(2007)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「ブルーギル」. *京都新聞*:2007年8月5日.

中尾博行(2007)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「ヌマチチブ」. *京都新聞*:2007年9月2日.

中尾博行(2007)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「ドジョウ」. *京都新聞*:2007年9月30日.

中尾博行(2007)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「ボテジャコ」. *京都新聞*:2007年10月7日.

中尾博行(2007)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「アユ」. *京都新聞*:2007年11月4日.

中尾博行(2007)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「ハリヨ」. *京都新聞*:2007年12月2日.

中尾博行(2008)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「スジエビ・テナガエビ」. *京都新聞*:2008年1月6日.

中尾博行(2008)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「ヨシノボリ」. *京都新聞*:2008年2月3日.

中尾博行(2008)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「コイ」. *京都新聞*:2008年3月2日.

中尾博行(2008)琵琶湖からのメッセージ-気ままに水中散歩「ビワコオオナマズ」. *京都新聞*:2008年3月30日.

## 研究活動に関する業績

## 【学会・研究会での発表】

中井克樹・中尾博行・高野裕樹・沢田裕一(2007年9月16日)ブルーギルの繁殖コロニーの動態とその特性を利用した捕獲方法の検討. 応用生態工学会, 名古屋大学(名古屋市), [口頭発表].

西村俊昭・前川 学・伊藤浩正・田中茂穂・中尾博行・松 優男・谷本和宏(2007年11月8日)琵琶湖周辺の水田地域における環境教育支援について-NPO 旅するおさかなサポーターの活動を事例として-. 農業農村工学会京都支部研究発表会, 和歌山県民文化会館(和歌山市), [口頭発表].

中尾博行(2007年12月21日)琵琶湖沿岸・内湖・流入河川における在来魚類の産卵と琵琶湖水位との関係-生態

系に配慮した瀬田川洗堰操作に向けて- 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

#### 【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究『魚が確認できない』データに基づく魚類が脅威にさらされている地域の特定と要因の解明  
(研究代表者: 水野敏明), 共同研究者 (2006年~2007年度).

#### 【大学の講義・実習、学生の指導など】

2008年4月~7月, 滋賀県立大学環境科学部2年生Hグループ, 環境フィールドワーク2 (ティーチングアシスタント).

2007年9月26日, 龍谷大学特別講義, 環境と自然を考えるリレー講座「水中からみた琵琶湖と外来魚の現状」.

## 博物館事業に関する業績

#### 【交流・サービス事業】

##### 琵琶湖博物館の主催行事

2007年7月7日, 魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう [魚つかみ編], 企画展示関連観察会, 守山市ほたるの森資料館・守山市, 魚類観察指導.

##### 他の博物館・機関等主催行事

2007年5月20日, ちょこっとバスにのって川の生き物を見つけよう. 西堀栄三郎記念探検の殿堂, キッズ探検倶楽部 vol. 2, 西堀栄三郎記念探検の殿堂 (東近江市), 魚類観察指導.

2007年6月6日, 琵琶湖の魚, 長等小学校環境学習, 長等小学校 (大津市), 講演.

2007年7月1日, 雑魚捕りを楽しみ, 川遊び文化を考えるシンポジウム, ぼてじゃこトラスト・水のめぐみ館アクア琵琶, 大人の川遊びトレーニング, 水のめぐみ館アクア琵琶 (大津市), 司会進行.

2007年8月6日, 野洲川魚類観察会, 守山市教育研究所, 郷土守山に学ぶ研修講座Ⅱ, 野洲川 (守山市), 魚類観察指導.

2007年9月15日, 琵琶湖岸の産卵調査, ぼてじゃこトラスト・お魚ネットワークおおつ, 大人の川遊びトレーニング, ウォーターステーション琵琶 (大津市), 講演.

2008年1月27日, コロニーを利用してブルーギルを獲りまくる方法, 琵琶湖を戻す会, 第3回外来魚情報交換会, 草津市市民交流プラザ (草津市), 講演.

2008年2月3日, 東近江の水辺環境のいま, 東近江市生活環境課, 東近江地域学フォーラム, 河辺いきものの森 (東近江市), 講演.

2008年2月28日, 琵琶湖沿岸・内湖・流入河川における在来魚類の産卵と琵琶湖水位との関係-生態系に配慮した瀬田川洗堰操作に向けて-, 水のめぐみ館アクア琵琶, アクア琵琶第2回琵琶湖講座, 水のめぐみ館アクア琵琶 (大津市), 講演.

2008年3月15日, 琵琶湖の魚の産卵調査, 青柳小学校エコスクールプロジェクト, 青柳小学校 (高島市), 講演.

2008年3月23日, ビワマス稚魚の放流, ビワマスを琵琶湖のシンボルに育てる会, 大宮川 (大津市), 説明.

#### メディアへの協力

2007年9月30日, 京都新聞, オヤニラミが勢力拡大 滋賀の河川 在来魚へ影響懸念, 野洲川のオヤニラミ分布拡大についてコメント, (2007年8月15日取材).

2007年10月19日公開, GreenTV Japan (ウェブTVサイト), 琵琶湖に生きる魚たち-琵琶湖シリーズ vol. 1, 琵琶湖の魚類の特徴についてコメント (2007年10月3日取材).

2007年12月14日，朝日新聞，琵琶湖の魚研究 県内各地を奔走，うおの会の産卵調査の内容に関する取材，(2007年11月29日取材)。

2008年2月4日，京都新聞，絶滅危惧種のハリヨ確認 東近江市の市民団体、調査報告，「東近江お魚調査隊」の活動についてコメント，(2008年2月3日取材)。

2008年2月17日，京都新聞，在来魚の産卵、通報で最適水位に 国交省に「うおの会」協力，うおの会の産卵調査についてのコメント，(2008年1月14日取材)。

#### 【展示活動】

##### 琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講義，3回。

##### 他博物館・機関の活動

水のめぐみ館アクア琵琶，2007年4月～2008年3月（随時更新），魚類産卵情報の展示と卵・仔魚の展示および来館者への解説。

## 館内の人事・館外活動等に関すること

#### 【館外の活動】

2008年1月～2008年3月，NPO法人 旅するお魚サポーター，理事。

## 印刷物

### 【学術論文】

安井謙介・高橋啓一・野嶋宏二・中嶋雅子（2007）中部更新統浜松累層ナウマンゾウ化石について. *化石研究会誌*, 40(1) : 63-79.

### 【専門分野の著作】

野嶋宏二・青島 晃・増田耕一・中嶋雅子・小島理世・高木利夫・榊原玄大（2007）浜松市引佐町谷下産の中期更新世の新種ワニ化石とフナ・コイ化石. *浜松市博物館報*, 20 : 1-16

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

青島 晃・土屋光永・野嶋宏二・松井孝友・中野幸子（2007年9月）アンケート調査から推定した東南海地震による三重県南部の津波到達時間. 歴史地震研究会, 下田市市民文化会館（静岡県下田市）, [ポスター発表].

野嶋宏二（2007年12月）鰓蓋骨の形態に基づくフナ属の種分類. 第16回浜名湖をめぐる研究者の会, 東京大学大学院農学生命科学研究科附属水産実験所（静岡県浜松市）, [ポスター発表].

野嶋宏二・中島経夫（2008年1月）浜松市引佐町谷下産の中期更新世の新種フナ化石, および鰓蓋骨の形態に基づく日本列島産フナ属の種分類. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

## 印刷物

### 【学術論文】

水野敏明・中尾博行・琵琶湖博物館うおの会・中島経夫(2007)琵琶湖流域におけるブルーギル (*Lepomis macrochirus*) の生息リスク評価. *保全生態学研究*, (12), 日本生態学会 : 1-9.

## 研究活動に関する業績

### 【学会・研究会での発表】

水野敏明(2007年10月19日)ニゴロブナの遡上における農業水路の生態回廊機能の評価. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

水野敏明・前畑政善・小川雅広・舟尾俊範(2007年10月20日)琵琶湖のニゴロブナが遡上する水路の要因. 第45回魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会, 龍谷大学(滋賀県大津市), [口頭発表].

小川雅広・前畑政善・水野敏明・金尾滋史(2007年10月21日)琵琶湖南部の農業排水路で採捕されたカメ類(予報). 第45回魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会, 龍谷大学(滋賀県大津市), [口頭発表].

水野敏明・前畑政善・小川雅広・舟尾俊範(2008年3月15日)琵琶湖におけるニゴロブナの農業水路への遡上要因の検討. 第55回日本生態学会福岡大会, 日本生態学会, 福岡国際会議場(福岡県福岡市), [口頭発表].

### 【研究プロジェクト等への参加】

総合地球環境学研究所「東アジアの内海の新石器化と現代化: 景観の形成史」(プロジェクトリーダー: 内山純蔵), 共同研究員(2007年~).

琵琶湖博物館総合研究「湖に隣接する水田地帯の特性の解明-ニゴロブナを媒体として-」(研究代表者: 前畑政善), 共同研究員(2007年4月~).

琵琶湖博物館共同研究「『魚が確認できない』データに基づく魚類が脅威にさらされている地域の特定と要因の解明」(研究代表者: 水野敏明), 研究代表者(2006年4月~).

## 博物館事業に関する業績

### 【交流・サービス事業】

#### 琵琶湖博物館の主催行事

2007年7月7日, 魚つかみを楽しんで魚の歯の標本をつくろう, 企画展示関連イベント [魚つかみ編], 守山市ほたるの森資料館・守山市, 魚類調査指導員, (びわたん・うおの会・WWF ジャパン・守山市ほたるの森資料館共同).

#### 他の博物館・機関等主催行事

2007年5月27日、観察学習会、びわたん・うおの会・WWF ジャパン・守山市ほたるの森資料館、企画展示関連イベント [魚つかみ編]、草津市、魚類調査指導員。

2007年7月21日、魚つかみ、虎姫町大寺町内会・ブリヂストン彦根工場、町内会イベント、魚類調査指導員。

2007年7月23日、びわこ・マイアミ浜 写生大会、財団法人佐川美術館、さがわキッズミュージアム2007、マイアミ浜（野洲市）、魚類調査指導員。

2007年7月28日、水辺の生き物観察会 in 犬上川、多賀の自然と文化の館・WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト、2007年度自然観察会・体験教室、犬上川（多賀町）、魚類調査指導員。

2007年8月2日、川の生き物観察会、快適環境づくりをすすめる会・彦根市生活環境課、川の生き物観察会、犬上川（彦根市）、魚類調査指導員。

2007年8月4日、水辺の生き物観察会 in 芹川、多賀の自然と文化の館・WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト、2007年度自然観察会・体験教室、芹川（多賀町）、魚類調査指導員。

2007年8月25日、ブライアン・ウィリアムス講演会Ⅱ（対談）、佐川美術館、「琵琶湖の原風景をもとめて」併設イベント、佐川美術館（守山市）、講演対談者。

2007年8月26日、みて！さわって！つくろう！多賀の魚！！、WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト、プロジェクトイベント、ブリヂストン彦根工場（多賀町）、コーディネーター。

2007年10月27日、琵琶湖の生き物について、滋賀県、第5回 水源の里・甲賀流域 川フォーラム、滋賀県南部振興局甲賀県事務所（滋賀県甲賀市）、講師。

2008年2月24日、琵琶湖お魚ネットワーク交流会、琵琶湖お魚ネットワーク、第4回琵琶湖お魚ネットワーク交流会、琵琶湖博物館、講師。

#### **視察対応**

2007年6月28日、琵琶湖博物館の連携活動についての紹介と解説、韓国大清湖保全運動本部、琵琶湖博物館。

2007年6月29日、琵琶湖博物館の連携活動についての紹介と解説、JICA、琵琶湖博物館。

2008年3月9日、琵琶湖博物館の連携活動についての紹介と解説、佐奈川の会、琵琶湖博物館。

#### **メディアへの協力**

2007年5月、国内通年企画「光が見える-再生への助走」、共同通信配信、総合開発も在来魚減少要因になっていることの解説（2007年5月取材）。

2007年6月1日、琵琶湖の外来魚：人工的環境が定着促進、毎日新聞、研究成果についての取材、（2007年4月24日）。

2007年11月～ブリヂストン全国CM、「びわ湖 生命（いのち）の水」編、WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト映像協力。

2007年11月～、琵琶湖から学ぶ自然環境保護～琵琶湖シリーズ vol.2, green TV（インターネットテレビ放送局）、出演、（2007年10月3日取材）。

#### **【展示活動】**

##### **琵琶湖博物館の活動**

モーニングレクチャー、講義、3回。

2007年7月14日、第15回企画展示「琵琶湖のコイ・フナのお話-東アジアの中の湖と人-」展示協力・コーディネーター。

##### **他博物館・機関の活動**

佐川美術館、2007年7月21日、「琵琶湖の原風景をもとめて」展示協力、コーディネーター。

京都大学総合博物館、2007年8月1日、「生態学が語る不思議な世界 生物の多様性ってなんだろう？」展示協力、

コーディネーター.

## 館内の人事・館外活動等に関すること

### 【館外の活動】

2007年8月～, 淀川水系流域委員会, 委員 (環境・魚類).

## 総合研究・共同研究による印刷物

- Amin, O. M., Nagasawa, K. and Grygier, M. J. (2007) Host and seasonal distribution of fish acanthocephalans from the Lake Biwa Basin, Japan. *Comparative Parasitology*. 74 : 244-253.
- Amin, O. M., Heckmann, R. and Standing, M. D. (2007) The structural-functional relationship of the para-receptacle structure in Acanthocephala. *Comparative Parasitology*. 74 : 383-387.
- 浅井博・堀田康夫・楠岡泰 (2007) 琵琶湖湖畔の葦とオオカナダモの葉に付着して棲息する巨大ズーサムニウム, 原生動物学雑誌, 40 : 44-46.
- Blakemore, R. J. (2007) *Helodrilus hachiojii* sp. nov. (Oligochaeta: Lumbicidae) from Japan. *Edaphologia*. 82 : 17-23.
- 藤井弘章・東條さやか (2007) 『知多新聞』にみる鶴の山. 知多半島の歴史と現代, 14, 日本福祉大学知多半島総合研究所, 校倉出版 : 103-125.
- Kobayashi, T. (2007) *Kloosia* Kruseman, *Chernovskiiia* Sæther, *Robackia* Sæther, and *Saetheria* Jackson (Chironomidae: Chironominae) in Japan. *Zootaxa*. 1527 : 1-15.
- Nagasawa, K., Umino, T. and Grygier, M. J. (2007a) Parasites may be useful biological tags for identifying ayu (*Plecoglossus altivelis*) (Salmoniformes: Plecoglossidae) of Lake Biwa origin stocked into rivers. *Aquaculture Research*. 55 : 477-481.
- Nagasawa, K., Umino, T. and Grygier, M. J. (2007b) A checklist of the parasites of ayu (*Plecoglossus altivelis altivelis*) (Salmoniformes: Plecoglossidae) in Japan (1912-2007). *Journal of the Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University*. 46: 59-89.
- 長澤和也・海野徹也・上野大輔・大塚 攻 (2007) 魚類寄生虫またはプランクトンとして出現する日本産ニセエラジラミ科カイアシ類の目録 (1895-2007 年), 日本生物地理学会会報 (Bulletin of the Biogeographical Society of Japan), 62 : 43-62.
- Olesen, J. (2007) Monophyly and phylogeny of the Branchiopoda (Crustacea), with focus on morphology and homologies of branchiopod phyllopodous limbs. *Journal of Crustacean Biology* 27 : 165-183.
- Richter, S., Olesen, J. & Wheeler, W. C. (2007) Phylogeny of Branchiopoda (Crustacea) based on a combined analysis of morphological data and six molecular loci. *Cladistics*. 23 : 301-336.
- Scholz, T., Hanzelová, V., Skeríková, A., Shimazu, T. and Rolbiecki, L. (2007) An annotated list of species of the *Proteocephalus* Weinland, 1858 aggregate *sensu de* Chambrier et al. (2004) (Cestoda: Proteocephalidea), parasites of fishes in the Palaearctic Region, their phylogenetic relationships and a key to their identification. *Systematic Parasitology*. 67 : 139-156.

## 2007 年度の研究活動をふり返って

今年度は琵琶湖博物館の中長期計画の第 2 段階の 2 年目の年となった。琵琶湖博物館ならではの学際的あるいは地域的な研究をなお一層推進していくことを目標として掲げている。

研究・調査活動においては、総合研究 2 件、共同研究 9 件、申請専門研究 2 件、専門研究 30 件を行った。総合研究や共同研究はほぼ昨年並みの数であった。その他、県費以外の外部助成による研究あるいは研究分担者として、15 人の学芸職員による 36 件の研究が行われた。今後も外部からの資金も活用しながら研究を活発化するとともに館外の方々との共同研究によって研究能力を高める活動をこころがけたい。

成果の発信については、学術論文 47 件、専門分野の著作 44 件、そして一般向けの著作として新聞への原稿も含め 146 件が行われた。学術論文もある程度数は毎年だせるようになったが、琵琶湖博物館の中長期計画に照らし合わせた学際的あるいは地域を対象としながらも国際的な関心を呼ぶような研究成果はまだ十分に発信できていない。

館内事業として例年行っている研究発表会については、今年は企画展示関連シンポジウム「東アジアにおける生き物と人-これからの関係を探る-」を研究部として企画、運営することにし、行わなかった。

特別研究セミナーとしては、3 回開催した。このうち 2 回は博物館学関連のもの、他の 1 回は生態学に関するものであった。毎月第 3 金曜日に行っている研究セミナーは例年通り 12 回開催した。

特別研究員については、8 名の外部研究員が琵琶湖博物館の施設を利用して研究を行い、またセミナーで発表を行った。特別研究員については、徐々に増加しているが、引き続き館内の学芸職員との研究交流を行い、互いに研究能力が向上していくことが望まれる。その他、11 名の外部研究者が施設利用手続きの後、生態進化実験室、水族実験撮影室、水族水槽室、魚病管理室、人工環境室、DNA 分析室、無菌操作室、共同利用研究室などの施設を利用した。

海外調査および国際学会の発表等には、6 名の学芸員が 11 回海外に出張をおこなった。国際的な調査や交流、また成果の幅広い発信を今後も精力的に行っていきたい。

研究部長 高橋啓一



**琵琶湖博物館業績目録 第 12 号**

2007 年度

平成 20 年（2008 年）8 月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091

電話 077-568-4811(代)

# Performance Records of the Lake Biwa Museum

No. **12** Fiscal 2007



LAKE BIWA MUSEUM

滋賀県立  
琵琶湖博物館

〒525-0001 草津市下物町1091  
TEL.077-568-4811代 FAX.077-568-4850

LAKE BIWA MUSEUM  
1091 Oroshimo,Kusatsu,  
Shiga 525-0001,Japan